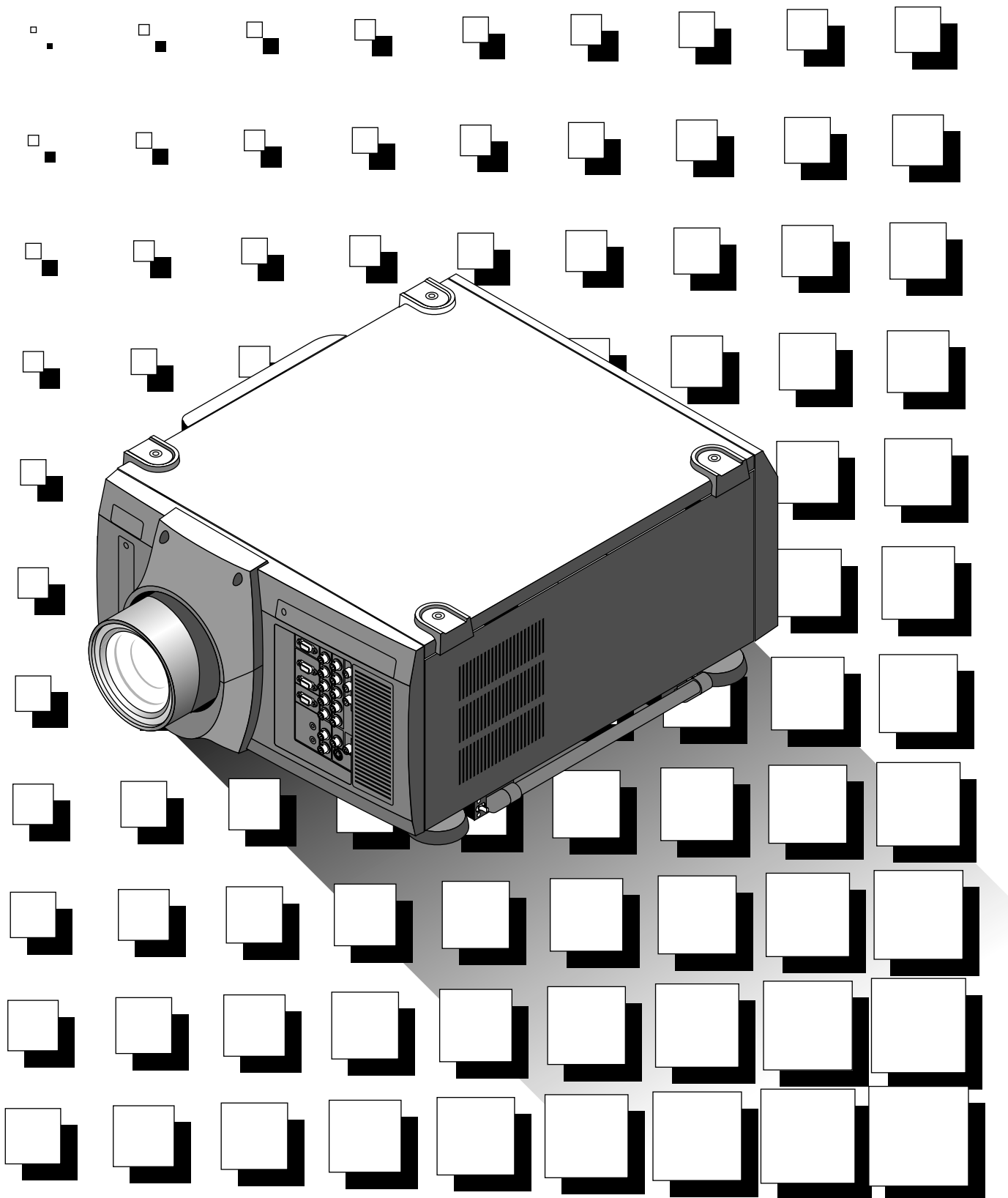


高輝度DLP™プロジェクタ

SX6000DJ/SX4000DJ

取扱説明書



この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

- *DLP (Digital Light Processing) , DMD (Digital Micromirror Device) は米国テキサスインスツルメンツ社の商標です。
- *IBM,ATは米国 International Business Machines Corporation. の登録商標です。
- *Macintoshは米国Apple Computer Inc.の商標です。
- *AccuBlendは日本電気(株)の商標です。

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
- (4) 本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では（3）項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 乱丁、落丁はお取り替えいたします。

© NEC Viewtechnology, Ltd. 2002

NECビューテクノロジー株式会社の許可なく複製・改版などを行うことはできません。

このたびはNEC 高輝度DLP™プロジェクタをお買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前に、本機の機能を十分生かしてご利用いただくために、この「取扱説明書」を最後までお読みください。

お読みになったあとは、「保証書」・「NECフィールディング株式会社 支店・営業所所在地一覧表」とともに、いつでも見られる所に大切に保存してください。万一、ご使用中にわからないことや不具合が生じたときにお読みください。

ご使用の前に

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡や大けがをするなど人身事故の原因となります。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたる周囲の家財に損害をあたえたりすることがあります。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）をうながすことを表しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号はしてはいけないことを表しています。
図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号はしなければならないことを表しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

必ず守ってください

⚠ 警告

水場や水にぬれるような所には置かない



水ぬれ禁止

次のような水にぬれるようなおそれがある所では使用しないでください。またプロジェクタの上に水の入った容器を置かないでください。火災・感電の原因となります。

- 雨天や降雪中、海岸や水辺で使用しない
- 風呂やシャワー室で使用しない
- プロジェクタの上に花びん、植木鉢を置かない
- プロジェクタの上にコップ、化粧品、薬品を置かない

万一プロジェクタの内部に水などが入った場合は、まず本体のPOWERスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

次のようなところでは使用しない



次のようなところでは使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- ぐらついた台の上、傾いた所など、不安定な場所
- 暖房の近くや振動の多い所
- 湿気やほこりの多い場所
- 油煙や湿気の当たるような場所
- 調理台や加湿器のそば

天吊りの設置について



- 天吊りなど特別な工事が必要な機種の設置につきましては、販売店にご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。転倒してけがの原因となります。
- 販売店および設置業者は、落下防止のための施工はプロジェクタの質量4.3kg、レンズの質量1.0kgおよび天井取付ユニット5.2kg、総重量58.2kgに長期間十分耐え、地震にも十分耐えるように行ってください。
- プロジェクタを縦に置いたり、立てたまま輸送しないでください。転倒してけがの原因となります。
- 天井にスタック設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。

プロジェクタのレンズをのぞかない



レンズをのぞかない

- プロジェクタのレンズをのぞかないでください。動作中は強い光が投写されていますので、目を痛める原因となります。特にお子様にはご注意ください。

内部に物をいれない



異物挿入禁止

- プロジェクタの通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいる家庭ではご注意ください。
- 万一異物がプロジェクタ内部に入った場合は、まず本体のPOWERスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

キャビネットは絶対にあけない



分解禁止

- プロジェクタのキャビネットを外したり、あけたりしないでください。また改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- 内部の点検・調整・修理は販売店にご相談ください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない



- 雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。

ランプカバーは外さない



- 内部に高圧ランプがあります。破裂の恐れがありますので、サービスマン以外はカバーを外さないでください。

電源コードの取り扱いは大切に



電源コードは大切に取扱ってください。コードが破損すると、火災・感電の原因となります。

- コードの上に重いものをのせない
- コードをプロジェクタの下敷きにしない
- コードの上を敷物などで覆わない
- コードを傷つけない、加工しない
- コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない
- コードを加熱しない
- 添付されているもの以外の電源コードは使用しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。

故障したときは電源プラグを抜く



電源プラグを
コンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする場合やプロジェクタを落したり、キャビネットを破損した場合は、本体のPOWERスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となります。
販売店へ修理をご依頼ください。

電源プラグの刃および刃の付近の付着物とはとる



- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

ランプ寿命時間がきたらランプ交換を！



ランプ破裂注意

- 本機は高圧ランプという種類のランプを使用しており、破損および劣化により破裂することがあります。とくにランプ寿命である1500時間を超えてなお使用を続けると破裂する可能性が高くなります。
1500時間を超えると、使用時間メッセージが画面上に表示されます。この場合はすみやかに販売店またはサービスマンにランプ交換を依頼してください。
なお、ランプ破裂時にプロジェクタ側面の排気孔からガラス粒子とランプに封入されているキセノンガスの煙がでます。人体には無害ですが、万一粉塵が直接目に入った場合、こすったりせずに、流水で洗い流し、速やかに眼科医の指示に従ってください。

通風孔をふさがない



- プロジェクタの通風孔をふさがないでください。またプロジェクタの下に紙や布などの柔らかい物を置かないでください。
火災の原因となることがあります。
プロジェクタを設置する場所は周囲から適当な空間をあけてください。
目安として、20cm以上の空間をあけてください。
特に通風排気孔の前は50cm以上の空間をあけてください。

必ず守ってください

⚠ 注意

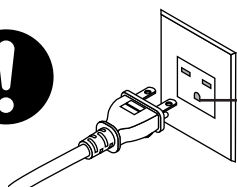
移動するときは電源コードを抜く



電源プラグを
コンセントから抜く

- 移動させる場合は、〈POWER〉スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルを外したことを確認の上、行ってください。

機器のアースは確実にとってください



コンセントのアース端子

- 本機の電源プラグはアースつき3芯プラグです。機器の安全確保のため、機器のアースは確実にとってご使用ください。詳細は31ページをご覧ください。

ぬれた手で電源プラグに触れない



ぬれた手は危険

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く



電源プラグを
コンセントから抜く

- 長期間、プロジェクタをご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

動作中にレンズキャップをしない



- 動作中にレンズに黒いふたをしないでください。ふたの部分が高温になり溶けることがあります。
- 動作中にレンズの前に金魚鉢、凸レンズ（虫眼鏡）などを置かないでください。火災の原因になることがあります。

電池の取り扱いについて



電池の取り扱いには注意してください。火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池をショート、分解、火に入れたりしない
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を入れるときは、極性（+と-の向き）に注意し、表示通りに入れる

お手入れの際は電源コードを抜く



電源プラグを
コンセントから抜く

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

点検・工事について



内部の掃除を販売店で

- 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。プロジェクタの内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部の掃除費用につきましては販売店などにご相談ください。

持ち運びのときレンズやレンズフードに手をかけない



禁止

- プロジェクタを持ち運ぶとき、レンズやレンズフードに手をかけないでください。レンズやレンズフードが外れてプロジェクタが落下し、けがの原因となります。持ち運ぶときは2人以上でキャリングハンドルを持ってください。(12ページ参照)

お願い

性能確保のため、次の点にご留意ください。

● 振動や衝撃が加わる場所への設置は避けてください

動力源などの振動が伝わる所に設置したり、車両、船舶などに搭載すると、本機に振動や衝撃が加わって内部の部品がいたみ、故障の原因となります。
振動や衝撃の加わらない場所に設置してください。

● 高圧電線や動力源の近くに設置しないでください

高圧電線、動力源の近くに設置すると、妨害を受ける場合があります。

● スクリーンへの外光対策をしてください

スクリーンには、照明など本機以外からの光が入らないようにしてください。
外光が入らないほど、ハイコントラストで美しい映像が見られます。

● 信号ケーブルは市販のフェライトコアつきのものをお使いください

それ以外のものを使用した場合、ラジオ・テレビなどへ受信妨害がでるおそれがあります。

● 持ち運びについて

本体側面のキャリングハンドルを持って2人以上で運んでください。その際、レンズに傷が付かないように必ずレンズキャップを取り付けてください。また、プロジェクタ本体には強い衝撃を与えないでください。

● 投写レンズ面は素手でさわらないでください

投写レンズ面に指紋や汚れが付くと、拡大されてスクリーンに映りますので、レンズ面には手をふれないでください。また、本機を使用されないときは、添付のレンズキャップをかぶせておいてください。

● スクリーンについて

ご使用のスクリーンに汚れ、傷、変色などが発生すると、きれいな映像が見られません。
スクリーンに揮発性のものをかけたり、傷や汚れが付かないよう取り扱いにご注意ください。

● たばこの煙やほこりの多い場所での使用

たばこの煙やほこりの多い場所で使用する場合は、あらかじめ当社にご相談ください。

● 廃棄について

本体廃棄の際は、お買いあげの販売店または、自治体にお問い合わせください。

以下のような場合は電源プラグをコンセントから絶対に抜かないでください。
機器が故障する恐れがあります。

- 「保存中…」というメッセージが表示されているとき（電源を切るとこのメッセージが出ます。）
- 電源プラグをコンセントに差し込んだ直後（POWERインジケータがオレンジ色に点灯しないとき）
- 〈POWER〉ボタンで電源を切って冷却ファンが回転している間の3分間（“—”点滅中）

目 次

はじめに

ご使用の前に	3
必ず守ってください	4
警告・注意・お願い	
特長	10
本体の名称とはたらき	11
キャリングハンドルの使いかた	12
本体操作部	13
接続端子部	14
リモコン各部のはたらき	
リモコン各部の名称	16
リモコンを使用する前に	18
リモコン乾電池の入れかた	18
リモコン有効範囲	18
ワイヤードで使うとき	19
オンスクリーンメニューを使う前に	
オンスクリーンメニューの基本操作	20
メニュー選択のしかた	20
メニューや設定・調整画面を移動する	22
設定・調整のしかた	22
オンスクリーンメニュー一覧	24

設置・調整

設置手順	28
投写距離と画面サイズ	29
適用レンズと投写距離／画面サイズ一覧	29
レンズシフト範囲（ご参考）	30
電源の接続と入／切	31
電源コード（添付）の接続	31
主電源の入／切	32
電源の入／切	32
電源を入れたときスタート画面が表示された場合	33
プロジェクタを設置調整する	34
標準的な設置調整	34
リンクモードスタック設置（ご参考）	36
特殊な設置	39

接 続

プロジェクタを単体で使用する	40
ビデオ機器との接続	40
パソコンとの接続	41
ワークステーションとの接続	42
ビデオユニット（ISS-6020J）を経由する	43
ビデオユニットを1台接続する	43
複数のビデオユニットを接続する	44
REMOTE1端子について	45
複数のプロジェクタをリモコンで操作する	46
リモコンで各々のプロジェクタをワイヤレス操作する	46
リモコンで複数のプロジェクタを同時に操作する	46
RGB DIGITAL (DVI-D) 端子を使う	47
リンクモードスタック設置の接続	47
リンク接続	47
RGBデジタル（DVI）信号接続	47

リモコン操作

基本操作	48
〈INPUT〉ボタンから入力選択	48
信号リストから直接入力選択	48
信号リストから入力選択	49
ビデオユニット（ISS-6020J）のスロット選択	49
プロジェクタの操作説明を見る	50
入力信号情報・機器情報画面を開く	50
RGB入力の画像を自動調整する	51
映像・音声・オンスクリーン表示を消去する	51
画像の拡大と移動	52
調整と設定	53
画面位置を調整する	53
画面サイズを調整する	53
フォーカス（焦点）を調整する	53
テストパターンを映す	54
上下方向台形歪みの調整	54
投写光をシャッターする	54
映像の調整	55
ホワイトバランスの調整	55
RGB信号の画素を調整する	56
表示位置と表示範囲を調整する	56
画像調整表示・機器の設定メニューを直接開く	57
リモコンのIDを設定する	57

メニュー操作

入力の選択

入力の選択（プロジェクタ単体使用時）【信号選択】	58
ビデオユニットの入力選択（ビデオユニット接続時）	
【信号選択】	58
信号リストからの入力選択【信号リスト】	59
信号リストの編集	59
文字入力のしかた	61

信号の調整

映像調整	62
映像の調整【明るさ、コントラスト、サチュレーション、	
カラー、色相、シャープネス、垂直輪郭補正】	62
ガンマ補正の選択【ガンマ補正】	62
ホワイトバランスの調整	63
色温度の調整【色温度】	63
黒レベルの調整【明るさ】	63
白レベルの調整【コントラスト】	63
信号レベルの調整【信号レベル調整】	63

画像の調整	64
画素の調整【画素調整】	64
画像の表示位置の調整【表示位置】	64
表示モードの選択【アスペクト】	65
アドバンスド・アキュブレンドの選択【解像度】	65
オーバースキャンの選択【オーバースキャン】	66
映像フィルタの設定【ビデオ帯域フィルタ】	66
ブラッキングを調整する【ブラッキング】	66

画質の調整	67
ビデオ信号のノイズを低減する【ノイズリダクション】	67
カラーマトリックスの選択【カラーマトリクス】	67
Y/Cディレイを調整する【Y/Cディレイ】	67

テレシネモードの設定【テレシネモード】	68
動き補正の選択と調整【動き補正、動き補正レベル】	68
輝度信号のトランジェント調整【YTR調整】	68
色信号のトランジェント調整【CTR調整】	68
オプション調整	69
クランプタイミングの設定【クランプタイミング】	69
コピーガード再生時の画面調整【コピーガード】	69
VDディレイの調整【VDディレイ】	69
レンズメモリ	70
レンズ調整を保存する【レンズメモリ】	70
信号形式	71
信号形式の設定【信号形式】	71
ビデオユニットの調整	71
スイッチャRGBゲインの調整【ゲイン】	71
スイッチャ音量の調整【音量】	71
機器の調整	
上下方向台形歪みの調整【台形補正】	72
ランプ出力の設定と調整【ランプモード、ランプ出力】	72
基準ホワイトバランスの調整【基準ホワイトバランス】	72
調整データのリセット	
調整データのリセット【データリセット】	73
機器設定	
タイマー	74
オン・オフタイマーの設定と動作【オン／オフタイマー】	74
スリープタイマーの設定【スリープタイマー】	75
メニュー設定	76
表示させるメニューモードの選択【メニューモード】	76
ベーシックメニューを編集する【ベーシックメニュー編集】	76
メニューの表示言語を選択【表示言語】	78
オンスクリーンの表示時間の選択【表示時間】	78
画面に表示する内容の選択【表示項目選択】	78
日付の表示形式を選択する【日付表示形式】	79
現在時刻を設定する【時刻設定】	79
セットアップ	80
プロジェクタの投写方法を選択【投写方法】	80
無信号時の背景色を選択【バックグラウンド】	80
S-ビデオモードの選択【S-ビデオモード】	80
本体操作ボタンをロックする【本体キーロック】	81
RGB端子の信号モード選択【信号選択】	81
RGB端子の同期信号の終端状態設定【同期終端状態】	82
映像信号の選択【ビデオ1／ビデオ2／S-ビデオ1／S-ビデオ2／スイッチャ】	82
画像の自動調整【自動調整（RGBのみ）】	83
RGB入力端子無信号時に電源を切る【パワーマネージメント】	83
電源を切るとき確認表示を出す	
【電源オフ確認メッセージ】	83
台形補正データを保存する【台形補正保存】	84
ビデオ信号の倍速補間【倍速補間】	84
入力信号を記憶する【ラストメモリ】	84
入力切り換え時間に画像を静止する【シームレス】	85
オートホワイト機能のOn／Off【オートホワイト】	85
レンズメモリ機能のOn／Off【レンズメモリ】	85
ユーザー名を登録する【ユーザー名】	86
通信速度の設定【通信速度】	86
プロジェクタのIDを設定する【プロジェクタID】	86
初期入力選択の設定【初期入力選択】	87

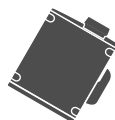
リンクモード	88
リンクモードを設定する【リンクモード】	88
スイッチャ連動モード	89
スイッチャ連動モードの設定【スイッチャ連動モード】	89
ヘルプと情報を見る	
ヘルプを見る【目次】	90
入力信号情報を見る【入力信号情報】	90
機器情報を見る【機器情報】	91
テストパターン	
テストパターンを映す【テストパターン】	92
お知らせとお願い	
故障かな？と思ったら	93
登録されている信号と、水平・垂直同期周波数が 近似した他の信号を入力した場合	94
お手入れについて	95
仕 様	96
付 録	
対応信号一覧	97
リンクモードでの調整可能機能一覧	98
レンズメモリ機能のフォーカス調整について	99
関連商品	100
SDIインターフェースボードのご紹介	100
外観図	101
保証と修理サービス（必ずお読みください）	102

説明書に記載の本体やリモコンの操作ボタン名とメニュー項目名の区別について

説明文中に〈MENU〉ボタンや〔機器設定〕など操作ボタン名称やメニューの名称にカッコを付けています。

〈 〉 …… プロジェクタ本体やリモコンの操作ボタンを表しています。

[] …… メニュー表示の項目名や調整・設定名を表しています。



本書は主にリモコンのボタンで説明しています。プロジェクタ本体とリモコンの同じボタン名称は同じ動きをしますが、本体のボタンがリモコンの動作と異なる場合は本体のマークを表記します。

特 長

■ 高輝度とコンパクト性を両立

最大で、SX6000DJは5000ANSIルーメン^{*}、SX4000DJは3500ルーメンという、高輝度・高解像度・大画面仕様でありながら、わずか43Kgの小型化を実現しました。

■ 新開発の光学エンジンによる高輝度・高精細化

光学系は、ランプから投写レンズまですべてを新規開発し、高光出力を達成。フライアイ・インテグレートを採用し、高輝度でもゆらぎのない出力を得るとともにフォーカス性も向上しています。

■ デジタル入力端子を標準装備

PC信号用デジタル入力端子を標準装備、入力からDMDTMによる出力まで一貫したデジタル化を実現。アナログ変換による信号劣化やノイズの影響を受けない、鮮明な映像を投写します。ビデオ信号も、オプションのSDIデジタルインターフェースボードにより、D1のデジタル入力が可能です。また、オプションのHDTVデジタルインターフェースボードの追加により、D5のデジタル入力が可能となりました。

■ 最大3台のスタックにより、さらなる高輝度化の追求が可能

スタック設置を考慮した設計により、3台までのスタックが可能に。最大で、SX6000DJは15,000ANSIルーメン、SX4000DJは10,500ANSIルーメンの高輝度システムが実現できます。

■ テレシネ補間信号プロセッサを搭載

デジタルシネマ時代に備え、映像をさらに美しく表示する、テレシネ補間信号プロセッサを標準搭載。入力する際、テレシネ検出により走査線補間を最適化します。これにより輪郭や細部描写まではっきり再現し、飛躍的な画質の向上を実現します。

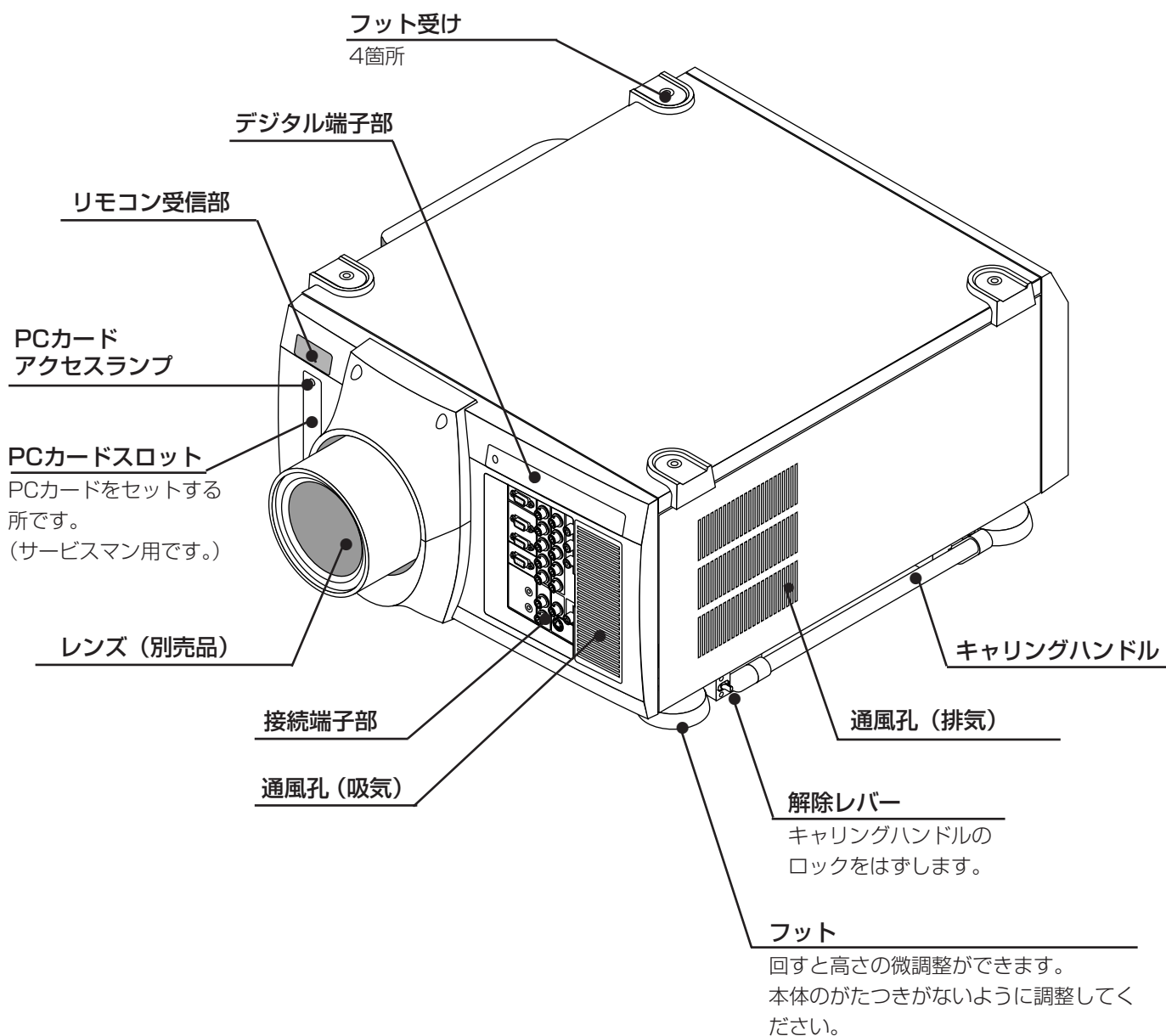
■ セットアップがより容易に

水平、垂直のレンズシフトはもちろん、ズームおよびフォーカスもリモコンでコントロールが可能に。また、入力信号ごとにあらかじめ設定しておいたレンズポジションの自動調整が可能となり、スクリーンにあわせた設置が実現しました。

上下方向台形歪み補正回路も搭載し、セットアップ作業がさらに容易になりました。

※ANSIルーメンとは、画面を9分割にしてそれぞれの中心の明るさを平均したものです。

本体の名称とはたらき



本体各部のはたらき

〈POWER〉スイッチ (主電源)

このスイッチを“|”の方へ押すと主電源が入り、スタンバイ状態になります。切るときは“○”の方へ押します。

AC INPUT端子

添付の電源コード (3芯プラグ) を接続します。接続後はワイヤーストッパーで固定します。
(31ページ参照)
(電源は交流100V~120Vまたは200V~240Vです。)

通風孔 (吸気)

本体操作部

通風孔 (吸気)

通風排気口

通風孔 (排気)

お願い

システム保護のため、主電源を切るときは、先にリモコンのPOWER 〈OFF〉 ボタンまたは本体操作部の 〈POWER〉 ボタンを押して、本機をスタンバイ状態にしてから 〈POWER〉 スイッチを切ってください。

■ キャリングハンドルの使いかた

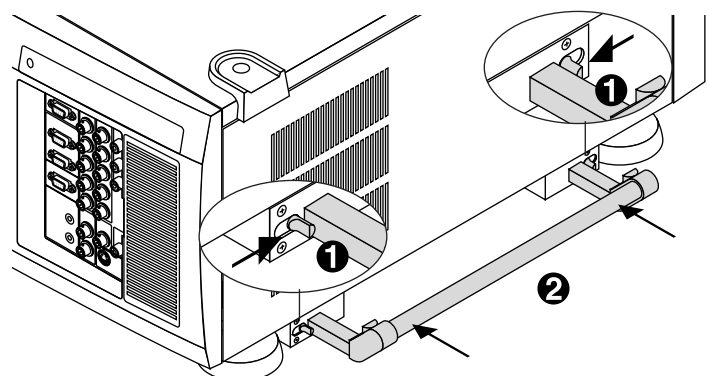
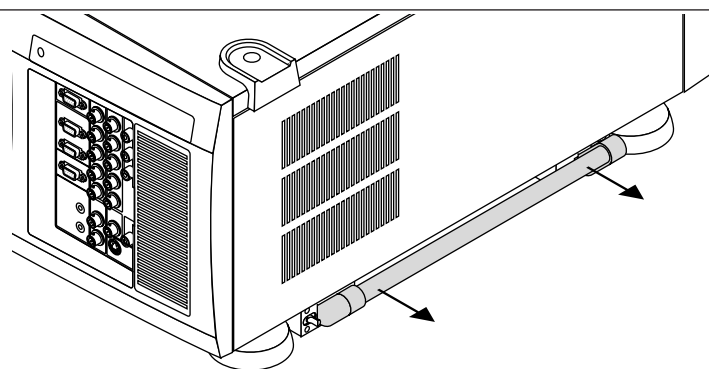
本機の質量は約43kg (レンズ含まず) あります。必ずキャリングハンドルを持って衝撃を与えないように移動してください。(キャリングハンドルは左右にあります。)

キャリングハンドルを出す

「カチッ」と手ごたえがあるまで引きます。一度押してみて完全にロックされていることを確認してください。

キャリングハンドルを入れる

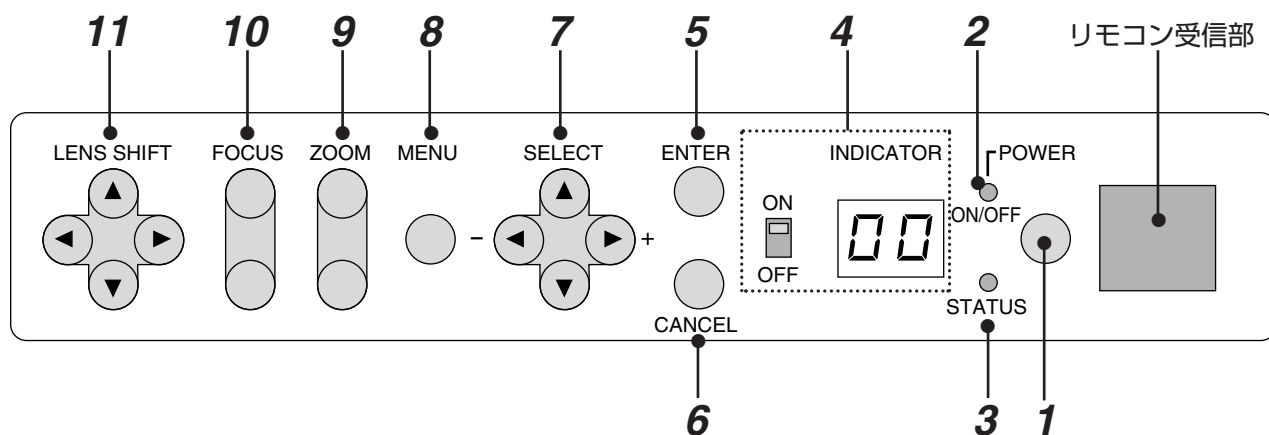
① ハンドルロックレバーを内側に押したまま (ロックが外れます) ② キャリングハンドルを押し込みます。



注意

移動は2人以上で行ってください。プロジェクタが転倒して、けがの原因となることがあります。

本体操作部



1 〈POWER〉 ボタン

スタンバイ状態（主電源がONでPOWERインジケータがオレンジ色に点灯）の時に押すと電源が入り、POWERインジケータが緑色に点灯します。
電源を切るときは2秒以上押してください。スタンバイ状態に戻ります。

2 POWERインジケータ

電源がONのときは緑色に点灯し、電源がOFF（スタンバイ状態）のときはオレンジ色に点灯します。

3 STATUSインジケータ

スタンバイ時に点滅しているときは、オンタイマープログラムが有効であることを知らせます。

4 動作表示インジケータ/スイッチ

動作表示窓：通常はプロジェクタIDを表示します。
エラーが起きた場合は、エラーコードを表示します。
動作表示窓ON/OFFスイッチ：動作表示窓の点灯/消灯を切り換えます。

5 〈ENTER〉 ボタン

メニューを表示しているときは、項目を決定します。
各種調整・設定画面を表示しているときは、調整・設定値を確定してメニュー表示に戻ります。

6 〈CANCEL〉 ボタン

メニューを表示しているときは、メニューを閉じます。
各種調整・設定画面を表示しているときは、調整・設定値を調整・設定前の状態に戻してメニュー表示に戻ります。

7 〈SELECT ▼▲◀▶〉 ボタン

メニューを表示中に、調整・設定したい項目を選択します。

8 〈MENU〉 ボタン

各調整・設定のメニューを表示します。

9 〈ZOOM +, -〉 ボタン

画面サイズを調整します。

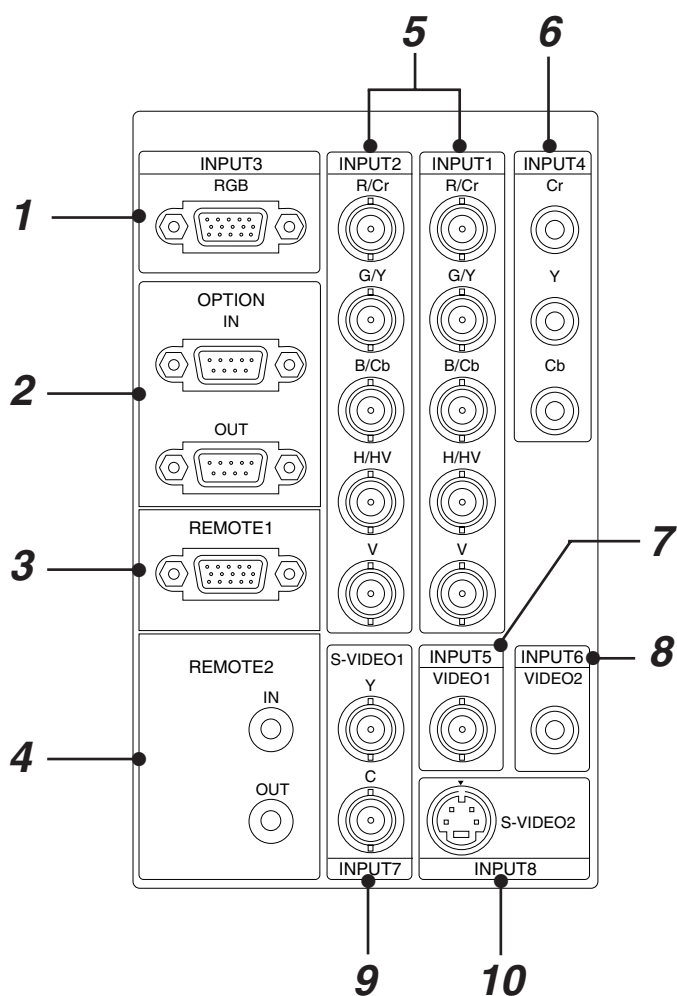
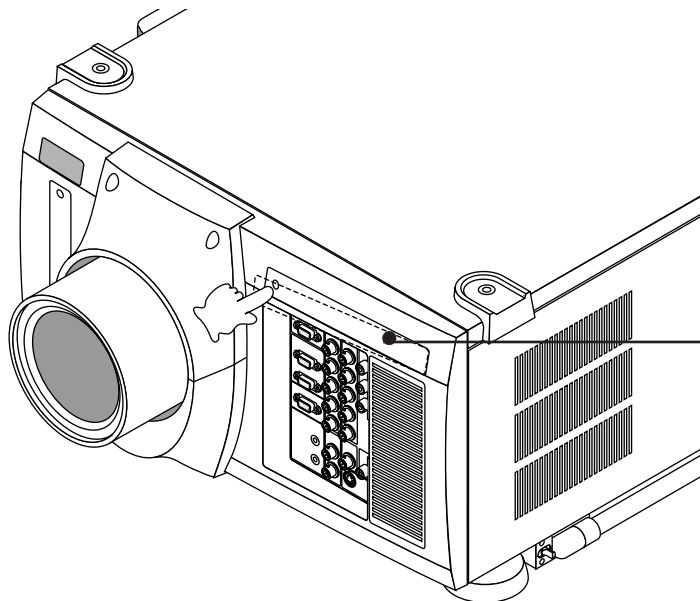
10 〈FOCUS +, -〉 ボタン

画面のフォーカス（ピント）を調整します。

11 〈LENS SHIFT ▼▲◀▶〉 ボタン

投写画面位置を上下左右に移動して、オフセットを調整します。

接続端子部



1 INPUT3 RGB 端子 (ミニD-Sub 15ピン)

パソコンまたは高精細書画カメラのアナログRGB出力と接続します。

2 OPTION 端子 (ミニD-Sub 9ピン)

システム拡張用の端子です。

IN………パソコンなどの外部制御機器と接続します。

OUT ……複数台のプロジェクタを1つの外部制御機器で操作するとき、1台目のプロジェクタのOUT端子と2台目のIN端子を接続し、以下同様に接続します。

3 REMOTE1 端子 (ミニD-Sub 15ピン)

プロジェクタからビデオユニット (ISS-6020J) を制御するときの端子です。ビデオユニットのREMOTE1端子と接続します。また、外部コントロールを使用する場合もこの端子と接続します。

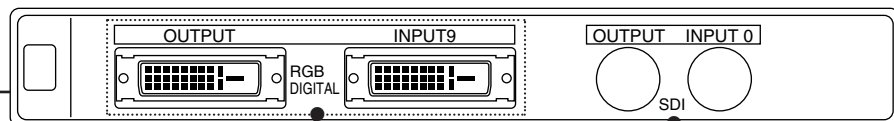
4 REMOTE2 端子 (ステレオミニ)

IN………リモコンをワイヤードで使用するときに接続します。

OUT ……IN端子に入力された信号をそのまま出力します。複数台のプロジェクタを1つのリモコンで操作するとき、1台目のプロジェクタのこのOUT端子と2台目のプロジェクタのIN端子を接続し、以下同様に接続します。

パネルのあけかた

パネルの左端を押すと少し出ます。そのまま取りはずしてください。



11

別売のXT SDIボードまたはSX HDSDIボード装着時用の端子穴です。本プロジェクトにはSDI（Serial Digital Interface）信号を入力するためのオプションボード（別売）を用意しています。詳細は100ページをご覧ください。

5 INPUT1／INPUT2 端子 (BNC)

R／Cr, G／Y, B／Cb, H／HV, V 入力端子
外部機器（ビデオユニットなど）のR, G, B, H（水平同期信号）およびV（垂直同期信号）出力端子と接続します。外部機器がSYNC（複合同期信号）端子の時は、H／V入力端子と接続してください。また、DVDプレーヤなどのコンポーネント出力端子と接続します。INPUT2端子は、スイッチャ連動モードには対応していません。

6 INPUT4 Cr／Y／Cb 端子 (RCAフォノ)

コンポーネント（Y,Cb,Cr／Y,Pb,Pr）信号専用の入力端子です。DVDプレーヤなどのコンポーネント出力端子と接続します。

7 INPUT5 VIDEO1 端子 (BNC)

外部機器（ビデオデッキなど）のBNCタイプの映像出力端子と接続します。

8 INPUT6 VIDEO2 端子 (RCAフォノ)

外部機器（ビデオデッキなど）のRCAタイプの映像出力端子と接続します。

9 INPUT7 S-VIDEO1 端子 (BNC)

外部機器（ビデオデッキなど）のY／C分離のBNCタイプの映像出力端子と接続します。

10 INPUT8 S-VIDEO2 端子 (ミニDIN-4P)

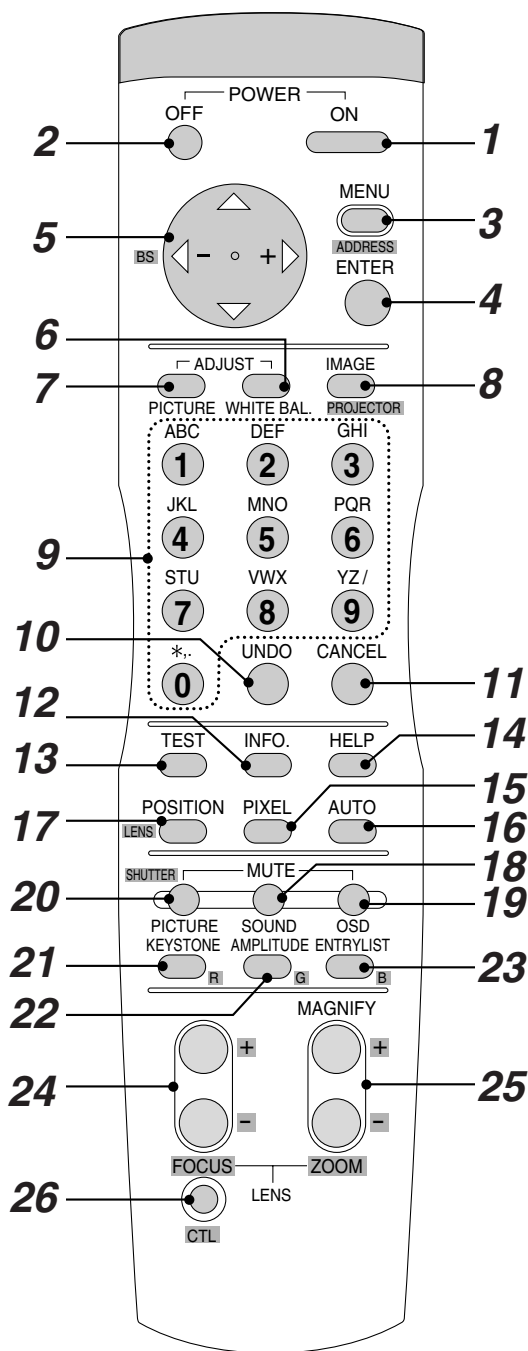
外部機器（S端子付ビデオデッキなど）のS映像出力端子と接続します。

11 RGBデジタル入出力端子 (DVI-D 24P) 【SX6000DJのみ】

リンク接続の際に使用する入出力端子です。添付のDVI-Dケーブルで1台目のOUTPUT 端子と2台目の INPUT 端子を接続し、さらに2台目の OUTPUT 端子と3台目の INPUT 端子を接続します。

リモコン各部のはたらき

リモコン各部の名称



1 POWER 〈ON〉 ボタン

スタンバイ状態（主電源がONでPOWERインジケータがオレンジ色に点灯）の時に押すと電源が入り、POWERインジケータが緑色に点灯します。

2 POWER 〈OFF〉 ボタン

電源をOFF（スタンバイ状態）にします。2秒以上押してください。

3 〈MENU〉 ボタン

各調整・設定のメニューを表示します。

〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、リモコンのIDを変更できます。（57ページ参照）

4 〈ENTER〉 ボタン

メニューを表示している場合は、項目を選択します。

各種調整・設定画面を表示している場合は、調整値・設定を確定してメニュー表示に戻ります。

5 〈SELECT ▼▲◀▶〉 ボタン

メニュー操作に使用します。

また、メニューや調整・設定画面を表示中に〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、メニューや調整・設定画面を移動できます。

〈CTL〉 ボタンを押しながら ◀ ボタンを押すと、文字入力を1文字削除します。画面拡大中は画面を移動します（52ページ参照）。

6 〈ADJUST WHITE BAL.〉 ボタン

ホワイトバランスに関する調整画面を表示します。

押すごとに各調整画面を順次表示し、調整可能となります。（入力信号によっては表示しないものもあります）（55ページ参照）

7 〈ADJUST PICTURE〉 ボタン

映像調整に関する各調整画面を表示します。

押すごとに各調整画面を順次表示し、調整可能となります。

（入力信号によっては表示しないものもあります）（55ページ参照）

8 〈IMAGE〉 ボタン

画像調整に関する各設定画面を表示します。

押すごとに各調整画面を順次表示し、調整可能となります。（入力信号によっては表示しないものもあります）（57ページ参照）

〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、機器設定に関する各設定画面を表示します。

押すごとに各設定を順次表示し設定可能となります。（57ページ参照）

9 〈INPUT〉 ボタン

INPUT端子の選択やパスコード入力などの数字入力に使用します。

〈1〉 ボタン

INPUT1 RGBHV/Y, Cb/Pb, Cr/Pr 入力端子を選択します。

〈2〉 ボタン

INPUT2 RGBHV/Y, Cb/Pb, Cr/Pr 入力端子を選択します。

〈3〉 ボタン

INPUT3 RGB入力端子を選択します。

〈4〉 ボタン

INPUT4 Y, Cb/Pb, Cr/Pr 入力端子を選択します。

〈5〉 ボタン

INPUT5 VIDEO1 入力端子を選択します。

〈6〉 ボタン

INPUT6 VIDEO2 入力端子を選択します。

〈7〉 ボタン

INPUT7 S-VIDEO1 入力端子を選択します。

〈8〉 ボタン

INPUT8 S-VIDEO2 入力端子を選択します。

〈9〉 ボタン

INPUT9 D-IF (Panel link) 入力端子を選択します。

〈0〉 ボタン

INPUT10 D-IF (SDI) 入力端子を選択します。

10 〈UNDO〉 ボタン

調整・設定値を直前の状態に戻します。

〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、メニューや調整・設定画面をすべて閉じます。調整・設定値はその時点で保存されます。

ただし、[確定]・[取消] ボタンのある画面での調整・設定値は保存されません。

11 〈CANCEL〉 ボタン

調整・設定画面を終了します。

調整・設定画面を表示しているときに〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、調整・設定画面を消さずに1つ前のメニューに戻ります。これにより、複数の調整・設定を平行して行うことができます。

12 〈INFO.〉 ボタン

入力信号情報／機器情報の画面を表示します。

13 〈TEST〉 ボタン

画面をテストパターンに切り換えます。押すごとに内蔵のテストパターンを順次切り換えて表示します。

14 〈HELP〉 ボタン

ヘルプ画面を表示します。

15 〈PIXEL〉 ボタン

画素調整画面を表示します。

16 〈AUTO〉 ボタン

表示位置、クロック周波数などを最適な状態に自動調整します。(RGB入力のみ)

お知らせ：クロック位相は調整されません。

17 〈POSITION〉 ボタン

表示位置／ブランキング調整の画面を表示します。押すごとに両調整画面が切り換わります。

〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、レンズシフト調整画面を表示します。

18 〈MUTE SOUND〉 ボタン

音声を一時的に消します (ISS-6020J、IPS4000と連動で使用したときのみ)。

もう一度押すと戻ります。

19 〈MUTE OSD〉 ボタン

入力表示やオンスクリーンメニューを一時的に閉じます。入力切り換えなどのボタン操作をしたり、もう一度このボタンを押すと戻ります。

〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、非表示で調整ができます。(51ページ参照)

20 〈MUTE PICTURE〉 ボタン

映像を一時的に消します。もう一度押すと戻ります。

〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、光シャッター機能が有効になります。

21 〈KEYSTONE〉 ボタン

台形補正調整画面を表示します。

22 〈AMPLITUDE〉 ボタン

(サービスマン用です。動作しません。)

23 〈ENTRY LIST〉 ボタン

信号リスト画面を表示します。

24 〈FOCUS+, -〉 ボタン

〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、レンズフォーカスを調整できます。

25 〈MAGNIFY+, -〉/ZOOM 〈+, -〉ボタン

映している画面のサイズを拡大・縮小(元に戻す)します。(52ページ参照)

〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、レンズズームを調整できます。

26 〈CTL〉 ボタン

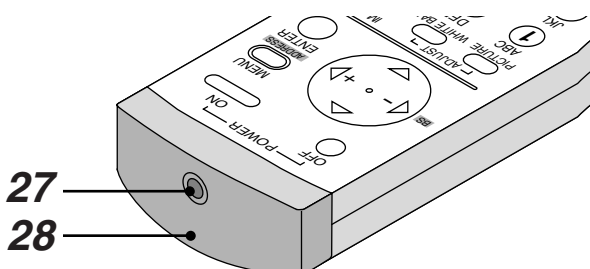
他のボタンと併用するための複合機能ボタンです。

27 リモコンケーブル接続端子

リモコンをワイヤード(有線)で使用するとき、リモコンケーブルを接続します。

28 赤外線発光部

リモコンのボタンを押すと赤外線の手号が手出します。

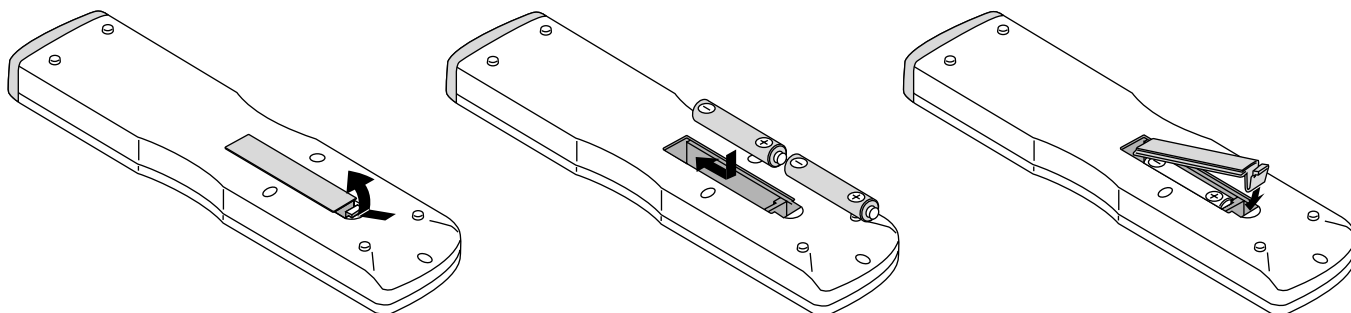


リモコンを使用する前に

■ リモコン乾電池の入れかた

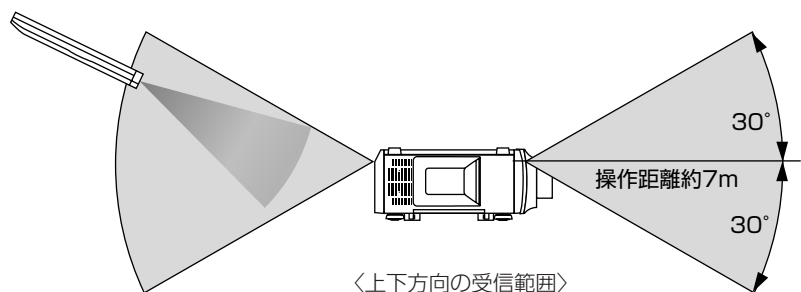
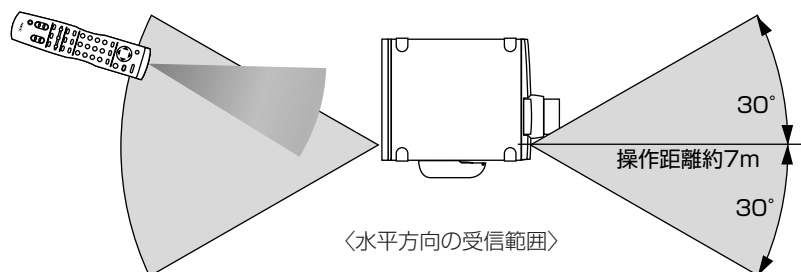
交換用乾電池は単四乾電池を2個お買い求めください。

- 1 ふたのつめを押しながらあけてはずします。
- 2 ケース内の表示にしたがって電池の(－)側が奥になるようにして、電池を2個入れます。
- 3 ふたをもと通りに戻します。



■ リモコン有効範囲

本体のリモコン受信部に向けてリモコンを操作してください。



お知らせ

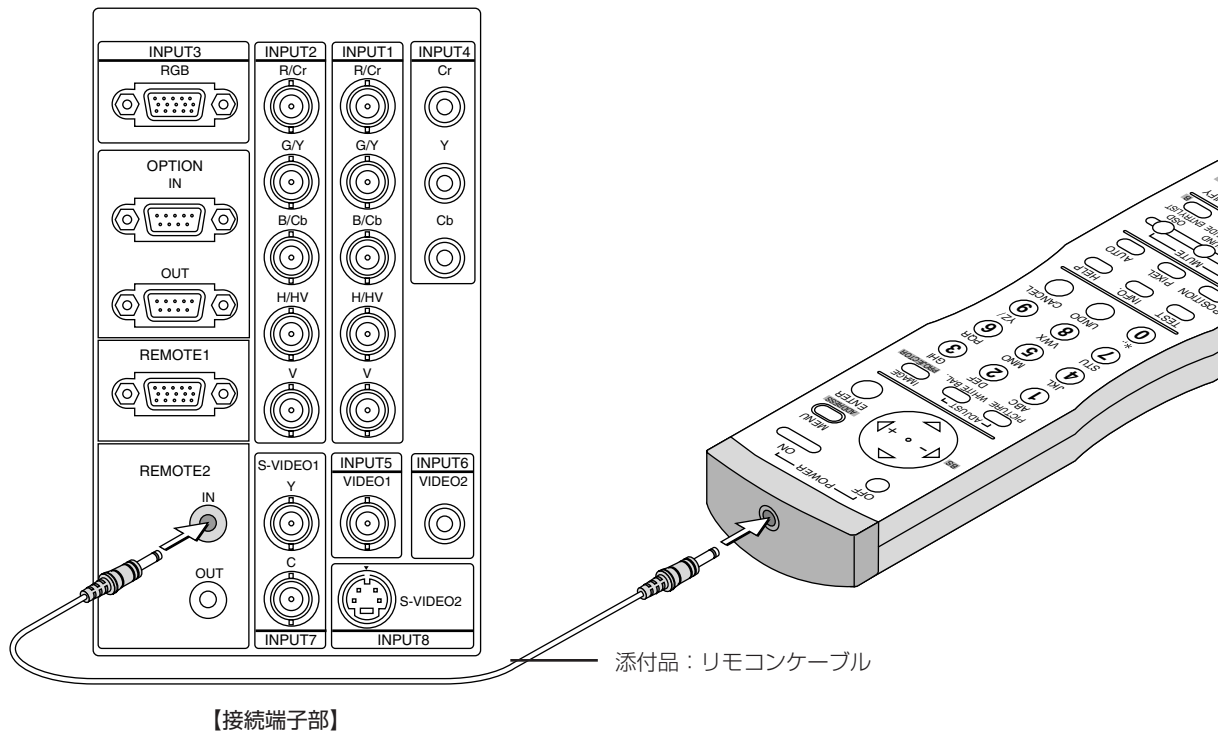
リモコンIDが「なし」(0を入力)または、プロジェクタIDとリモコンIDが同じ番号になっていないと、リモコンで本機を操作することはできません。

リモコンID設定は57ページ、プロジェクタID設定は86ページをご覧ください。

■ワイヤードで使うとき

本体のリモコン受信部とリモコンの間に遮へい物などがあるときや、有効範囲外でリモコン操作するときはワイヤード（有線）でご使用ください。

本機を複数台接続してリモコン操作する場合は46ページをご覧ください。



お願い

リモコン使用上のお願い

- 本体のリモコン受信部やリモコンの発信部に明るい光が当たっていたり、途中で障害物があって信号がさえぎられていると動作しません。
- ワイヤレスでご使用のときは、本体から約7m以内で本体のリモコン受信部に向けて操作してください。

リモコンの取扱について

- リモコンを落としたり、誤った取り扱いはしないでください。
- リモコンに水や液体をかけないでください。万一ぬれた場合は、すぐにふき取ってください。
- できるだけ熱や湿気のないところで使用してください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、乾電池を取り出してください。

オンスクリーンメニューを使う前に

- 本機はワールド対応のため出荷時のオンスクリーンメニューは英語になります。はじめて電源を入れたときはスタート画面が表示されますので、[日本語] に設定してください。(33ページ参照)

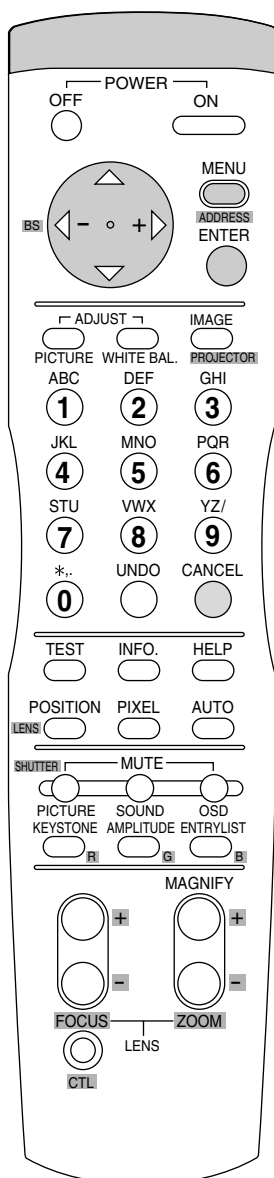
プロジェクタの調整や設定項目はたくさんあります。目的の調整や設定がすばやくできるように目次を設けて、その中からしぼりこんで探して行く方法をメニュー操作と呼び、画面上に表示しているメニューをオンスクリーンメニューと言います。本機は2モードメニューです。*

- アドバンスドメニュー ……すべてのメニュー項目を表示します。
- ベーシックメニュー ……お客様独自のメニュー項目を表示します。工場出荷時は基本的なメニュー項目が登録されています。登録内容を変えるには、76ページ「ベーシックメニューを編集する」をご覧ください。

* サービスマンメニューはサービスマン専用メニューです。

オンスクリーンメニューの基本操作

- メニュー操作の選択や確定などのしかたを説明しています。メニュー操作中わからなくなった場合をご覧ください。オンスクリーンメニューの基本操作はアドバンスドメニューで説明しています。工場出荷時状態のベーシックメニューも使いかたは同じです。
- 入力信号や接続により、調整／設定できる項目が異なります。調整／設定できない項目は、オンスクリーンメニューで白文字表示となり、選択することはできません。



■ メニュー選択のしかた

1 メニューを表示する

〈MENU〉ボタンを押します。



アドバンスドメニュー

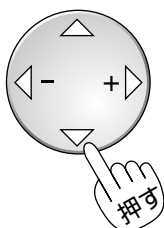
- 信号選択 ▶
- 信号調整 ▶
- 機器調整 ▶
- データリセット
- 機器設定 ▶
- ヘルプ ▶
- テストパターン

- 〈CANCEL〉ボタンを押すと消えます。
- オンスクリーン表示時間は[機器設定] → [メニュー設定] → [ページ1] の[表示時間] で選択できます。(78ページ参照)

2 メニュー項目を選ぶ

〈SELECT ▼/▲〉ボタンを押すとカーソルが出ます。

〈SELECT ▼/▲〉ボタンでカーソルを移動して、メニュー項目を選択します。



カーソル

サブメニュー

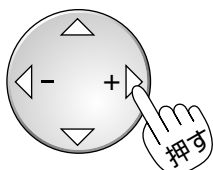
アドバンスドメニュー	
信号選択	▶
信号調整	▶
機器調整	▶
データリセット	
機器設定	▶
ヘルプ	▶
テストパターン	

映像調整	▶
ホワイトバランス	▶
画像	▶
画質調整	▶
オプション調整	▶
レンズメモリ	
信号形式	
スイッチャ	▶

- [▶] のあるメニュー項目はサブメニューがあることを示します。カーソルを合わせるとサブメニューを表示します。
- [▶] のない項目は〈ENTER〉ボタンを押すと調整画面／設定画面の表示に変わります。(SELECT <▶> ボタンを押しても調整画面／設定画面に変わります。)
- 白文字の項目は選択できません。

3 サブメニューの項目を選ぶ

〈SELECT ▶〉ボタンを押すとサブメニューのタイトルが青色に変わります。



青色を確認してから〈SELECT ▼/▲〉ボタンでサブメニュー項目を選択します。

さらに [▶] のある項目は第2サブメニューを表示します。

サブメニューに移すとグレーに変わります。

ここが青色のとき選択できます。

アドバンスドメニュー		
信号選択	▶	
信号調整	▶	映像調整 ▶
機器調整	▶	ホワイトバランス ▶
データリセット	▶	画像 ▶
機器設定	▶	画質調整 ▶
ヘルプ	▶	オプション調整 ▶
テストパターン		レンズメモリ ▶
		信号形式 ▶
		スイッチャ ▶
		明るさ
		コントラスト
		サチュレーション
		カラー
		色相
		シャープネス
		垂直輪郭補正
		ガンマ補正

4 項目の調整／設定画面を出す

〈ENTER〉ボタンを押すとメニュー項目の設定や調整画面に変わります。



【調整表示例】明るさ



調整／設定画面の選択のしかたは次ページをご覧ください。

- 〈SELECT ▶〉ボタンを押しても同じ動作をします。

調整／設定が終わりましたら〈ENTER〉ボタンを押します。調整値／設定値を確定してメニュー表示に戻ります。[確定] ボタンがある設定画面は[確定] にカーソルを合わせてから〈ENTER〉ボタンを押します。

5 メニュー表示を閉じる

調整や設定終了後は、メニュー表示に戻ります。



〈CANCEL〉ボタンを押すとメニューが閉じます。押すごとに、サブメニュー、メニューと閉じます。

アドバンスドメニュー	
信号選択	▶
信号調整	▶
機器調整	▶
データリセット	▶
機器設定	▶
ヘルプ	▶
テストパターン	
	映像調整 ▶
	ホワイトバランス ▶
	画像 ▶
	画質調整 ▶
	オプション調整 ▶
	レンズメモリ ▶
	信号形式 ▶
	スイッチャ ▶

ベーシックメニューを表示しているとき

ベーシックメニューをアドバンスドメニューに一時的に変えるには……

〈SELECT ▼/▲〉ボタンで [アドバンスドメニューへ] を選択してから〈ENTER〉ボタンを押してください。

再び〈MENU〉を押したときはベーシックメニューに戻ります。

次からもアドバンスドメニューを表示するようにするには、[メニューモード] の設定を [アドバンスド] に変更してください。(76ページ参照)

ベーシックメニュー	
信号選択	▶
明るさ	
コントラスト	
画素調整	
表示位置	
アドバンスドメニューへ	

※ このメニュー表示は工場出荷時のベーシックメニューの項目です。

CANCEL メニューを表示しているときの〈CANCEL〉ボタンと〈ENTER〉ボタンのはたらき



〈CANCEL〉ボタン …… メニューを閉じます。

ENTER



〈ENTER〉ボタン …… 項目を選択します。

オンスクリーンメニューを使う前に

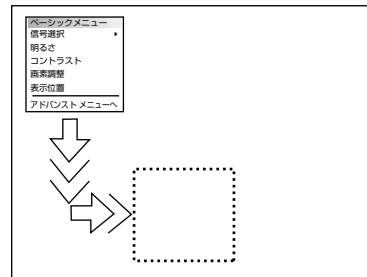
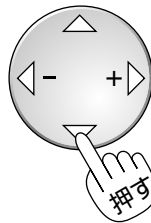
■ メニューや設定・調整画面を移動する

メニューや調整・設定画面の移動ができます。

〈CTL〉 ボタンを押しながら 〈SELECT〉 ボタンを押します。

調整にじまな場合は 〈CTL〉 ボタンを押しながら 〈MUTE OSD〉 ボタンを押すと、調整・設定画面が閉じます。

(51ページ参照)



■ 設定・調整のしかた

【調整表示例】

〈SELECT ◀ / ▶〉 ボタンで調整します。

図の [明るさ] 調整表示例では

〈SELECT ◀〉 ボタンを押し続けると画面が暗くなります (調整バーが短くなります)。

〈SELECT ▶〉 ボタンを押し続けると画面が明るくなります (調整バーが長くなります)。

いくつも項目のある調整表示での項目の選択は 〈SELECT ▼ / ▲〉 ボタンで選択してください。

【調整表示例】



調整バー

標準調整の位置のときのみ緑色になります。(標準調整がある場合)

【設定表示例 1】

項目の選択は 〈SELECT ▼ / ▲〉 ボタンで行います。

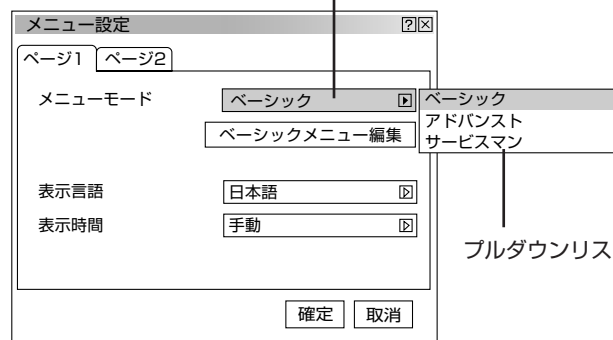
押すごとにカーソルが次の項目に移ります。

プルダウン選択

〈SELECT ▶〉 ボタンを押すとプルダウンリストを表示します。

〈SELECT ▼ / ▲〉 ボタンで内容を選択し 〈ENTER〉 ボタンを押します。プルダウンリストが閉じて選択されます。

【設定表示例 1】



カーソル

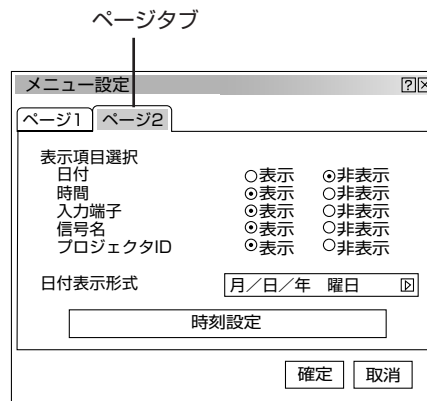
プルダウンリスト

ページタブ

数ページの設定項目がある場合に表示されます。

〈SELECT ▼ / ▲〉 ボタンを数回押してページタブにカーソルを合わせます。

〈SELECT ◀ / ▶〉 ボタンで目的のページにカーソルを合わせるとページが切り換わります。

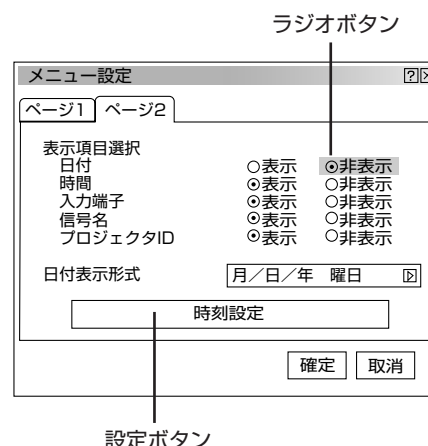


ページタブ

【設定表示例 2】

ラジオボタンの選択

どれか1つが選択できる設定がラジオボタン (●) です。
カーソルがラジオボタン選択の項目に移ると現在設定されている内容にカーソルが移動します。
〈SELECT ◀/▶〉 ボタンで目的の内容にカーソルを合わせると同時に(●) のラジオボタンが付きます。



設定ボタン

ボタンを押すとさらに設定表示が出ます。
〈SELECT ▼/▲〉 ボタンで項目を選択します。

チェックボックス

いくつも選択できる設定がチェックボックスです。
〈SELECT ▼/▲〉 ボタンを押してチェック項目にカーソルを合わせます。設定したい箇所まで 〈ENTER〉 ボタンを押すとチェックマーク (✓) が入ります (チェックマークが入っている場合は消えます)。

確定ボタン

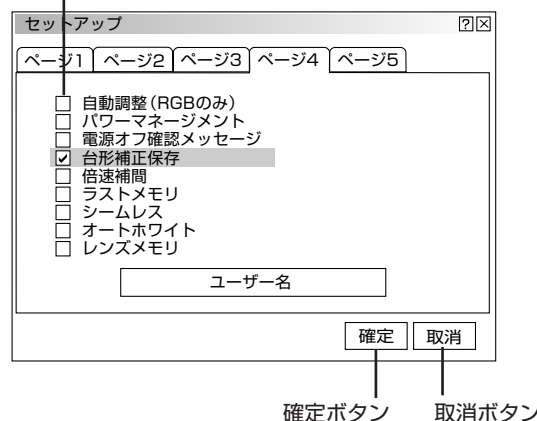
設定内容を確定する場合に使います。
SELECT ◀/▶ ボタンを数回押してカーソルを「確定」に合わせ、〈ENTER〉 ボタンを押すと設定内容を確定し、メニュー表示に戻ります。

取消ボタン

設定内容を取り消す場合に使います。
SELECT ◀/▶ ボタンを数回押してカーソルを「取消」に合わせ 〈ENTER〉 ボタンを押すと設定内容を取り消しメニュー表示に戻ります。
〈CANCEL〉 ボタンを押しても同じ動作をします。

【設定表示例 2】

チェックボックス



調整／設定画面を表示しているときの〈CANCEL〉 ボタンと〈ENTER〉 ボタンおよび〈UNDO〉 ボタンののはたらき

CANCEL



〈CANCEL〉 ボタン

調整値を調整前の状態に戻してメニュー表示に戻ります。

ENTER



〈ENTER〉 ボタン

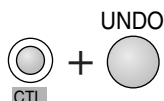
調整値／設定値を確定してメニュー表示に戻ります。

UNDO



〈UNDO〉 ボタン

調整値／設定値を直前の状態に戻します。



〈CTL〉 ボタンを押しながらこのボタンを押すと、メニューや調整・設定画面をすべて閉じます。調整・設定値はその時点で保存されます。
ただし、[確定]・[取消] ボタンのある画面での調整・設定値は保存されません。

オンスクリーンメニューを使う前に

オンスクリーンメニュー一覧

オンスクリーンメニューのアドバンスメニュー内容の一覧です。
目的の項目がどこにあるか知りたいときにご覧ください。

信号によっては調整や設定ができない項目があります。その場合はメニュー項目が白文字になります。

【プロジェクト単体使用時】（58ページ参照）

✓RGB1	INPUT 1端子
RGB2	INPUT 2端子
RGB3	INPUT 3端子
コンポーネント	INPUT 4端子
ビデオ1	INPUT 5端子
ビデオ2	INPUT 6端子
S-ビデオ1	INPUT 7端子
S-ビデオ2	INPUT 8端子
RGB (デジタル)	INPUT 9端子
SDI	INPUT 10端子
信号リスト	

アドバンスメニュー	
信号選択	▶
信号調整	▶
機器調整	▶
データリセット	▶
機器設定	▶
ヘルプ	▶
テストパターン	▶

(26ページへ)

映像調整	▶
ホワイトバランス	▶
画像	▶
画質調整	▶
オプション調整	▶
レンズメモリ	▶
信号形式	▶
スイッチャ	▶

明るさ	—
コントラスト	—
サチュレーション	—
カラー	—
色相	—
シャープネス	—
垂直輪郭補正	—
ガンマ補正	—

色温度	—
明るさ	—
コントラスト	—
信号レベル調整	—

画素調整	—
表示位置	—
アスペクト	—
解像度	—
オーバースキャン	—
ビデオ帯域フィルタ	—
ブランキング	—

ノイズリダクション	—
カラーマトリクス	—
Y/Cディレイ	—
テレシネモード	—
動き補正	—
動き補正レベル	—
YTR調整	—
CTR調整	—

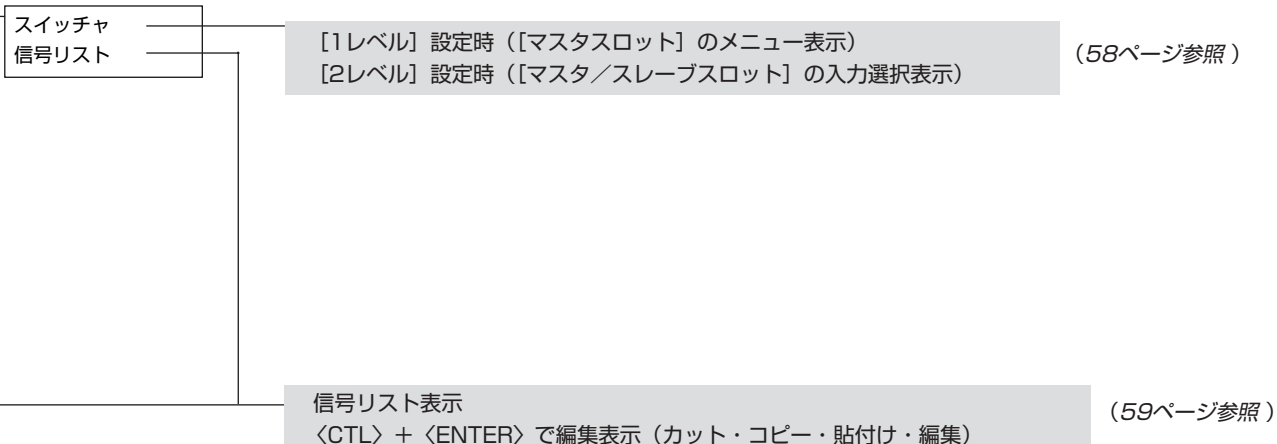
クランプタイミング	—
コピーガイド	—
VDディレイ	—

リファレンス/カスタム	(70ページ参照)
RGB/コンポーネント	(71ページ参照)

ゲイン	—
音量	—

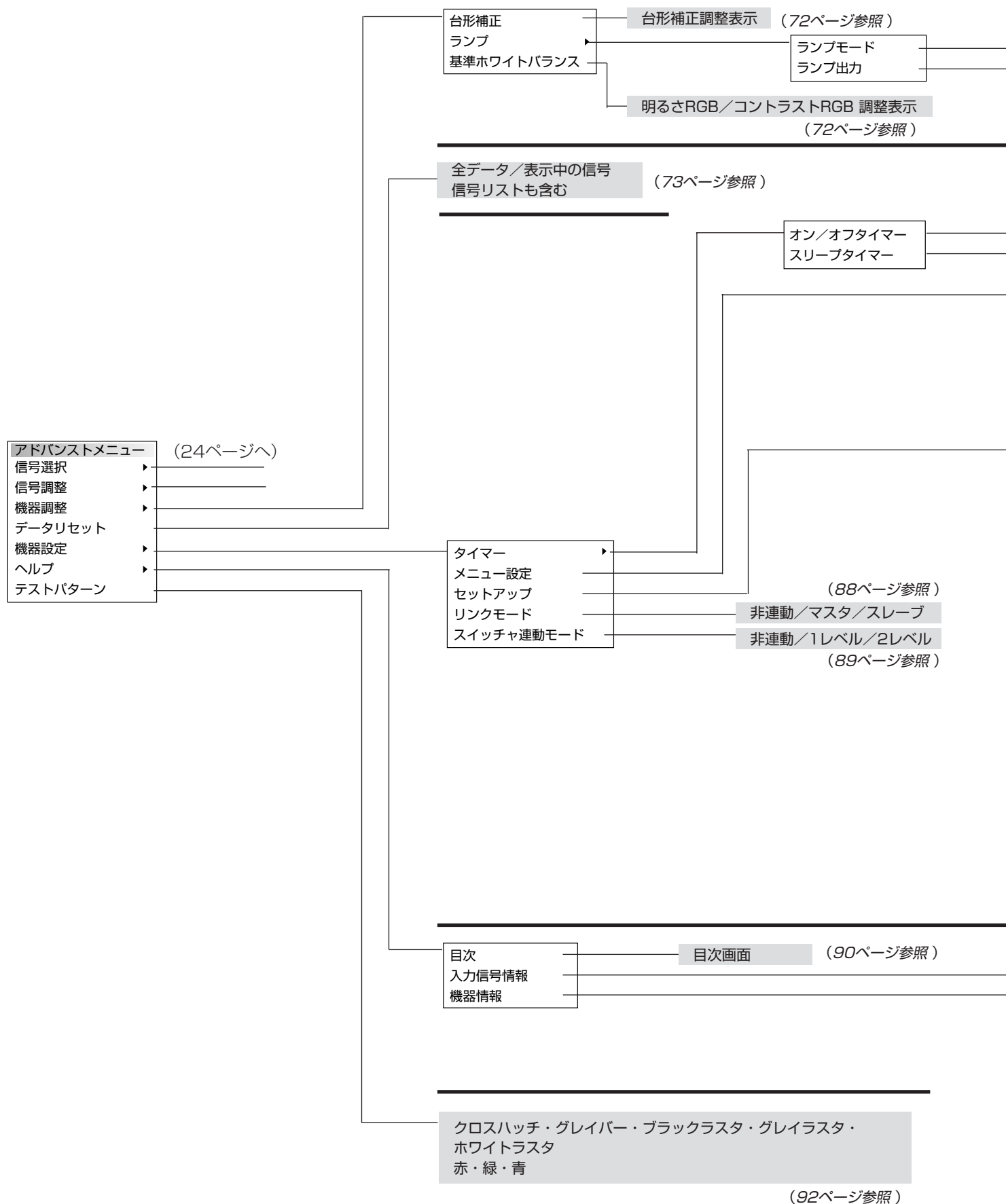
は調整表示や設定表示の内容を示します。

【ビデオユニットと接続しスイッチャ連動モード設定時】



明るさ 調整表示	(62ページ参照)
コントラスト 調整表示	(62ページ参照)
サチュレーション 調整表示	(62ページ参照)
カラー 調整表示	(62ページ参照)
色相 調整表示	(62ページ参照)
シャープネス 調整表示	(62ページ参照)
垂直輪郭補正 調整表示	(62ページ参照)
NTSC, Graphics, Graphics NTSC, PAL/SECAM 2.8, PAL/SECAM, ナチュラル1, ナチュラル2	(62ページ参照)
色温度調整表示	(63ページ参照)
明るさRGB 調整表示	(63ページ参照)
コントラストRGB 調整表示	(63ページ参照)
RGB信号入力時：赤／緑／青 調整表示	(63ページ参照)
ビデオ・コンポーネント信号入力時：Y／Cb／Cr 調整表示	(63ページ参照)
クロック周波数／位相 調整表示	(64ページ参照)
水平／垂直 調整表示	(64ページ参照)
入力信号 (1.25 : 1 / 1.33 : 1 / 1.78 : 1 / 1.85 : 1 / 2.35 : 1)	(65ページ参照)
表示領域 (1.25 : 1 / 1.33 : 1 / 1.78 : 1 / 1.85 : 1 / 2.35 : 1)	(65ページ参照)
フル／リアル	(65ページ参照)
0%／5%／10%／25%	(66ページ参照)
ビデオ帯域フィルタ調整表示	(66ページ参照)
動作／非動作 上端／下端 調整表示	(66ページ参照)
輝度信号 (オフ／弱／中／強)	(67ページ参照)
色信号 (オフ／弱／中／強)	(67ページ参照)
マトリクス選択 (HDTV／SDTV)	(67ページ参照)
マトリクスタイプ (B-Y / R-Y, U/V, Cb/Cr, Pb/Pr, IVX)	(67ページ参照)
Y／Cディレイ調整表示	(67ページ参照)
Auto／Off	(68ページ参照)
静止画／動画	(68ページ参照)
動き補正レベル調整表示	(68ページ参照)
YTR調整表示	(68ページ参照)
CTR調整表示	(68ページ参照)
自動／3値／フロントポーチ／微調整	(69ページ参照)
コピーガード 調整表示	(69ページ参照)
VDディレイ調整表示	(69ページ参照)
赤／緑／青 調整表示	(71ページ参照)
音量調整表示	(71ページ参照)

オンスクリーンメニューを使う前に



は調整表示や設定表示の内容を示します。

【SX4000DJ】	自動/可変/ロングライフ	(72ページ参照)
【SX6000DJ】	自動/高輝度モード/可変/ロングライフ	(72ページ参照)
	ランプ出力調整表示	(72ページ参照)

動作切換 (動作/非動作)	(74ページ参照)
編集	(74ページ参照)
残り時間	(75ページ参照)
登録時間 (オフ/0:30/1:00/1:30/2:00)	(75ページ参照)
ページ1	メニューモード (ベーシック/アドバンスト/サービスマン) (76ページ参照)
	ベーシックメニュー編集 (76ページ参照)
	表示言語 (English / Deutsch / Français / Italiano / Español / Svenska / 日本語) (78ページ参照)
	表示時間 (手動/自動5秒/自動10秒/自動30秒) (78ページ参照)
ページ2	表示項目選択 (日付, 時間, 入力端子, 信号名, プロジェクトID 各々 表示/非表示) (78ページ参照)
	日付表示形式 (月/日/年, 月/日/年 曜日, 日/月/年, 日/月/年 曜日, 年/月/日, 年/月/日 曜日) (79ページ参照)
	時刻設定 (79ページ参照)
ページ1	投写方法 (デスク/フロント / 天吊り/リア / デスク/リア / 天吊り/フロント) (80ページ参照)
	バックグラウンド (ブルーバック/ブラックバック/ロゴ) (80ページ参照)
	S-ビデオモード (Off/S2) (80ページ参照)
	本体キーロック (有効/無効) (81ページ参照)
ページ2	信号選択 RGB1 (自動判別/RGB/コンポーネント) (81ページ参照)
	RGB2 (自動判別/RGB/コンポーネント)
	同期終端状態 RGB1 (Hi-Z/75Ω) (82ページ参照)
	RGB2 (Hi-Z/75Ω)
ページ3	信号選択 ビデオ1 (自動判別/NTSC3.58/NTSC4.43/PAL/PAL60/SECAM) (82ページ参照)
	ビデオ2 (自動判別/NTSC3.58/NTSC4.43/PAL/PAL60/SECAM)
	S-ビデオ1 (自動判別/NTSC3.58/NTSC4.43/PAL/PAL60/SECAM)
	S-ビデオ2 (自動判別/NTSC3.58/NTSC4.43/PAL/PAL60/SECAM)
	スイッチャ (自動判別/NTSC3.58/NTSC4.43/PAL/PAL60/SECAM)
ページ4	自動調整 (RGBのみ)、パワーマネージメント、電源オフ確認メッセージ、台形補正保存、倍速補間、ラストメモリ、シームレス、オートホワイト、レンズメモリ 各々 On/Off (83~85ページ参照)
	ユーザー名 (ユーザー名登録表示) (86ページ参照)
ページ5	通信速度 (4800/9600/19200/38400) (86ページ参照)
	プロジェクトID (無効/有効: 1~64) (86ページ参照)
	初期入力選択 (ラスト/指定) (87ページ参照)
	単体使用時 (RGB1/RGB2/RGB3/コンポーネント/ビデオ1/ビデオ2/S-ビデオ1/S-ビデオ2/RGB (デジタル)/SDI)
	スイッチャ [1レベル] 設定時 (スロット1~10)
	スイッチャ [2レベル] 設定時 (M-01 S-01 ~ M-10 S-10)

ページ1	信号名/入力端子/登録番号/水平同期周波数/垂直同期周波数/同期極性	(90ページ参照)
ページ2	信号形式/ビデオ標準/同期形態/インターレース/解像度/ダイレクトキー設定	
ページ3	アスペクト (入)/アスペクト (表)/ガンマ補正/ノイズリダクション (輝)/ノイズリダクション (色)/カラーマトリクス/マトリクスタイプ	
ページ1	ユーザー名/シリアルナンバー/ランプ使用時間/機器使用時間/プロジェクトID	(91ページ参照)
ページ2	バージョン情報 (BIOS/ファームウェア/データ/サブCPU)	
ページ3	フォーマット (CPU/PROM/プリズム) FPGA (OSD/JOE)	
ページ4	リンクモード (マスタ・スレーブ)	

設置・調整

設置手順

プロジェクタは大画面スクリーンに映像を映す投写機器です。このため、スクリーンの位置決めをし、映像を出力する機器をプロジェクタに接続する必要があります。

1 設置場所^{*1}と画面サイズを決め、別売品のレンズユニットとスクリーンを用意する

設置場所とスクリーン間の距離、画面サイズにより別売のレンズユニットをお買い求めください。
 (「投写距離と画面サイズ」29ページ参照、「特殊な設置」39ページ参照)

^{*1} ズームレンズは水平±15°でを使用することをお勧めします。

2 レンズユニットを本体に取り付ける

レンズはTL-08SFのショートフォーカスレンズユニットとTL-1Z, TL-1ZH, TL-1ZX, TL-1ZHX, TL-2Z, TL-2ZX, TL-4Zのズームレンズユニットを別売で用意しています。(取り付け方法はレンズユニットの説明書をご覧ください。)

3 電源コードを接続する

電源コード(添付)の接続(31ページ参照)

主電源の入/切、電源の入/切(32ページ参照)

電源を入れたときスタート画面が表示された場合(33ページ参照)

4 プロジェクタを設置調整をする

標準的な設置調整(34ページ参照)

リンクモードスタックの設置調整(36ページ参照)

5 機器を接続する

プロジェクタを単体で使用する(40ページ参照)

ビデオユニット(ISS-6020J)を経由する(43ページ参照)

複数のプロジェクタをリモコンで操作する(46ページ参照)

RGB DIGITAL 端子を使う(47ページ参照)

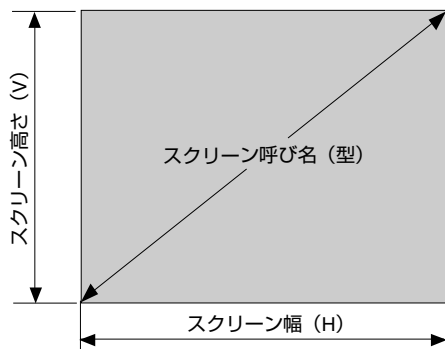
6 機器の設定やメニュー設定をする

機器設定(74ページ参照)

投写距離と画面サイズ

■適用レンズと投写距離／画面サイズ一覧

目的の画面サイズとスクリーンやプロジェクタの設置位置およびレンズ選択の目安にお使いください。



●スクリーン呼び名と寸法表

画面サイズ	スクリーン幅 H (m)	スクリーン高さ V (m)
80型	1.588	1.270
100型	1.984	1.588
150型	2.977	2.381
200型	3.969	3.175
250型	4.961	3.969
300型	5.953	4.763
400型	7.938	6.350
500型	9.922	7.938

スクリーン呼び名と画面寸法の計算法

スクリーン幅 H (m) = 画面サイズ × 5 / 6.4 × 0.0254

スクリーン高さ V (m) = 画面サイズ × 4 / 6.4 × 0.0254

画面サイズからの投写距離算出法

TL-08SFレンズユニットの投写距離 = $H \times 0.84$ (m)

TL-1Z / 1ZH / 1ZX / 1ZHXレンズユニットの投写距離 = $H \times 1.5 \sim H \times 2.5$ (m)

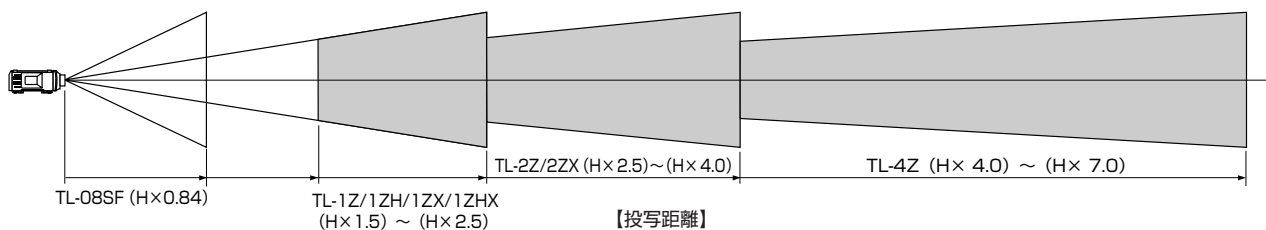
TL-2Z / 2ZXレンズユニットの投写距離 = $H \times 2.5 \sim H \times 4.0$ (m)

TL-4Zレンズユニットの投写距離 = $H \times 4.0 \sim H \times 7.0$ (m)

レンズユニットTL-1Zを使用して300型スクリーンに映す場合の投写距離

スクリーン呼び名と寸法表より $H = 5.953\text{m}$ となります。

投写距離は $5.953 \times 1.5 \sim 5.953 \times 2.5$ 計算すると $8.93 \sim 14.88\text{m}$ となります。(ズームレンズのため)



画面サイズ	80型	100型	150型	200型	250型	300型	400型	500型
TL-08SF	1.3	1.7	2.5	3.3	4.2	5.0	6.7	8.3
TL-1Z/1ZH/ 1ZX/1ZHX	2.4~3.9	3.0~4.9	4.5~7.4	6.0~9.9	7.5~12.4	9.0~14.8	12.0~19.8	14.9~24.8
TL-2Z/2ZX	4.0~6.3	5.0~7.9	7.5~11.9	10.0~15.8	12.5~19.8	14.9~23.8	19.9~31.7	24.9~39.6
TL-4Z	6.4~11.1	8.0~13.8	12.0~20.8	15.9~27.7	19.9~34.7	23.9~41.6	31.8~55.5	39.7~69.4

単位 (m)

お知らせ

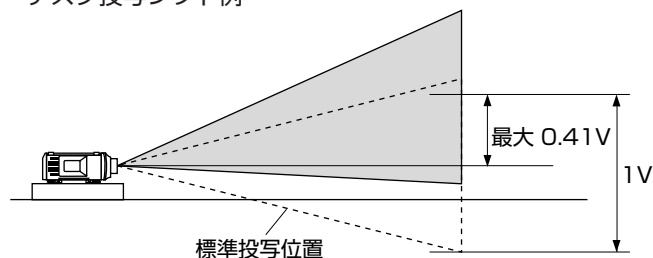
- 設計値のため、±5%の誤差があります。
- 画面サイズが80型から500型で投写距離が表にないときは、上記の計算式から求めてください。

■ レンズシフト範囲（ご参考）

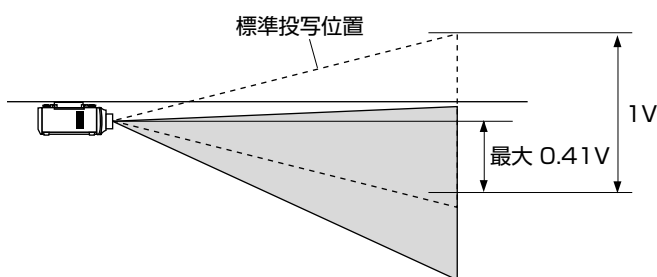
本機にはレンズシフト機能があります。次の範囲内のレンズシフトができます。
デスク投写、天吊り投写、プロジェクタを積み重ねて投写するときの調整に使用します。

【ズームレンズ】

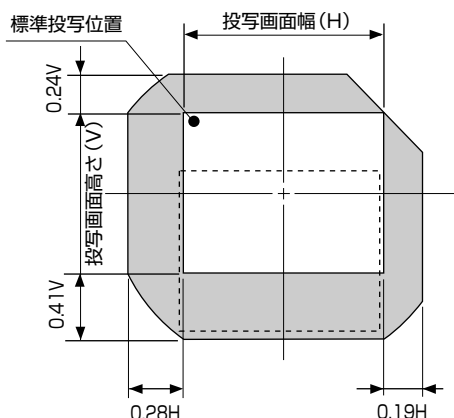
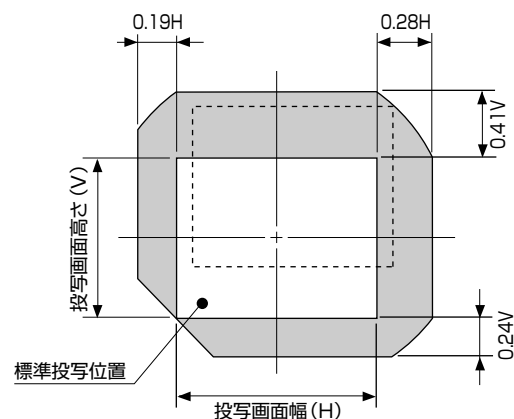
デスク投写シフト例



天吊り投写シフト例

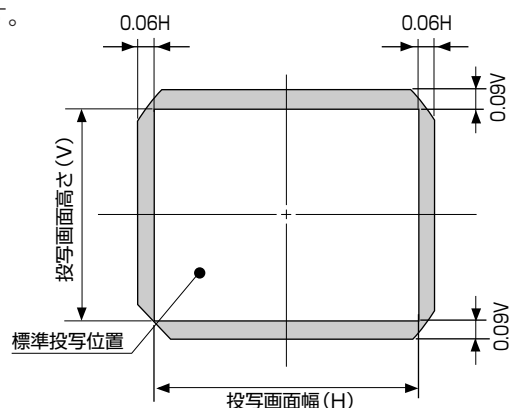
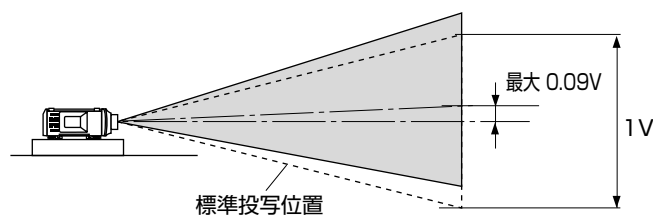


スタック投写シフト例



【固定レンズ 型名TL-08SF】

画面の歪みを抑えるためにオフセットは0度に設定することをお薦めします。



お願い

- 高温または低温になる場所には設置しないでください。（使用温度：5℃～35℃）
- 直接スクリーンに日光や照明の光が当たらないように設置してください。スクリーンに周囲の光が当たると、白っぽく、見にくい画面になります。

電源の接続と入／切

■ 電源コード（添付）の接続

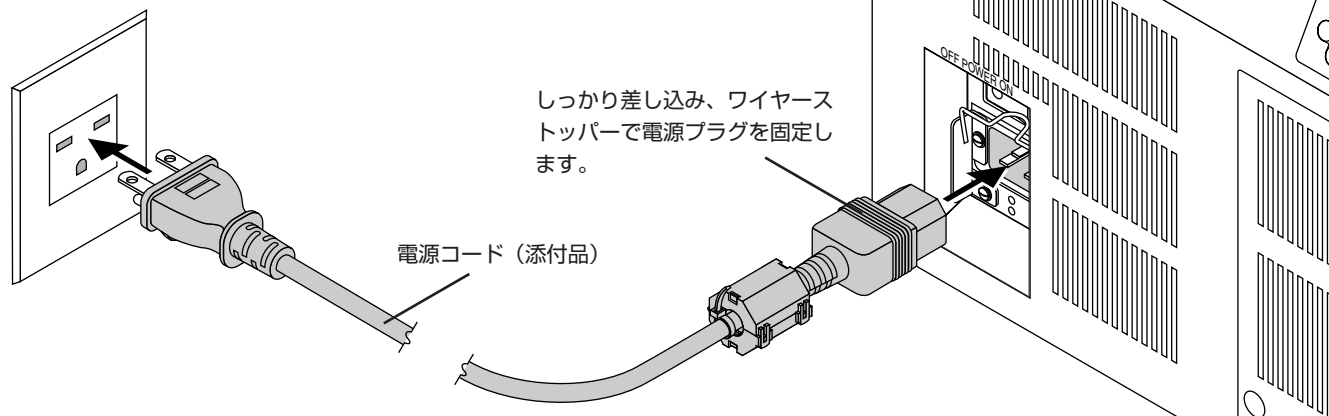
〈POWER〉スイッチがOFFになっていることを確認してから、プロジェクタのAC INPUTとAC 100V アース付の3芯コンセント（アース工事済み）と添付の電源コードで接続します。

本機の電源プラグはアース付3芯プラグです。アース付き（アース工事済み）3芯コンセントに差し込んでください。



機器の安全確保のため、機器のアースは確実にとってご使用ください。
感電の原因となりますので、アース工事は専門業者にご依頼ください。

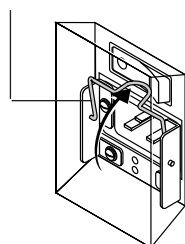
3芯電源コンセント
(電源は交流100V～120V
または200V～240Vです。)



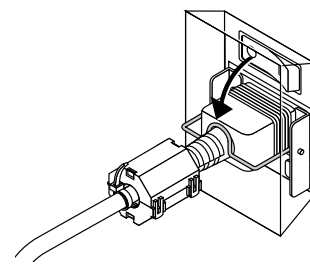
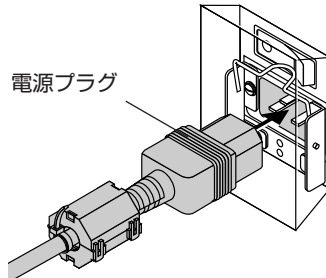
電源プラグ固定のしかた（電源プラグ抜け防止のため必ず行ってください。）

- 1 ワイヤーストッパーを上げる
- 2 電源プラグを差し込む
- 3 ワイヤーストッパーを下げて電源プラグを固定する

ワイヤーストッパー



電源プラグ



お願い

以下のような場合は電源プラグをコンセントから絶対に抜かないでください。
機器が故障するおそれがあります。

- 「保存中...」というメッセージが表示されているとき（電源を切るとこのメッセージが出ます。）
- 電源プラグをコンセントに差し込んだ直後（POWERインジケータがオレンジ色に点灯しないとき）
- 〈POWER〉ボタンで電源を切って冷却ファンが回転している間の3分間（“—”点滅中）

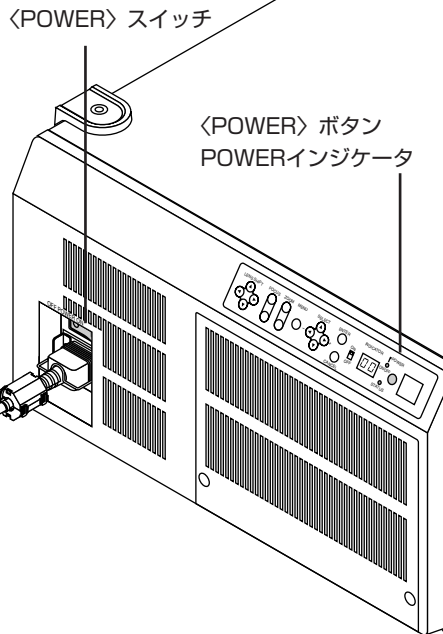
設置・調整

■主電源の入／切

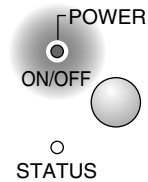
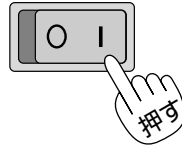
主電源を入れるとき

〈POWER〉スイッチの「I」側を押します。

POWERインジケータがオレンジ色に点灯しスタンバイ状態（待機）になります。



OFF POWER ON

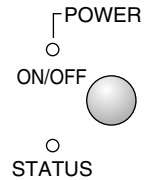
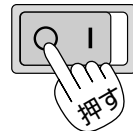


主電源を切るとき

〈POWER〉スイッチの「O」側を押します。

POWERインジケータが消えます。

OFF POWER ON



お願い

冷却ファン回転中は主電源を切らないでください。

システム保護のため、はじめにリモコンのPOWER 〈OFF〉 ボタンまたは本体操作部の 〈POWER〉 ボタンを押して、本機をスタンバイ状態にしてから主電源を切ってください。

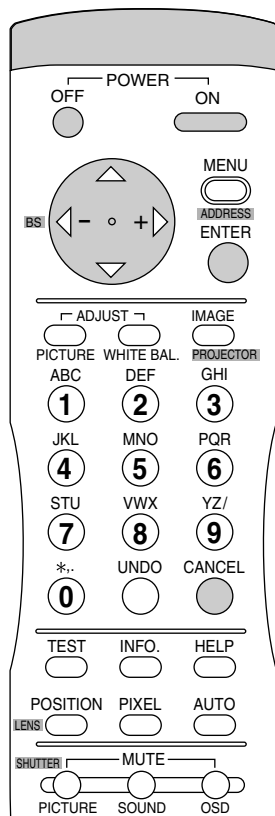
■電源の入／切

電源を入れるとき

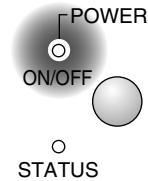
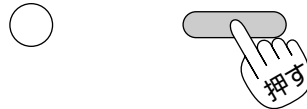
POWER 〈ON〉 ボタンを押すとPOWERインジケータの点灯が緑色に変わり電源が入ります。

しばらくすると（約30秒）スクリーンが明るくなります。信号が入力されていないとき工場出荷時は青い画面が表示されます（ブルーバック）。

- ご購入後はじめて電源を入れた場合はスタート画面が表示されます。詳しくは次ページをご覧ください。



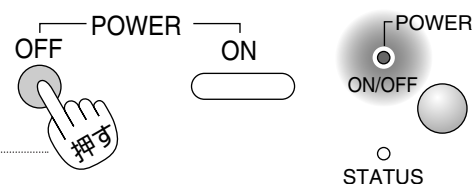
OFF POWER ON



〈POWER〉ボタンを押すと電源が入ります。

電源を切るとき

POWER 〈OFF〉 ボタンを2秒以上押し続けると「保存中...」というメッセージが表示され、しばらくすると電源が切れPOWERインジケータがオレンジ点灯に変わりスタンバイ状態になります。



〈POWER〉 ボタンを2秒以上押し続けると電源が切れます。

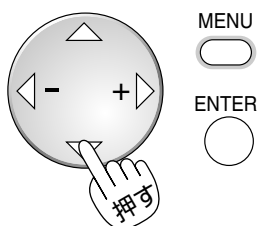
- ファン回転中は本体にある動作表示インジケータの表示（—）が3分間点滅します。
- 電源を切っても冷却ファンが約3分間回転します。この間は再び電源を入れることはできません。

■ 電源を入れたときスタート画面が表示された場合

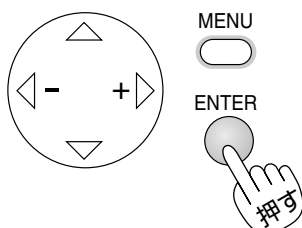
ご購入後、はじめて電源を入れたときはスタート画面が表示されます。以下の手順に従って、プロジェクトの表示言語を選択してください。

なお、映像がぼやけている場合は、フォーカスを調整して画面のピントを合わせてください。（35ページ参照）

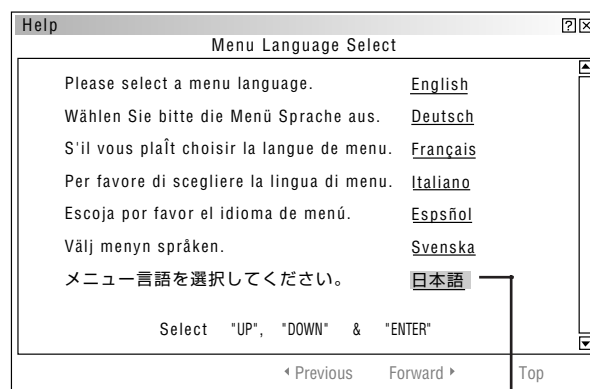
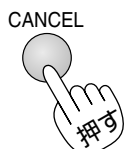
- (1) 〈SELECT ▼〉 ボタンを押して緑色のカーソルを「日本語」に合わせます。



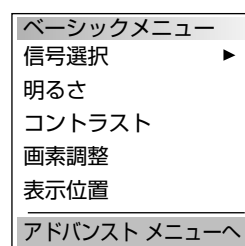
- (2) 〈ENTER〉 ボタンを押して決定します。
選択した言語でメニューが表示されます。



- (3) メニューを消すには 〈CANCEL〉 ボタンを押します。



カーソル



お知らせ

電源を入れたとき

- 電源ON後、ランプが安定して点灯するまで（3～5分）に映像がちらつく場合があります。これはランプの特性上発生するもので、故障ではありません。

電源が入らないとき

- 内部温度が高くなっていませんか。内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待ってから電源を入れてください。
- ランプの寿命がきた場合は電源が入りません。

プロジェクタを設置調整する

プロジェクタやスクリーンなどを固定工事する場合は、仮設置の状態ですべての設置調整を行ってください。
目的のスクリーンサイズと設置位置が調整範囲内にあることを確認してから、本工事に移ってください。

■標準的な設置調整

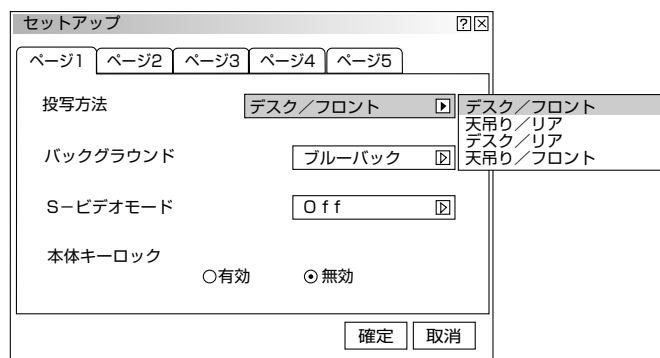
準備：レンズキャップを外し、プロジェクタの電源を入れます。（32ページ参照）

スクリーンに映し出されるまで約30秒かかります（ランプ照度が安定するまで）。

1 設置に合わせた投写方法を設定する

メニューの〔機器設定〕→〔セットアップ〕→〔ページ1〕
の設定画面で目的の投写方法を選択します。（80ページ参照）

- 工場出荷時は〔デスク／フロント〕に設定されています。

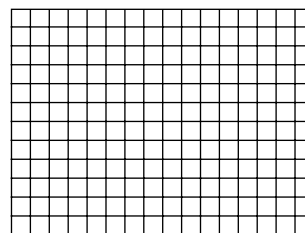


2 テストパターンを映す

リモコンの〈TEST〉ボタンを押すと表示します。（54ページ参照）



メニューの〔テストパターン〕でも表示します。（92ページ参照）

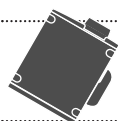
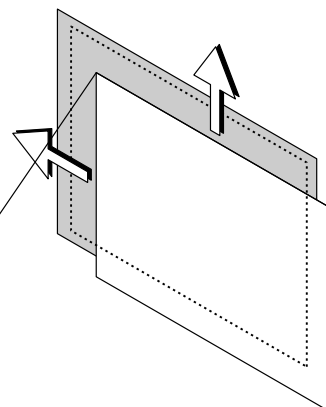
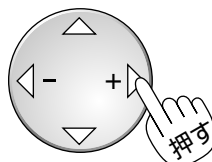
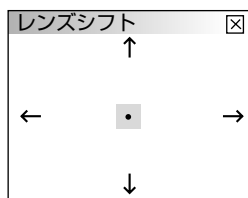
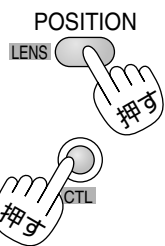


3 投写画面の位置と画面の大きさを調整する

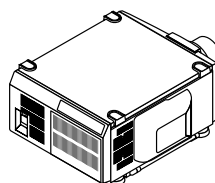
1) 〈CTL〉ボタンを押したまま〈POSITION〉ボタンを押してレンズシフト表示を出します。

〈SELECT ▼▲◀▶〉ボタンで画面の上下左右の位置を調整します。

レンズシフト表示を閉じるには〈CANCEL〉ボタンを押します。



〈LENS SHIFT ▼▲◀▶〉ボタンを押すと移動します。

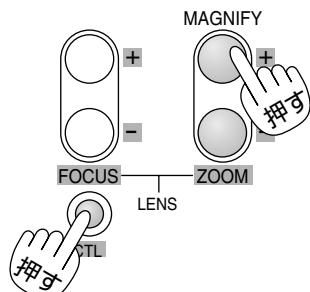


レンズシフト範囲はご使用のレンズユニットによって異なります。（30ページ参照）

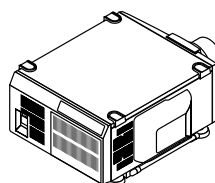
警告

◯ ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

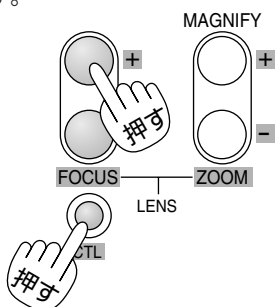
- 2) 〈CTL〉 ボタンを押したまま 〈ZOOM +, -〉 ボタンを押して画面サイズを調整します。



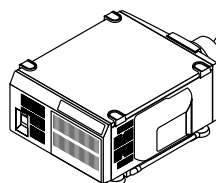
〈ZOOM +, -〉 ボタンで直接画面サイズが変わります。



- 3) 〈CTL〉 ボタンを押したまま 〈FOCUS +, -〉 ボタンを押してフォーカス（焦点）を合わせます。

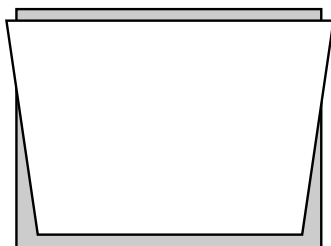


〈FOCUS +, -〉 ボタンで直接フォーカスが変わります。

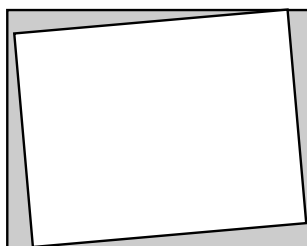


これで、設置調整が終わりました。

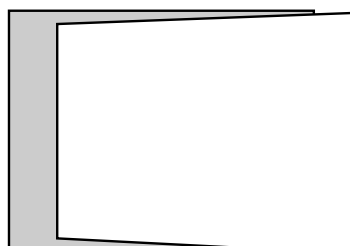
【その他の設置調整例】



この場合はリモコンの〈KEYSTONE〉ボタンまたはメニューの「台形補正」で調整できます。テストパターンおよびブルーバック表示中は台形補正調整はできません。



この場合はプロジェクタの投写面とスクリーンの向きがずれています。スクリーンまたはプロジェクタを水平および直角に配置してください。



お知らせ

画面サイズの異なる信号を投写して、レンズシフト、フォーカス、ズームを調整し「カスタム」で保存すると、その信号を入力したときはレンズメモリ機能により保存された調整値で投写されます。使いかたは70ページをご覧ください。

お願い

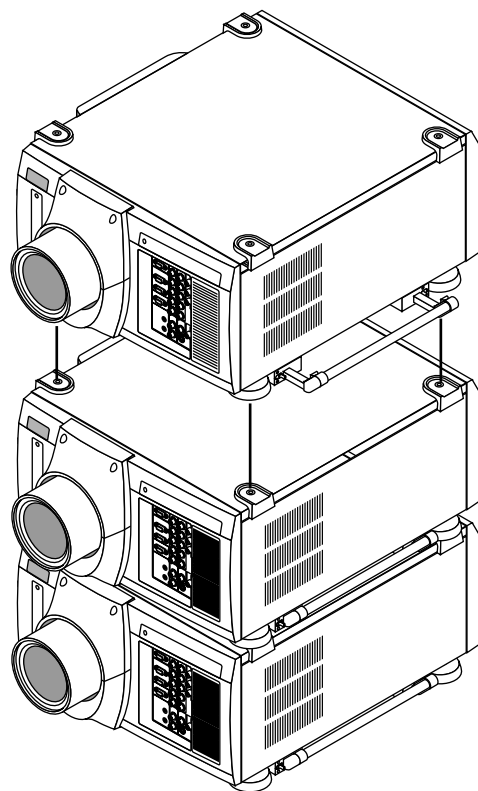
- 高温または低温になる場所には設置しないでください。（使用温度：5℃～35℃）
- 直接スクリーンに日光や照明の光が当たらないように設置してください。スクリーンに周囲の光が当たると、白っぽく、見にくい画面になります。

リンクモードスタック設置 (ご参考)

本機を2段、3段と積み重ねて使用することにより、最大でSX6000DJは15,000ANSIルーメン、SX4000DJ（アナログリンクのみ対応）は10,500 ANSIルーメンの高輝度の画面にすることができます。3台まで積み重ねることができます。また、各プロジェクタのリンク設定をすることにより、マスタ（親）プロジェクタのみの操作でスレーブ（子）プロジェクタも同時に調整することができます。

お願い

- 設置や調整はサービスマンにご依頼ください。
- スタック設置の設置場所や構造物は、プロジェクタの質量に長期間十分に耐えうる強度を確保してください。
プロジェクタの質量は1台約43kg（レンズ含まず）です。
- レンズは同じものを使用してください。
- ランプ寿命のときはランプを同時に取り替えてください。
- 2人以上でキャリングハンドルを持って積み重ねてください。
- 地震などによる転倒防止対策を十分に施してください。
- プロジェクタを数台使用すると高温になります。室内の温度管理も十分に対応してください。
- プロジェクタは同一方向に設置してください。レンズ同士が接近する設置は内部温度が高くなり、また画面位置がずれる場合があります。
- 天井にスタック設置することはできません。



1 プロジェクタを積み重ねる

プロジェクタのフット受け（4箇所）にフットの凸部（4箇所）を確実にはめ込みます。

2 接続する

RGB DIGITAL端子、OPTION端子の接続が必要です。47ページ「リンクモードスタック設置の接続」をご覧ください。
外部機器を接続する場合は、マスタプロジェクタに接続してください。
調整可能な機能は、98ページ「リンクモードでの調整可能機能一覧」をご覧ください。

ご注意

RGB DIGITALが対応できる信号はSXGA（75Hz）までです。それ以上の信号の場合は、市販の分配器を使用して各プロジェクタの端子に接続してください。

接続が終わりましたら、すべてのプロジェクタの電源を入れ、ズーム・フォーカスなどの調整を大まかに行います。

3 投写する信号を調整・登録する

マスタプロジェクタとスレーブプロジェクタの設定データを合わせます。

A. マスタプロジェクタの調整・設定データをPCカードにコピーします。

お願い

添付のコンパクトフラッシュカードを使用する場合は、必ず中のデータをパソコンにバックアップしてください。添付のコンパクトフラッシュカードには出荷時のデータやファームウェアが書き込まれています。

- 1) マスタとなるプロジェクタを選びます。
- 2) 映したい信号をすべて表示し、信号ごとに調整します。その全調整データをマスタプロジェクタに保存します。（入力を切り換えたり、メニューを消すと自動的に保存されます）
- 3) マスタプロジェクタの電源を切って、スタンバイ状態にします。
- 4) PCカードにマスタプロジェクタに保存してあるデータをコピーします。

PCカードへのコピー方法：

- 1) フロントパネル左側のスロットふた（パネル）上端を押してあけます。PCカードスロットがあります。
- 2) PCカードをPCカードスロットに差しこみます。
- 3) マスタプロジェクトの本体操作部の〈CANCEL〉ボタンを押しながら、〈POWER〉ボタンを押します。
POWERインジケータが緑に点灯し、PCカードアクセスランプが点滅を始めます。
PCカードへのコピーが終了すると、POWERインジケータがオレンジ色(スタンバイ状態)に戻ります。
- 4) マスタプロジェクトからPCカードを取り出します。

B. PCカードのデータをスレーブプロジェクトに移します。

- 1) PCカードをスレーブプロジェクトのPCカードスロットに差しこみます。



このとき、スレーブプロジェクトにデータがあると消えてしまいますので、必要なら先にデータのバックアップをとっておきます。

- 2) スレーブプロジェクトの本体操作部の〈ENTER〉ボタンを押しながら、〈MENU〉ボタンを押します。
POWERインジケータは緑に点灯し、PCカードアクセスランプが点滅を始めると、データがPCカードからスレーブプロジェクトへコピーされます。
PCカードへのコピーが終了すると、POWERインジケータがオレンジ色(スタンバイ状態)に戻ります。
- 3) スレーブプロジェクトからPCカードを取り出します。
3台目がある場合は上記の1) から3) を繰り返します。

DIGITALリンクモード設置には、入力端子をRGB（デジタル）に変更してください。変更方法については59ページ「信号リストの編集」をご覧ください。



システム保護のため、PCカードアクセスランプ点滅中は電源を切らないでください。プロジェクトのデータが破損します。

4 各プロジェクトのプロジェクトIDを設定する

メニューの[機器設定] → [セットアップ] → [ページ5] の設定画面で[プロジェクトID]を設定します。各プロジェクトIDが重複しないように設定してください。(86,87ページ参照)
プロジェクトID設定を行わないとリンクモードは動作しません。

5 各プロジェクトの通信速度を同じにする

メニューの[機器設定] → [セットアップ] → [ページ5] の設定画面で[通信速度]を同じbpsに設定します。(86ページ参照)

6 各プロジェクトのリンクを設定する

メニューの[機器設定] → [リンクモード] の設定画面で[マスタ] / [スレーブ]を設定します。
マスタプロジェクトは最後に設定してください。スレーブ機器の設定ができなくなります。(88ページ参照)

リンクモード ? ☒		
☐ 非連動	☐ マスタ	☒ スレーブ

- 1) 1台目スレーブプロジェクトの設定…1台目のスレーブプロジェクトで[スレーブ]を選択してください。
- 2) 2台目スレーブプロジェクトの設定…2台目のスレーブプロジェクトで[スレーブ]を選択してください。
- 3) マスタプロジェクトの設定…マスタプロジェクトで[マスタ]を選択してください。

リンクモードの確認をする

- 1) スクリーンに任意の信号を投写します。
- 2) リンクモードで投写映像が連動しているか確認します。

スレーブプロジェクタの調整をします。

- 1) 一時的にマスタプロジェクタのリンクモード設定を「マスタ」から「非連動」にします。
- 2) マスタプロジェクタで投写したい信号を表示します。
- 3) スレーブプロジェクタ側で信号リストでマスタプロジェクタの投写信号と同じ信号の番号を選択して、投写します。
- 4) スレーブ側の「プランキング」を調整して、マスタプロジェクタの画面位置に合わせます。
- 5) 「明るさ」「コントラスト」「カラー」「色温度」などの映像調整項目を調整します。
- 6) マスタプロジェクタのリンクモード設定を「非連動」から「マスタ」にして、リンクモードを有効にします。

7 各プロジェクタのテストパターン（クロスハッチ）を映す

- 1) リモコンの「TEST」ボタンを数回押してクロスハッチを表示させます。
- 2) プロジェクタごとに色（R,G,B）を変えて投写します。

例：マスタプロジェクタはGをオンし、2台目のスレーブはR、3台目はBを、それぞれオンします。

色を変えるにはリモコンの「CTL」ボタンを押しながら「KEYSTONE」でR(赤)を、「AMPLITUDE」でG(緑)を、「ENTRY LIST」でB(青)を押します。

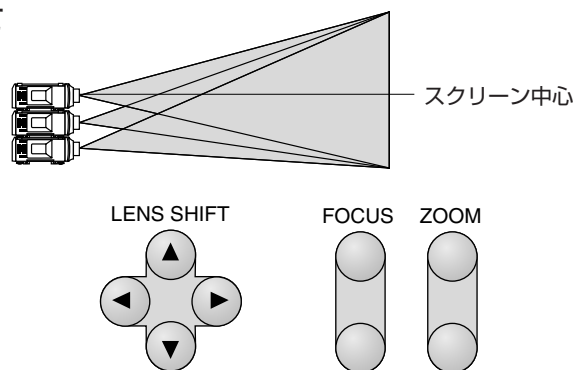
※メニューの「テストパターン」設定でも同じ操作ができます。



- ワイヤレスで各プロジェクタを操作するときは誤動作防止のため各々リモコンIDとプロジェクタIDの設定を行ってください。（57,86ページ参照）
- テストパターン表示中は台形補正ができません。

8 各プロジェクタのレンズシフト・ズーム・フォーカスを調整して投写映像を一致させる

- 本体の「LENS SHIFT ▼▲◀▶」ボタンを押して画面の位置を調整します。シフトの範囲は30ページをご覧ください。
- 「ZOOM +, -」ボタンを押して画面の大きさを調整します。
- 「FOCUS +, -」ボタンを押してフォーカス(ピント)を調整します。
- 画面の位置が上下にずれている場合は、各プロジェクタのフットを回して高さを調整します。また、台形歪が出ている場合は、プロジェクタごとに台形補正を調整して、その調整値を保存します。
「台形補正」については54, 72ページ、「台形補正保存」については84ページをご覧ください。



これで設置・調整が終わりました。マスタプロジェクタに入力した信号が投写されます。

リンクモードについては88ページをご覧ください。

リンクモード設定後の電源立ち上げについて

- リンク接続されているプロジェクタの電源をONする際は、必ずマスタ側で操作を行ってください。
自動的にスレーブの電源が立ち上がります。
- スレーブを立ち上げてから、マスタを立ち上げると、スレーブが誤動作することがあります。

特殊な設置

使用条件に合わせて下記のように設置することができます。
設置方法につきましては販売店にご相談ください。

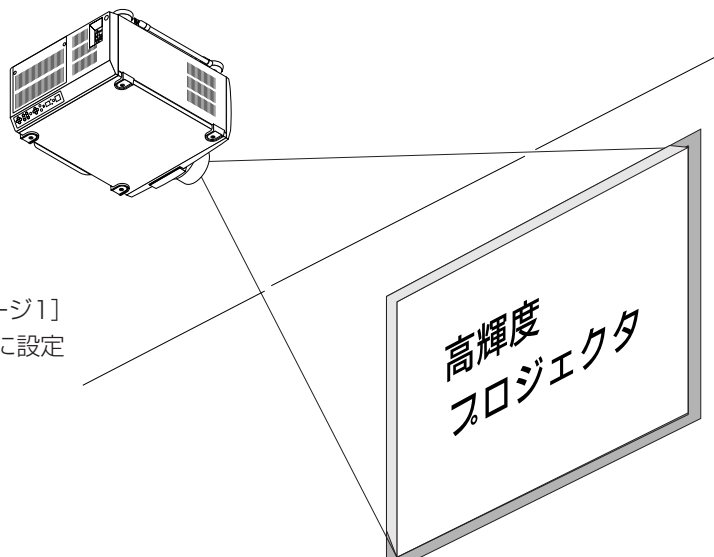
注意

天吊りなど特別な工事が必要な設置方法の場合には販売店にご相談ください。
お客様による天吊りなどの設置はおやめください。落下してけがの原因となります。

■天吊り／フロント投写

天井取り付けには別売品の「プロジェクタ天井取付ユニットXT CMKIT」をご使用ください。

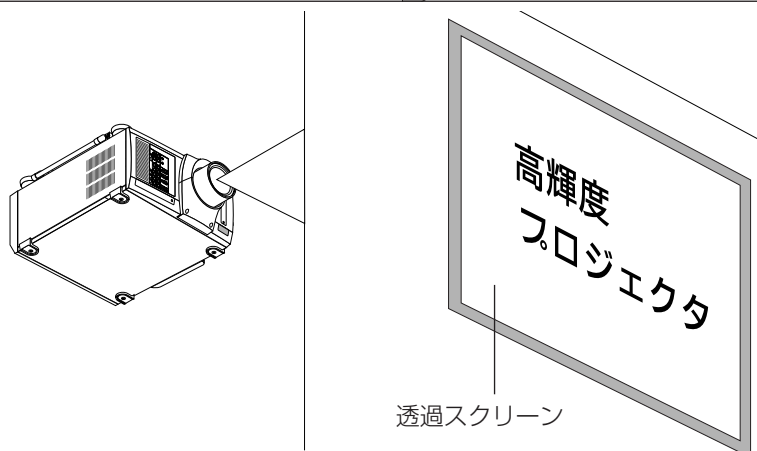
天井に設置し前面から投写する方法です。
メニューの〔機器設定〕→〔セットアップ〕→〔ページ1〕
の設定画面で〔投写方法〕を〔天吊り／フロント〕に設定
してください。



■天吊り／リア投写

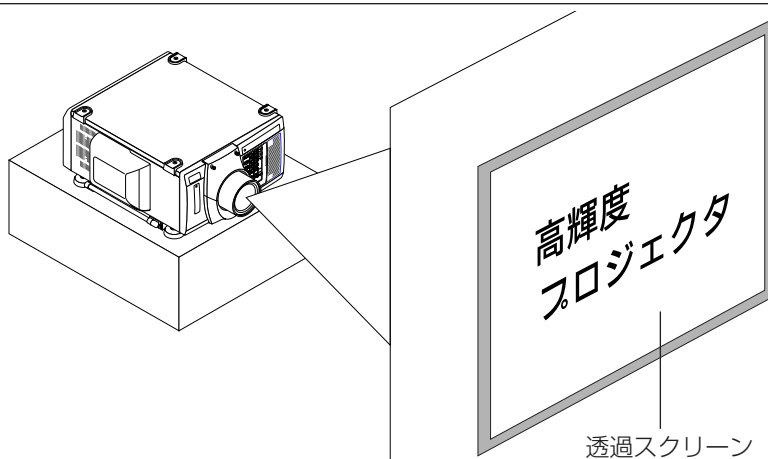
天井取り付けには別売品の「プロジェクタ天井取付ユニットXT CMKIT」をご使用ください。

スクリーンの裏面から投写し、さらに天井に設置する方法です。
メニューの〔機器設定〕→〔セットアップ〕→〔ページ1〕
の設定画面で〔投写方法〕を〔天吊り／リア〕に設定してください。



■デスク／リア投写

スクリーンの裏面から投写する方法です。
メニューの〔機器設定〕→〔セットアップ〕→〔ページ1〕
の設定画面で〔投写方法〕を〔デスク／リア〕に設定してください。



接 続

参考例を記載しています。システム構成について詳しくは、販売店にお問い合わせください。

接続の前に

- 接続するときはそれぞれの機器の保護のため主電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 電源プラグは確実にコンセントへ差し込んでください。不完全な差し込みはノイズの原因となります。
- システムアップする機器の取扱説明書もよくご覧ください。

信号ケーブルはフェライトコア付きのものをお使いください。それ以外のものを使用した場合、ラジオ・テレビなどへ受信妨害がでるおそれがあります。

プロジェクトを単体で使用する

■ビデオ機器との接続

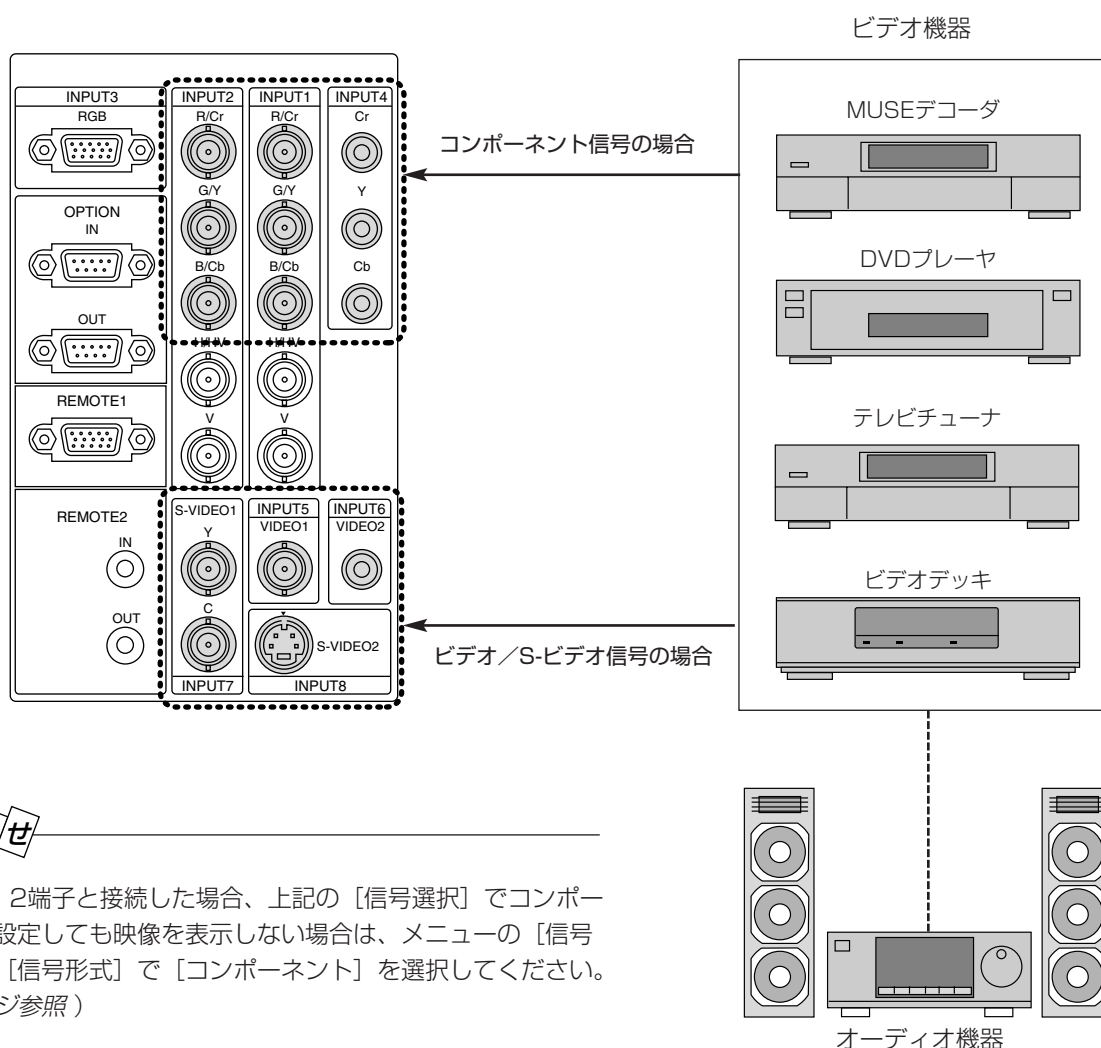
ビデオ機器などの映像を映す場合に使用します。

DVDプレーヤーやMUSEデコーダなどのコンポーネント信号の映像を映す場合

- INPUT1端子、INPUT2端子はRGB信号とコンポーネント信号を通常は自動判別します。判別できない場合は、メニューの [機器設定] → [セットアップ] → [ページ2] → [信号選択] の設定画面で接続する端子のRGBを [コンポーネント] に設定してください。
- コンポーネント信号のカラーマトリクスタイプはメニューの [信号調整] → [画質調整] → [カラーマトリクス] で選択してください。

INPUT4端子はコンポーネント信号専用端子です。

(ケーブルは市販のケーブルやBNC→フォノピン 変換プラグをご使用ください。)



お知らせ

INPUT1, 2端子と接続した場合、上記の [信号選択] でコンポーネントに設定しても映像を表示しない場合は、メニューの [信号調整] → [信号形式] で [コンポーネント] を選択してください。(71ページ参照)

■パソコンとの接続

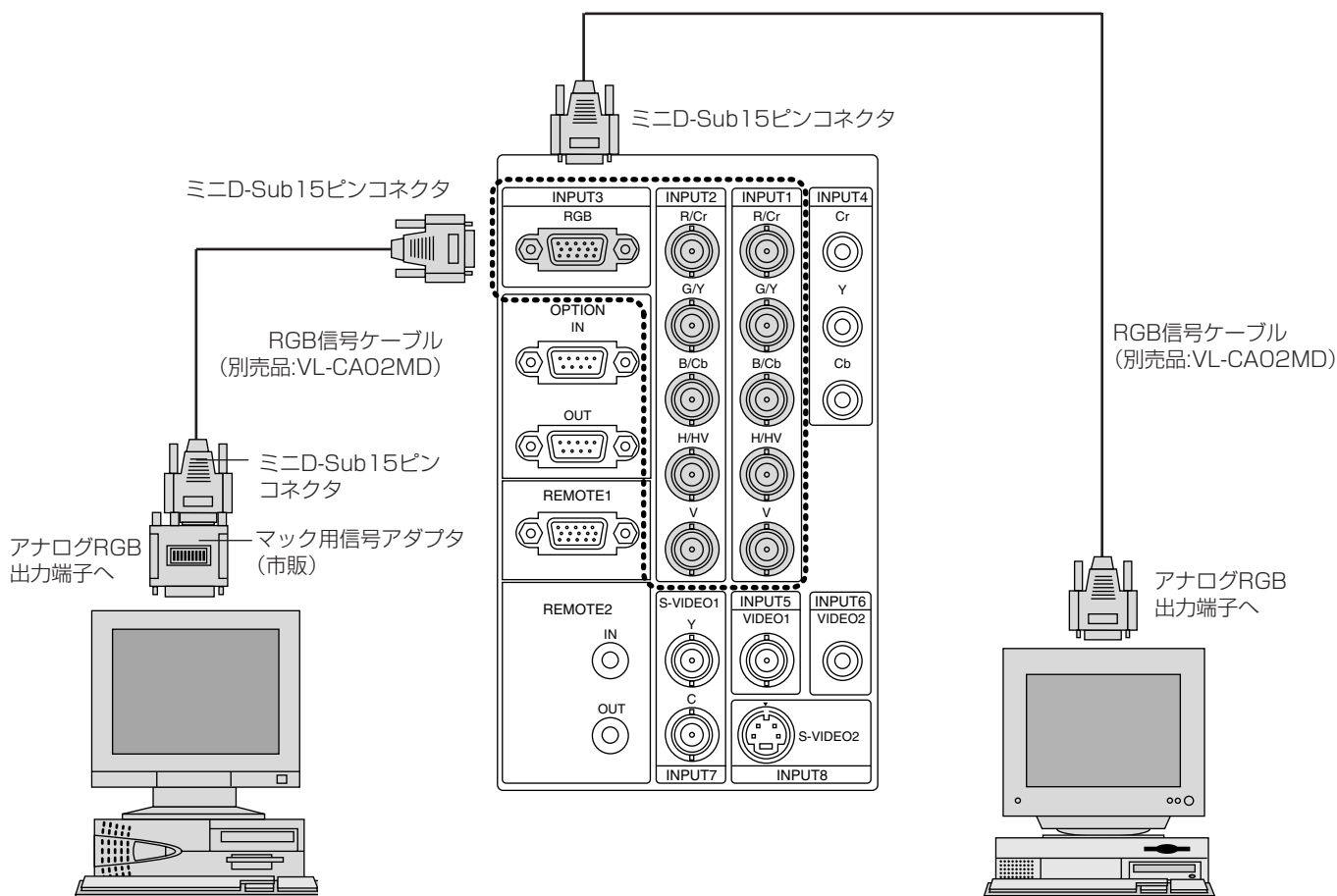
パソコンのアナログRGB出力端子と本機のRGB 端子（INPUT1, INPUT2, INPUT3）を接続すると大画面ディスプレイとして多用途にお使いいただけます。

PC98-NXシリーズ、DOS/V対応機、Macintoshとの接続

- モニタ出力端子がミニD-Sub15ピンではないMacintosh PowerBookシリーズとの接続には、Apple社製PowerBookビデオアダプタケーブルが別途必要です。
- Macintoshを接続する場合、プロジェクタに適したモードはVGA/SVGAモードの1024×768ドットの設定です。Macintosh側がこのモードに対応している場合、Macintosh側の表示解像度をこの設定にすることを推奨します。

PC-9800シリーズとの接続

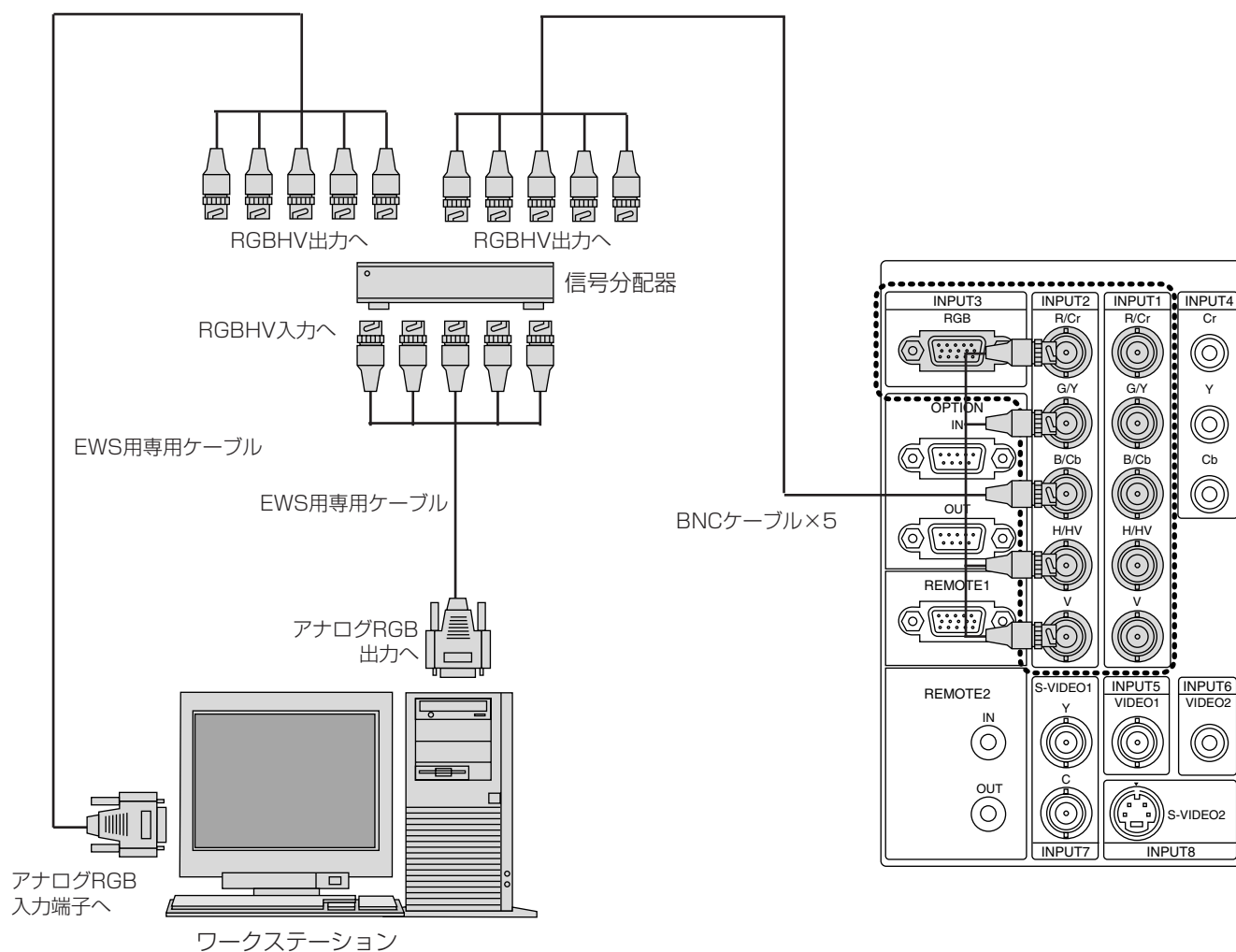
- D-Sub15ピンのPC-9800シリーズと接続する場合は、旧9800シリーズ用ディスプレイケーブルコネクタ変換アダプタPC-9821-K13（別売）を使用してください。
H98s以外のPC-H98シリーズを接続する場合は、マルチシンクアダプタPC-H98-U03（別売）がさらに必要です。
- ノートタイプの場合(PC-9821Nfシリーズ以降)、機種によってはミニD-Sub15ピンアナログRGB出力端子を持つポートバー、またはファイルベースなどを接続する必要があります。



Macintoshパソコン、
モニタ出力がミニD-Sub 15ピンでない場合

PC98-NXシリーズ、DOS/V、
Macintosh などのデスクトップ
パソコンおよびノートパソコン

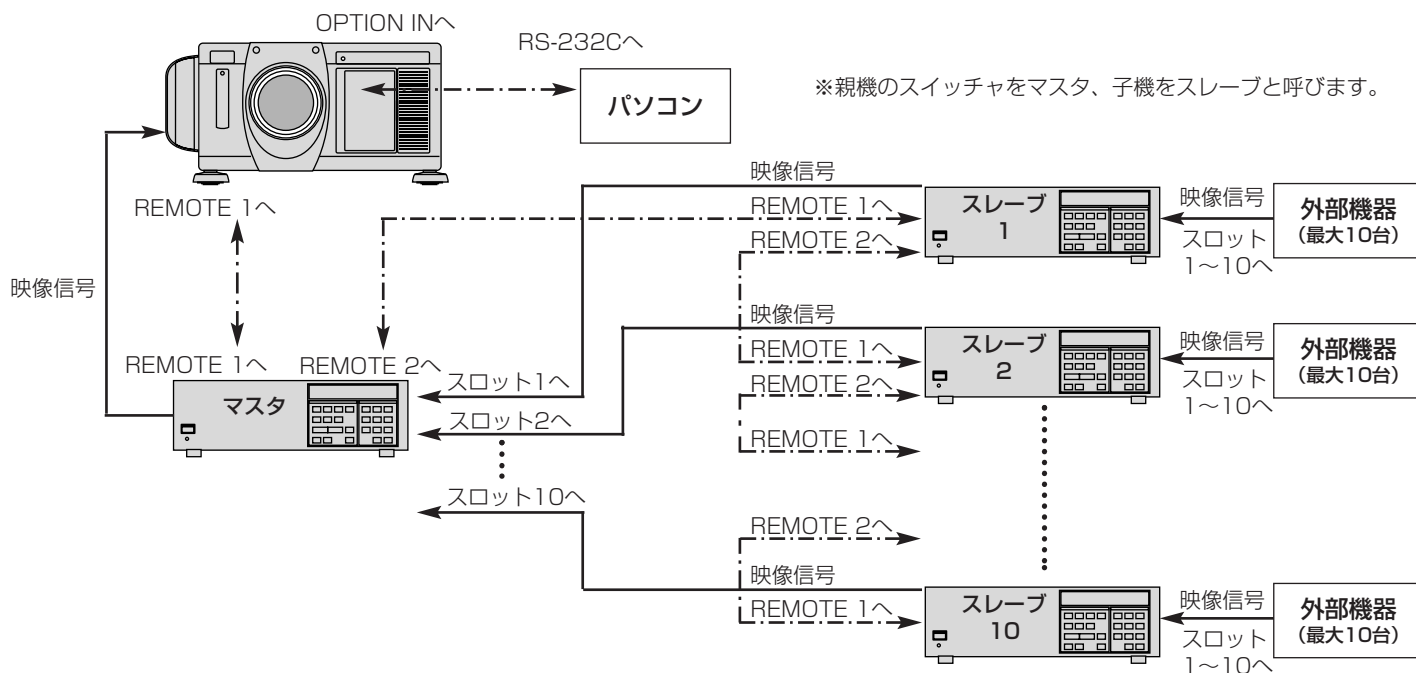
■ワークステーションとの接続



■複数のビデオユニットを接続する

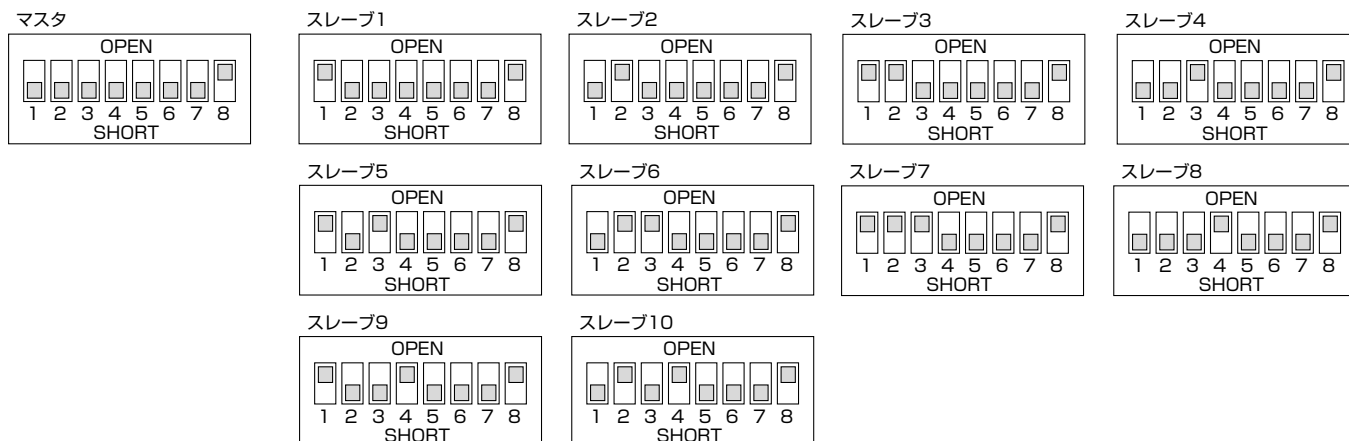
多数のパソコンを接続し、パソコンを切り換えながらプロジェクタで講義や会議を行う場合に複数のビデオユニットを使用します。

- 最大100チャンネルの信号を入力することができます。
- プロジェクタやパソコンからビデオユニットが操作できます。
- 本機の信号リストからビデオユニットのチャンネルごとの最適な画面調整状態を呼び出すことができます。



本機をビデオユニット (ISS-6020J) 連動モードで使用するときは、43ページの囲み部分をご覧ください。

- INPUT2端子は、スイッチャ連動モードには対応していません。
- ビデオユニットのディップスイッチを「プロジェクタ連動モード」に設定してください。(下図参照)
ディップスイッチは (S8601) の8番ピンを「OPEN」側に切り換えます。
- マスタスイッチャ、スレーブスイッチャ1～10のRS-232C/RS-422切換スイッチを「RS-422」に切り換えます。(切換スイッチはシステムコントロールモジュール内にあります。)
- プロジェクタのオンスクリーンメニューで次の設定が必要です。
 - ・ビデオユニット接続の設定
メニューの [機器設定] → [スイッチャ連動モード] の設定画面で [2レベル] を選択します。(89ページ参照)
 - ・各機器のチャンネルと入力信号及び画面調整の切り換えと編集
メニューの [信号選択] → [信号リスト] でリストを表示します。入力信号の切り換えや編集ができます。(59ページ参照)
- ビデオユニットの画像調整や音量調整がプロジェクタから制御できます。
メニューの [信号調整] → [スイッチャ] から目的の項目を調整してください。(71ページ参照)



■REMOTE1端子について

この端子はビデオユニットISS-6020Jまたは外部コントロールとの接続に使用します。

ISS-6020Jと接続して使用する場合

ビデオユニットISS-6020J使用時は別売のコントロールケーブル（CTL-6010、15ピン－15ピン／16m）をこの端子に接続します。

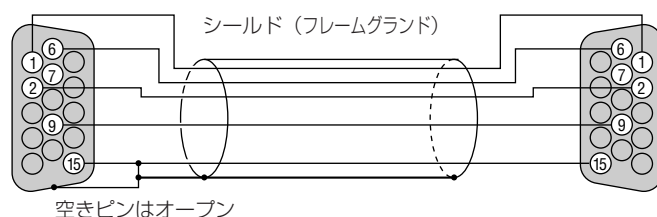


ピンNo.	機 能
1, 2, 6, 7	ビデオユニット使用時のデータ送受信
9	プロジェクタのモデル判別用です。
3, 8, 11, 12	プロジェクタ内部で使用。常時OPENにしてください。
15	接地（GND）

【ご参考】プロジェクタとビデオユニットISS-6020Jの結線図

プロジェクタ側 REMOTE1端子
(ミニD-Sub 15ピン) メス

ビデオユニット側 REMOTE1端子
(ミニD-Sub 15ピン) メス



本機を単体で使用する場合

制御機器（操作卓など）からコントロールケーブルをREMOTE1端子に接続して入力選択などが操作できます。

ピンNo.	SHORT/OPEN				機 能	
14	SHORT OPEN				外部コントロールモードON 外部コントロールモードOFF	
5	SHORT OPEN				電源ON 電源OFF	
10	SHORT OPEN				映像ミュートON 映像ミュートOFF	
4,8,12,11	11	12	8	4		
	OPEN	OPEN	OPEN	OPEN	INPUT1	RGB1
	OPEN	OPEN	OPEN	SHORT	INPUT5	VIDEO1
	OPEN	OPEN	SHORT	OPEN	INPUT7	S-VIDEO1
	OPEN	OPEN	SHORT	SHORT	INPUT4	コンポーネント
	OPEN	SHORT	OPEN	OPEN	INPUT0	SDI
	OPEN	SHORT	OPEN	SHORT	INPUT2	RGB2
	OPEN	SHORT	SHORT	OPEN	INPUT6	VIDEO2
	OPEN	SHORT	SHORT	SHORT	INPUT8	S-VIDEO2
	SHORT	OPEN	OPEN	OPEN	INPUT9	RGB (DIGITAL)
	SHORT	OPEN	SHORT	OPEN	INPUT3	RGB3

- “SHORT” は15番ピン（接地）と接続します。
- 外部コントロール使用時は、リモコンのPOWER・INPUT・PICTURE MUTE・SOUND MUTEの各ボタンは使用できません。
- 上記以外の組み合わせは、すべてRGB1（INPUT1端子）が選択されます。

お知らせ

- 13番ピンは拡張用のリモコン信号入力用です。添付のリモコンと同じフォーマットの信号を入力することにより、プロジェクタを制御することができます。なお、このリモコン信号入力だけは14番ピンの設定にかかわらず常に動作します。
- システム保護のため、外部コントロールを使用して電源ON/OFFを行う場合、AC電源を遮断しないでください。

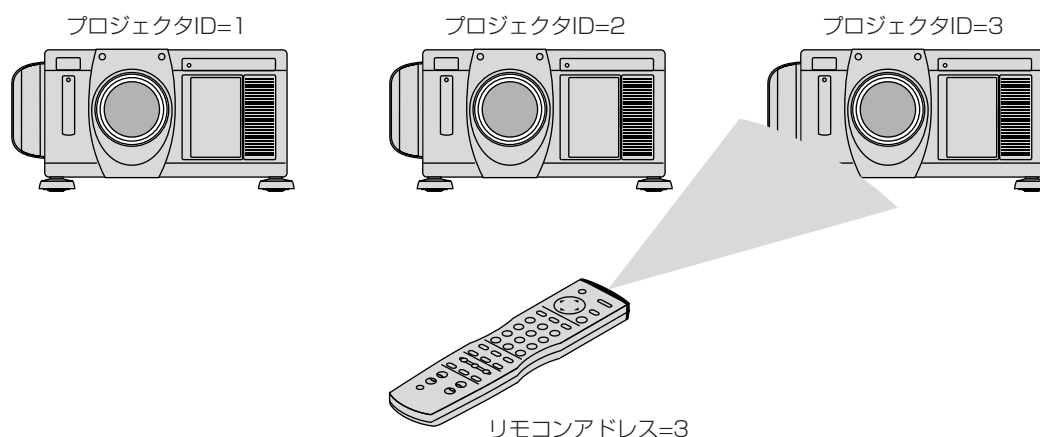
複数の 프로젝터를リモコンで操作する

■ リモコンで各々の 프로젝터를ワイヤレス操作する

1本のリモコンで各々の 프로젝터がワイヤレスで操作できます。

この機能を使用するには、はじめに 프로젝터のID番号の設定を行ってください。リモコンIDと同じ番号の 프로젝터が操作できます。（なお、この設定は各々のリモコンと 프로젝터를対応させて他の 프로젝터が動作しないようにする場合にも使います。）

- 프로젝터のメニューの [機器設定] → [セットアップ] → [ページ5] の設定画面の [프로젝터ID] で番号を設定します。（86ページ「프로젝터のIDを設定する」参照）
- リモコンのID番号を操作したい 프로젝터のID番号に設定します。
〈CTL〉 + 〈MENU〉 ボタンでID設定画面が出ます。（57ページ「リモコンIDを設定する」参照）

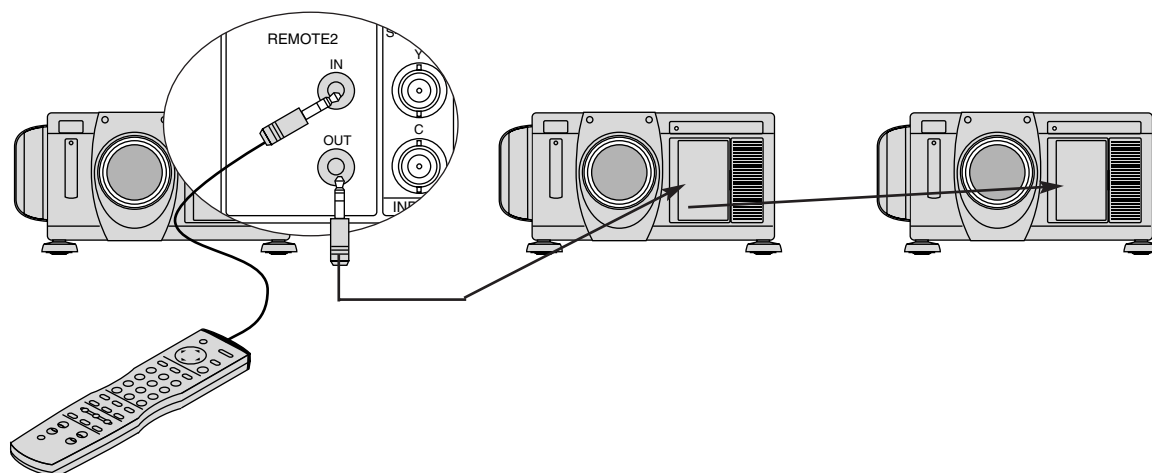


■ リモコンで複数の 프로젝터를同時に操作する

1本のリモコンで複数の 프로젝터를同時に操作できます。

リモコンのID番号を「なし」（0を入力）にして、各 프로젝터の REMOTE2 端子を添付のリモコンケーブルで接続すると、接続されている 프로젝터が同時に操作できます。

また 프로젝터IDを各々設定している場合は動作させたい 프로젝터のIDと同じ番号にリモコンIDを設定すると目的の 프로젝터のみ操作することができます。



RGB DIGITAL (DVI-D) 端子を使う

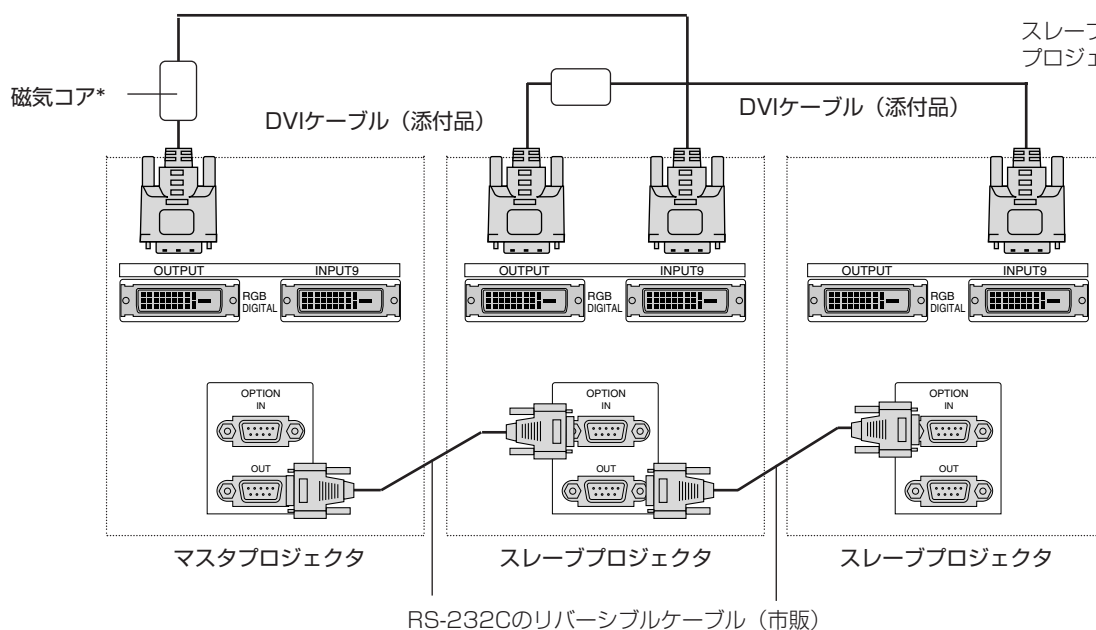
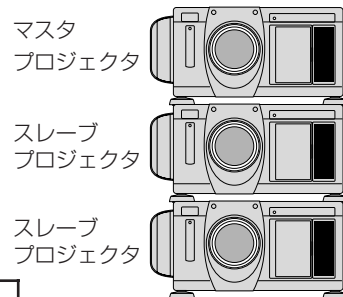
RGB DIGITAL端子を使うことにより、アナログ変換による信号劣化やノイズの影響を受けない鮮明な映像を投写します。
(SX4000DJはRGBデジタルには対応していません。) これにより、RGB DIGITAL端子とOPTION端子でプロジェクタを複数台接続し、リンクモード機能を使用する際、1台のプロジェクタを調整設定することで、入力信号をより忠実に再現できます。RGB DIGITALが対応できる最大解像度はSXGA (1280×1024 @75Hz) までです。

■リンクモードスタック設置の接続

本機を2段、3段と積み重ねて使用することにより最大15,000ANSIルーメンの高輝度の画面にすることができます。

3台まで積み重ねることができます。

設置や設定・調整は36ページをご覧ください。



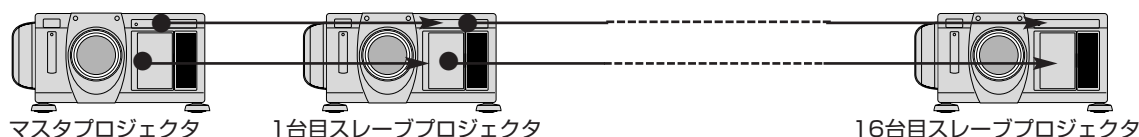
*DVIケーブルは磁気コアの付いているコネクタをOUTPUT端子と接続してください。



- スタックするときは添付のDVIケーブルを使ってください。
- 市販のDVIケーブルを使用するときは、長さ5m以下のDVI-Dケーブルをお求めください。
- RGB DIGITALが対応できる信号はSXGA (75Hz) までです。それ以上の信号の場合は、市販の分配器を使用して各プロジェクタの端子に接続してください。

■リンク接続

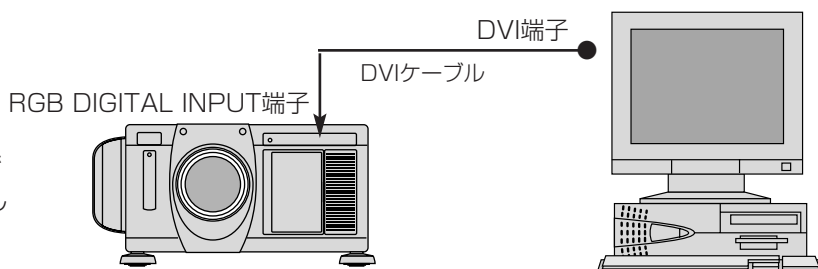
マスタプロジェクタに最大16台のスレーブプロジェクタを接続しマスタプロジェクタからすべてのプロジェクタを同時に調整・設定することができます。リンク機能を使うにはリンクモードスタック設置と同じような設定や調整が必要です。



■RGBデジタル (DVI) 信号接続

パソコンのDVI端子と本機のRGB DIGITAL INPUT端子とをダイレクトに接続する方法です。

パソコンにグラフィックカードの搭載が必要です。グラフィックカードによっては、ちらちらしたノイズが出ることがあります。



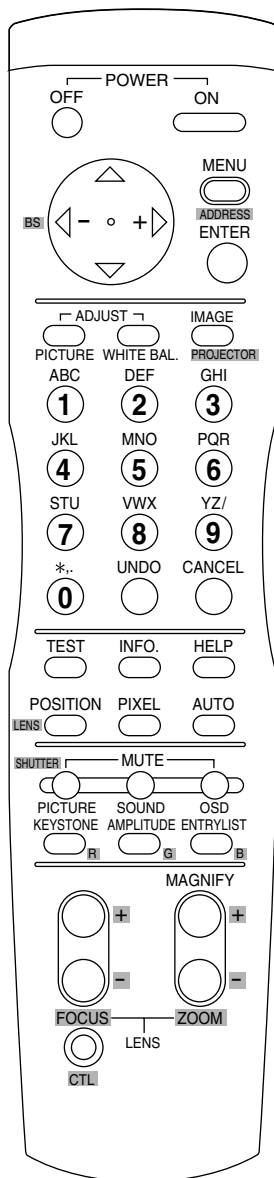
リモコン操作

リモコンと本体のボタンで直接操作することができる機能説明です。

プロジェクタのシステム構成によっては、異なることがありますのでシステム管理者の指示にしたがってください。

基本操作

レンズキャップを外し、電源を入れてください。（「電源の入／切」32ページ参照）

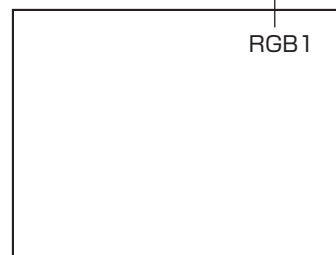
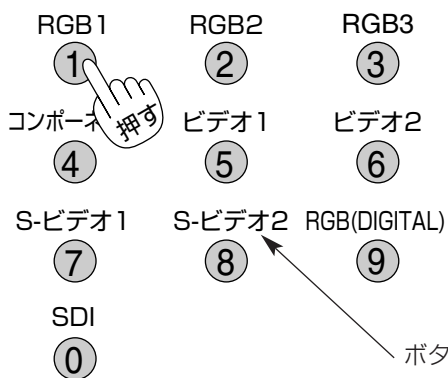


■ 〈INPUT〉 ボタンから入力選択

目的のボタンを押します。

ボタンの数字は本機のINPUT 1端子～INPUT 0（10）端子に対応しています。

設定により入力端子表示をしばらく表示します。（78ページ参照）

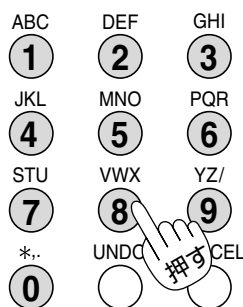


ボタンの数字に対応している入力信号の説明で、リモコンには表記されていません。

■ 信号リストから直接入力選択（ダイレクトキー）

〈CTL〉 ボタンを押しながら信号リストに登録されている数字ボタンを押します。

登録されている入力信号が呼び出されます。登録のしかたは61ページ「ダイレクトキーを設定する／一覧を見る」をご覧ください。



信号リストから入力を選ぶ(メニュー操作)

あらかじめ入力信号や画面調整状態が登録されている信号リストを表示して入力を選びます。（59ページ参照）

お知らせ

- DVDプレーヤなどコンポーネント信号の機器をRGB端子に接続していて正常に映らない場合は、81ページ「RGB端子の信号モード選択」、71ページ「信号形式の設定」をご覧ください。

■信号リストから入力選択

映像・画像が調整済みの信号を選んで映すことができます。

〈ENTRY LIST〉 ボタンを押すと信号リストが表示されます。



〈SELECT ▲/▼〉 ボタンで目的の信号を選択し 〈ENTER〉 ボタンを押すと、選択した入力信号に切り換わります。

〈SELECT ▶〉 ボタンを押すと信号No.が10ずつ進み、

〈SELECT ◀〉 ボタンを押すと戻ります。

No.	名前	信号種別	端子	キー
001	XGA	RGB	RGB1	CTL+1
002	NTSC3.58	ビデオ	ビデオ1	CTL+2
003	S-VIDEO	S-ビデオ	S-ビデオ	CTL+3
004	COMPO	コンポーネント	RGB2	CTL+4
005	Digital	デジタル	DVI(デジタル)	CTL+5
006	SVGA	RGB	RGB2	CTL+6
007				
008				
009				
010				
011				

- 本機は、映像や画像を調整すると、自動的に信号リストに登録するメモリ機能があります（最大100件）。
- 〈CTL〉 ボタンを押したまま 〈ENTER〉 ボタンを押すと信号編集コマンド表示が出ます。使いかたは59ページをご覧ください。
- メニューを閉じたとき・入力を切り換えたとき・電源を切るときに登録されます。

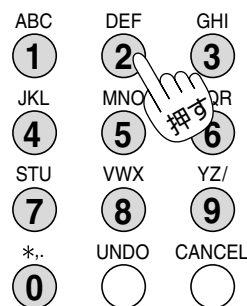
■ビデオユニット (ISS-6020J) のスロット選択

ビデオユニットが接続されている場合は、ビデオユニットのスロット（チャンネル）を直接指定することができます。（オンスクリーンメニュー非表示の時有効）

- あらかじめ、スイッチャ連動モードの設定が必要です。[非連動] に設定されている場合は動きません。（89ページ参照）

ビデオユニットが1台接続されている場合（1レベル 設定の時）

〈INPUT〉 ボタンでスロット番号を入力します。



ビデオユニットが2台以上接続されている場合（2レベル 設定の時）

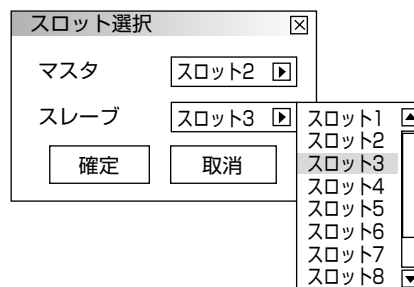
1 〈INPUT〉 ボタンで目的のマスタスロット番号を入力します。

スロット選択画面が出ます。

このとき設定画面のマスタは 〈INPUT〉 ボタンで選択した番号に設定されます。

2 スレーブのプルダウンリストからスロット番号を選択します。

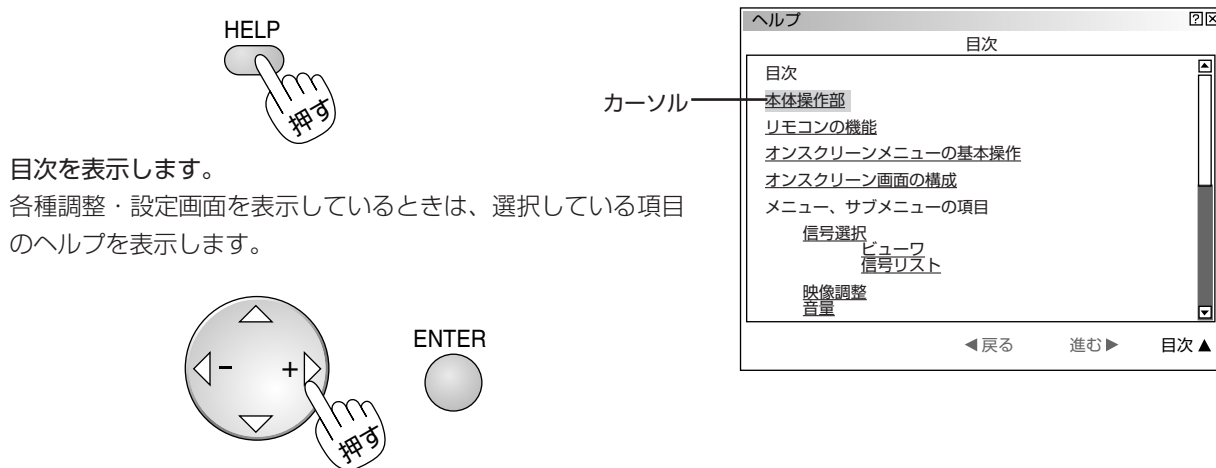
これでよければ、[確定] を選択して 〈ENTER〉 ボタンを押します。



リモコン操作

■ プロジェクタの操作説明を見る

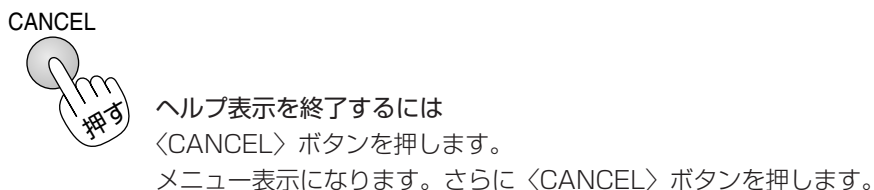
メニューの操作方法やプロジェクタの調整／設定方法が書かれています。



目次を表示します。

各種調整・設定画面を表示しているときは、選択している項目のヘルプを表示します。

〈SELECT▲／▼〉ボタンでカーソルが移動し〈ENTER〉ボタンを押すとカーソル位置の項目のページに変わります。
 〈SELECT◀／▶〉ボタンでたどってきたページに戻したり進めたりします。
 (詳しくは「ヘルプを見る」90ページをご覧ください。)



■ 入力信号情報・機器情報画面を開く

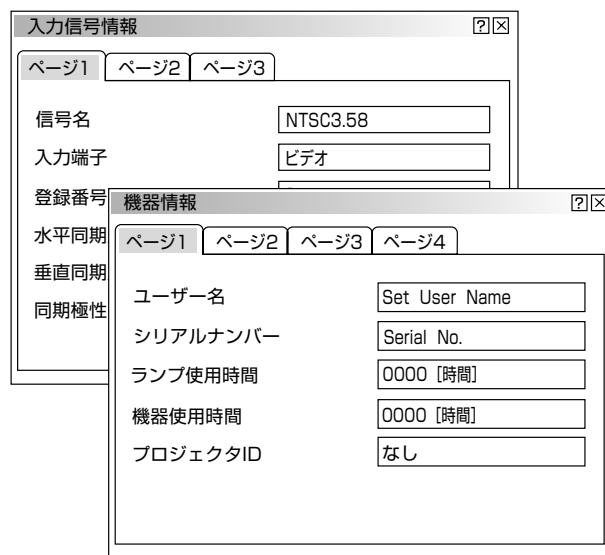
入力信号やランプ使用時間などの機器に関する情報を表示します。

〈INFO.〉ボタンを押すごとに「入力信号情報」と「機器情報」をくり返し表示します。



ページ切り換えは〈SELECT〉ボタンで行います。

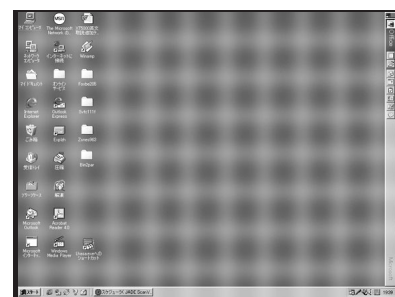
表示を閉じるときは〈CANCEL〉ボタンを押してください。



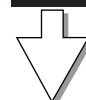
■RGB入力の画像を自動調整する

パソコンと接続している場合で画面が切れていたり映りが悪い場合表示解像度などを調整します。

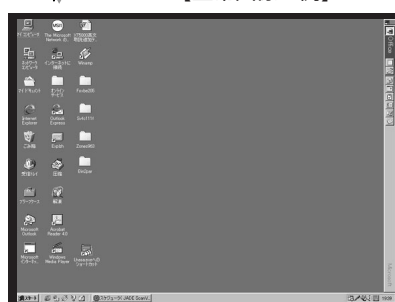
〈AUTO〉 ボタンを押します。[しばらくお待ちください] と表示され、しばらくするとパソコンの画面の大きさなどがプロジェクタの投写画面におさまるように自動調整されます。



【映りが悪い画像例】



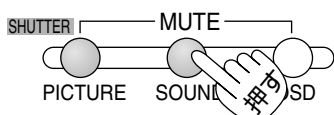
【正常画像の例】



- [画素調整] の [位相] は手動でしか調整できません。
- 〈AUTO〉 ボタンで調整しても表示位置がずれていたり、画面に縦じまがでたり映りが悪い場合は、手動で画像調整を行ってください。(64ページ参照)
- 映像や画像を手動で調整すると自動的に信号登録されますが、自動調整のみ実施した場合、自動的に信号登録されません。その場合は手動で信号登録を行ってください。詳しくは59ページ「信号リストからの入力選択」をご覧ください。

■映像・音声・オンスクリーン表示を消去する

映像、音声およびオンスクリーン表示を一時的に消します。



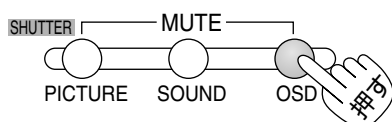
〈MUTE PICTURE〉 ボタンを押すと映像が消えます。

〈MUTE SOUND〉 ボタンを押すと音声が消えます。

- 〈MUTE SOUND〉 ボタンはビデオユニットISS-6020Jと連動で使用しているときのみ有効です。

もとに戻すには、それぞれのボタンをもう一度押してください。

〈MUTE OSD〉 ボタンを押すと入力端子表示やオンスクリーンメニューが閉じます。



もとに戻すには、入力切り換えなどのボタン操作をするか、もう一度このボタンを押します。



- 〈CTL〉 ボタンを押しながら 〈MUTE OSD〉 ボタンを押すとオンスクリーンを強制的に閉じ、入力切り換えなどのボタン操作をしてもオンスクリーン表示は出ません。
- オンスクリーンメニューを表示中に 〈CTL〉 ボタンを押しながら 〈MUTE OSD〉 ボタンを押すと、オンスクリーンメニュー表示は閉じますが、各調整は可能です。

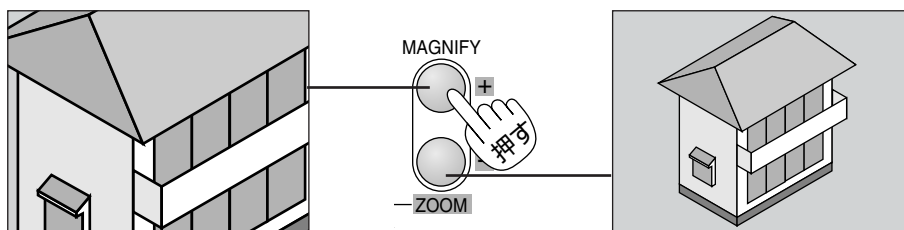
もとに戻すには、〈CTL〉 ボタンを押しながら 〈MUTE OSD〉 ボタンを押してください。

リモコン操作

■画像の拡大と移動

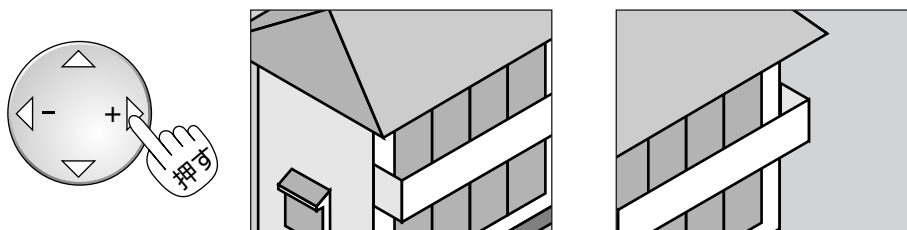
目的の部分を最大4倍まで拡大表示できます。

画面を拡大／縮小（元に戻す）する



画像を移動する場合

画像拡大中に〈SELECT ▼▲◀▶〉ボタンを押して移動させます。



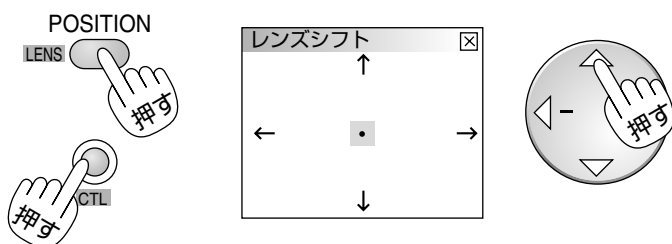
調整と設定

■画面位置を調整する

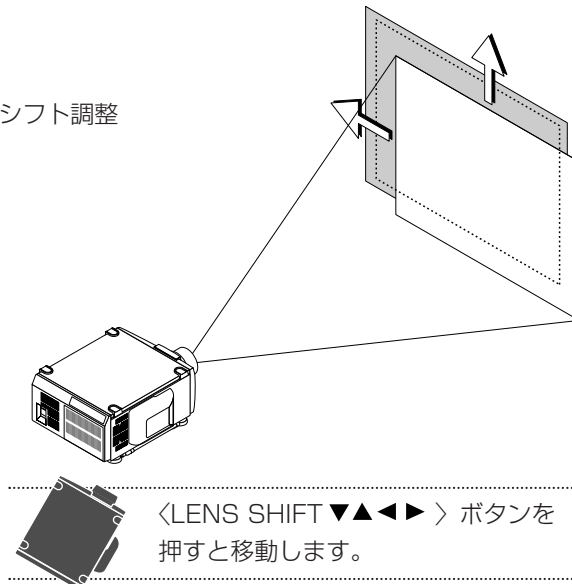
プロジェクタを常設している場合は、通常調整の必要はありません。

〈CTL〉 ボタンを押しながら 〈POSITION〉 ボタンを押します。レンズシフト調整画面を表示します。

〈SELECT ▼▲◀▶〉 ボタンで上下左右の画面位置を調整します。

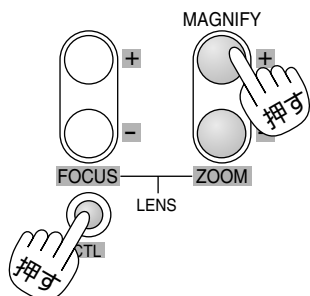


調整表示を閉じるには 〈CANCEL〉 ボタンを押します。
調整可能範囲は30ページ「レンズシフト範囲」をご覧ください。

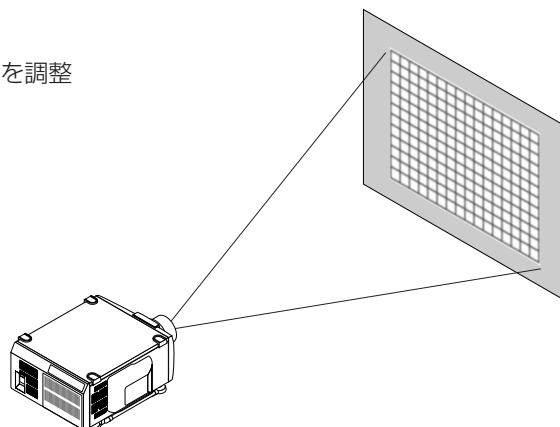


■画面サイズを調整する

〈CTL〉 ボタンを押したまま 〈ZOOM +, -〉 ボタンを押して画面サイズを調整します。

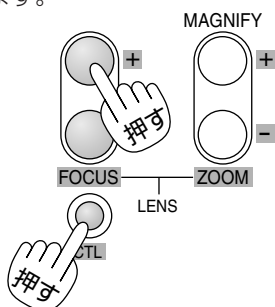


〈ZOOM +, -〉 ボタンで直接画面サイズが変わります。

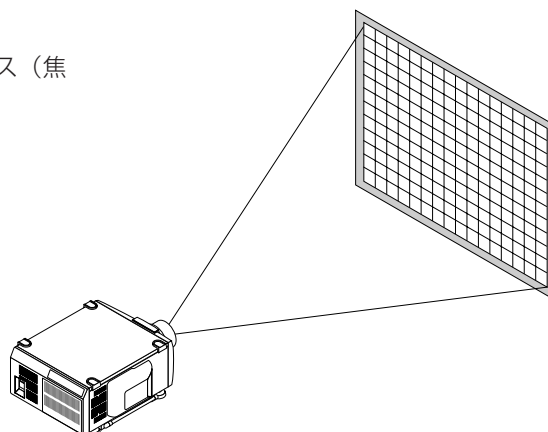


■フォーカス（焦点）を調整する

〈CTL〉 ボタンを押したまま 〈FOCUS +, -〉 ボタンを押してフォーカス（焦点）を合わせます。



〈FOCUS +, -〉 ボタンで直接フォーカスが変わります。



リモコン操作

調整・設定の確定とキャンセル

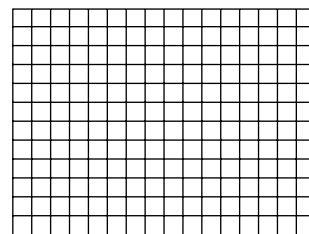
〈ENTER〉ボタンを押すと、調整を確定してサブメニュー表示に変わり、〈CANCEL〉ボタンを押すと、調整を無効にしてサブメニュー表示に変わります。その後、〈CANCEL〉ボタンを押すとメニューを閉じます。

■テストパターンを映す

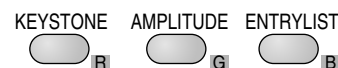
フォーカス調整や映像調整などにテストパターンを使います。



〈TEST〉ボタンを押すごとに
[クロスハッチ] → [グレイバー] → [ブラックラスタ] → [グレイラスタ] →
[ホワイトラスタ] とくり返し表示します。
テストパターンを終了するには他の入力に切り換えます。



テストパターン表示中に、〈CTL〉ボタンを押しながら〈KEYSTONE (R)〉
〈AMPLITUDE (G)〉〈ENTRY LIST (B)〉ボタンを押して、テストパターンのRGB各色
のON/OFFができます。押すごとにON/OFFをくり返します。



〈CTL〉 + 〈KEYSTONE (R)〉 ……赤 (R信号) をON/OFFします。
〈CTL〉 + 〈AMPLITUDE (G)〉 ……緑 (G信号) をON/OFFします。
〈CTL〉 + 〈ENTRY LIST (B)〉 ……青 (B信号) をON/OFFします。

■上下方向台形歪みの調整

プロジェクタ設置時にプロジェクタとスクリーンが斜めに（上下方向）なっていると台形
の歪みが生じます。この歪み調整に台形補正を使います。

●テストパターンおよびブルーバック表示中は調整できません。

〈KEYSTONE〉ボタンを押して台形補正調整表示を出します。
もう一度押すと閉じます。



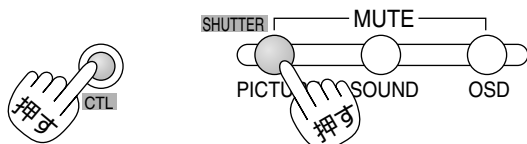
〈SELECT ◀/▶〉ボタンで左右が平行になるように調整します。
よければ〈ENTER〉ボタンを押します。

- 上下方向の台形歪の補正ができます。
- 台形補正值を保存しておくことができます。（84ページ参照）
- レンズが0度の場合で、上下方向に最大約-7.5~+7.5度まで補正できます。

■投写光をシャッターする

投写する光を完全にさえぎる場合に使います。

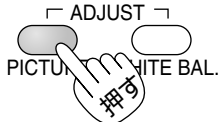
〈CTL〉ボタンを押しながら〈MUTE PICTUER〉ボタンを押します。



もとに戻すには、もう一度押してください。

■映像の調整

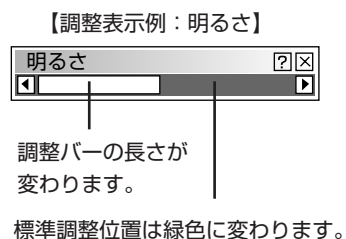
調整は目的の映像を映してから行ってください。



押すごとに [明るさ] → [コントラスト] → [サチュレーション] → [カラー] → [色相] → [シャープネス] → [垂直輪郭補正] → [ガンマ補正] → 表示を閉じる が切り換わります。

現在の入力選択で調整できない調整・設定項目は表示されません。

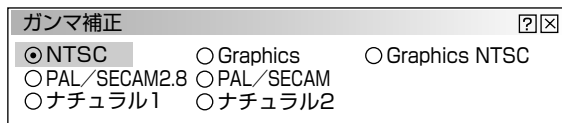
項 目	SELECT ◀(−) ボタン	SELECT ▶(+) ボタン
明るさ	暗くなります	明るくなります
コントラスト	画像が淡くなります	画像が濃くなります
サチュレーション	彩度の飽和度が下がります	彩度の飽和度が上がります
カラー	色が淡くなります	色が濃くなります
色 相	赤みがかります	緑がかります
シャープネス	やわらかい画像になります	くっきりした画像になります
垂直輪郭補正	輪郭強調が少なくなります	輪郭が強調されます



【ガンマ補正】

映像の黒い部分の階調の選択です。これにより暗い部分も鮮明に表現します。

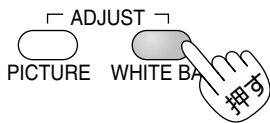
◀SELECT ◀/▶▶ ボタンで目的のガンマ補正を選択します。
詳しくは62ページをご覧ください。



■ホワイトバランスの調整

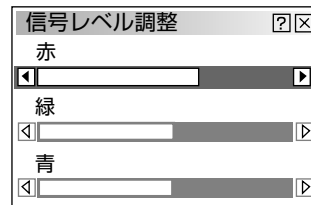
色の再現性の基本となるホワイトバランスや色温度の調整です。

ビデオユニット接続時はビデオユニットのRGBゲイン調整、基準ホワイトバランスはテストパターン選択時の明るさRGBとコントラストRGBの調整です。



◀ADJUST WHITE BAL.▶ ボタンを押します。

【調整表示例：信号レベル調整】



押すごとに [色温度] → [明るさ] → [コントラスト] → [信号レベル調整] → [基準ホワイトバランス] → [スイッチャゲイン] → 表示を閉じる と調整表示が切り換わります。

◀SELECT ▲/▼▶ ボタンで調整バーを選択し ◀SELECT ◀/▶▶ ボタンで調整します。

色温度白さを基準にするか肌色を基準にするかの調整です。入力映像によって使いわけてください。

明るさ入力信号の黒レベルを補正して色の再現性を調整します。

[明るさR]・[明るさG]・[明るさB] で画像の黒レベルを調整します。

コントラスト入力信号の白レベルを補正して色の再現性を調整します。

[コントラストR]・[コントラストG]・[コントラストB] で白レベルを調整します。

信号レベル調整入力する信号によっては、映像信号にばらつきがあります。入力信号のレベル調整をするのが信号レベル調整です。

コンポーネント信号入力時はY/Cb/Crが、RGB信号入力時は 赤/緑/青 の調整表示が出ます。

基準ホワイトバランス ...各信号共通の基準となるホワイトバランスを調整します。テストパターン選択時に表示します。

スイッチャゲインビデオユニットからの入力信号の 赤, 緑, 青 の各ゲインを調整します。

リモコン操作

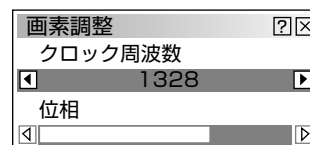
調整・設定の確定とキャンセル

〈ENTER〉ボタンを押すと、調整を確定してサブメニュー表示に変わり、〈CANCEL〉ボタンを押すと、調整を無効にしてサブメニュー表示に変わります。その後、〈CANCEL〉ボタンを押すとメニューを閉じます。

■RGB信号の画素を調整する

コンピュータの画素サイズとプロジェクタの画素サイズを合わせるのがクロック周波数の調整で、コンピュータの画素の位相とプロジェクタの画素の位相を合わせるのが位相調整です。はじめにクロック周波数を調整し、つぎに位相を調整してください。

〈PIXEL〉ボタンを押して画素調整表示を出ます。もう一度押すと表示を閉じます。



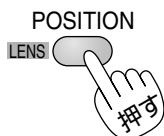
〈SELECT ▲/▼〉ボタンで [クロック周波数] / [位相] を選択し 〈SELECT ◀/▶〉ボタンで調整します。調整方法は64ページをご覧ください。

- メニューの [機器設定] → [セットアップ] → [ページ4] → [自動調整 (RGBのみ)] がオンに設定されているときは、この画面でのクロック周波数の調整はできません。

■表示位置と表示範囲を調整する

画面に表示される画像の表示位置と表示範囲（ブランキング）を調整します。

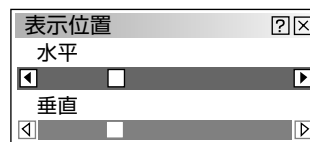
〈POSITION〉ボタンを押すごとに [表示位置] → [ブランキング] → 表示を閉じる をくり返します。入力信号によって調整できない項目は表示されません。



表示位置の調整

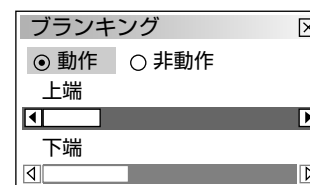
〈SELECT ▲/▼〉ボタンで項目を選択し 〈SELECT ◀/▶〉ボタンで調整します。
(64ページ参照)

- メニューの [機器設定] → [セットアップ] → [ページ4] → [自動調整 (RGBのみ)] がオンに設定されているときは [表示位置] 表示が出ません。オフに設定してください。
(83ページ参照)



ブランキングの調整

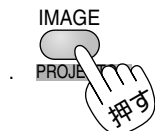
〈SELECT ◀/▶〉ボタンで [動作] / [非動作] を選択します。
[非動作] を選択すると調整バーはグレーになり調整できなくなります。(66ページ参照)



■画像調整表示・機器の設定メニューを直接開く

画像調整表示および機器設定メニュー内の設定メニューを直接開きます。

〈IMAGE〉 ボタンを押すごとに、次の調整項目を表示します。調整・選択のしかたは64～66ページをご覧ください。



メニューの〔信号調整〕→〔画像〕内にある各調整画面を表示します。

押すごとに〔画素調整〕→〔表示位置〕→〔アスペクト〕→〔解像度〕→〔オーバースキャン〕→〔ビデオ帯域フィルタ〕→〔ブランキング〕→ 表示を閉じる と切り換わり、各調整ができます。

入力信号によっては表示されない項目があります。

【調整表示例：表示位置】

表示位置	
水平	
垂直	

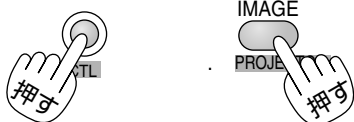
【設定表示例】

オン/オフタイマー				
Prg.	週	曜日	オン	オフ
1	毎週	月	19:30	22:30
2				
3				
4				
5	今週	水	07:30	08:00
6				
7				
8				

動作切替 ☒ 動作 ☐ 非動作

編集 確定 取消

〈CTL〉 ボタンを押しながら 〈IMAGE〉 ボタンを押すと、〔機器設定〕内の各メニューを表示します。選択・設定のしかたは74～89ページをご覧ください。

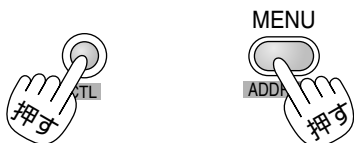


押すごとに 〔オン/オフタイマー〕→〔スリープタイマー〕→〔メニュー設定〕→〔セットアップ〕→〔リンクモード〕→〔スイッチャ連動モード〕→表示を閉じる と設定メニューが切り換わります。

■リモコンのIDを設定する

プロジェクトを複数台接続して目的のプロジェクトのみリモコン操作する場合や、一台のリモコンで複数台のプロジェクトを同時に操作する場合にリモコンIDを設定します。

〈CTL〉 ボタンを押しながら 〈MENU〉 ボタンを押します。ID設定画面が表示されます。



ID	
リモコン	01
プロジェクト	01

〈INPUT〉 ボタンでIDを入力し、〈ENTER〉 ボタンを押します。

表示が閉じて設定されます。

リモコンIDを〔1〕～〔64〕…IDが一致したプロジェクトのみが動作します。

リモコンIDを〔なし〕(0キーを入力)に設定…各プロジェクトにIDが設定されていても各プロジェクトが操作できます。

- 〔ヘルプ〕→〔機器情報〕の〔プロジェクトID〕にはすでに設定されている本機のプロジェクトのIDを表示しますが、プロジェクトIDの設定はできません。
プロジェクトのID設定は86ページをご覧ください。
- プロジェクトIDが〔無効〕に設定されている場合は、リモコンIDがどの番号に設定されていてもプロジェクトは動作します。
- ビデオユニットと連動モードで使用し、リモコンをワイヤードで使用しているときはこのアドレス設定表示は表示されませんが、設定はできます。
リモコンの電池を抜いたり、電池が切れた場合は、リモコンIDは「なし」に戻ります。

入力端子に接続している機器の選択です。ビデオユニット（ISS-6020J）と接続しているときはビデオユニットのスロット（チャンネル）の選択ができます。

オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」（20ページ参照）をご覧ください。

☐ 入力の選択【信号選択】（プロジェクタ単体で使用时）

本機のINPUT1端子～INPUT 0（10）端子に接続している機器の選択です。

メニューの【信号選択】を選択すると表示します。

- 現在選択されている入力端子には✓マークを表示します。

目的の入力信号を選択し〈ENTER〉ボタンを押します。

信号名とINPUT端子は下記のように対応しています。

RGB1	INPUT1	ビデオ2	INPUT6
RGB2	INPUT2	S-ビデオ2	INPUT7
RGB3	INPUT3	S-ビデオ2	INPUT8
コンポーネント	INPUT4	RGB(デジタル)	INPUT9
ビデオ1	INPUT5	SDI	INPUT 0（10）

☒ RGB1
☐ RGB2
☐ RGB3
☐ コンポーネント
☐ ビデオ1
☐ ビデオ2
☐ S-ビデオ1
☐ S-ビデオ2
☐ RGB(デジタル)
☐ SDI

 信号リスト

☐ ビデオユニットの入力選択【信号選択】（ビデオユニット接続時）

本機とビデオユニット（ISS-6020J）を接続している場合のスロット選択です。

【スイッチャ連動モード】の設定により信号選択項目が異なります。

ビデオユニットとの接続は43ページ、スイッチャ連動モードの設定は89ページをご覧ください。

☐ [1レベル] 設定の場合

【スイッチャ】を選択し、〈SELECT ▶〉ボタンを押すとスロット表示が出ます。

目的のスロット番号を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

- 現在選択されているスロット番号には✓マークを表示します。

スイッチャ
 信号リスト

☒ スロット1
 スロット2
 スロット3
 スロット4
 スロット5
 スロット6
 スロット7
 スロット8
 スロット9
 スロット10

☐ [2レベル] 設定の場合

【スイッチャ】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押すと、スロット選択画面を表示します。

マスタのスロット番号とスレーブのスロット番号を各々のプルダウンリストから選択し【確定】してください。

スロット選択

マスタ

スロット2

スレーブ

スロット3

確定

取消

スロット1
 スロット2
☒ スロット3
 スロット4
 スロット5
 スロット6
 スロット7
 スロット8

■信号リストからの入力選択【信号リスト】

調整済みの信号を信号リストから選択して映すことができます。

「信号リスト」で、〈ENTER〉ボタンを押すと信号リスト画面を表示します。

〈SELECT▲／▼〉ボタンで選択し〈ENTER〉ボタンを押します。

No.	名前	信号種別	端子	キー
001	XGA	RGB	RGB1	CTL+1
002	NTSC3.58	ビデオ	ビデオ1	CTL+2
003	S-VIDEO	S-ビデオ	S-ビデオ	CTL+3
004	COMPO	コンポーネント	RGB2	CTL+4
005	Digital	デジタル	DVI(デジタル)	CTL+5
006	SVGA	RGB	RGB2	CTL+6
007				
008				
009				
010				
011				

- 〈SELECT ►〉ボタンを押すと信号No.が10ずつ進み、〈SELECT ◀〉ボタンを押すと戻ります。
- リストの編集ができます。
- 調整した信号は自動的に信号リストに記録されます。

お知らせ

入力信号の自動登録について

映像・画像を少しでも調整した場合は、若い番号順に自動登録されます。100パターンを超えるとエラーメッセージを表示します。この場合は、信号リスト編集で不要な登録信号を削除してください。

入力信号の手動登録について

〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTRYLIST〉ボタンを押すと、入力信号が直ちに登録されます。ただし、テストパターン表示中は無効となります。これは、テストパターンの青色のオン・オフの切り換えに使用するためです。

■信号リストの編集

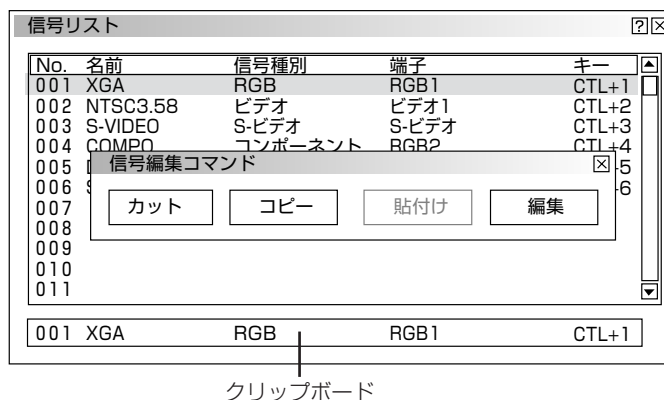
信号リストのカット・コピー・貼付けと登録内容の編集です。

「編集」では信号名の変更、入力端子の選択、リモコンのダイレクトキー設定ができます。

編集の前に信号リスト画面を表示させてください。

リストの信号を削除する

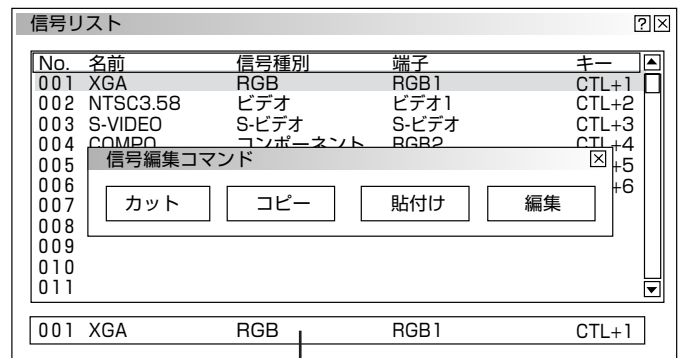
- 1 信号リスト画面から削除する信号を選択します。
- 2 〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押して信号編集コマンド画面を表示させます。
- 3 「カット」を選択すると信号登録内容を削除してクリップボードに貼付け、信号編集コマンド画面を閉じます。
 - 現在投写中の信号を削除することはできません（白文字）。
 - クリップボードの内容は、信号リストを閉じた後も保存されます。
 - 削除を取りやめるには、クリップボードから元の場所に貼り付けます。



入力の選択

リストの信号をコピーする

- 1 信号リスト画面からコピー元の登録No.を選択します。
- 2 <CTL> ボタンを押しながら <ENTER> ボタンを押して信号編集コマンド画面を表示させます。
- 3 [コピー] を選択すると、信号登録内容をクリップボードにコピーして信号編集コマンド画面を閉じます。
- 4 信号リスト画面からコピー先の登録NO.を選択します。
- 5 <CTL> ボタンを押しながら <ENTER> ボタンを押して信号編集コマンド画面を表示させます。表示の [貼付け] が選択可能になります。
- 6 [貼付け] を選択するとクリップボードの内容がコピー先の登録No.にコピーされ信号編集コマンド画面を閉じます。
 - すでにコピー先に信号が登録されている場合は、上書き確認表示が出ますので、[確定] または [取消] を行います。



クリップボード

信号リストを編集する

準備：

1. 信号リスト画面から編集する登録No.を選択します。
2. <CTL> ボタンを押しながら <ENTER> ボタンを押して信号編集コマンド画面を表示させます。
3. [編集] を選択すると信号編集画面が表示されます。

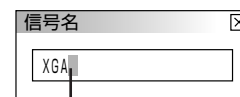
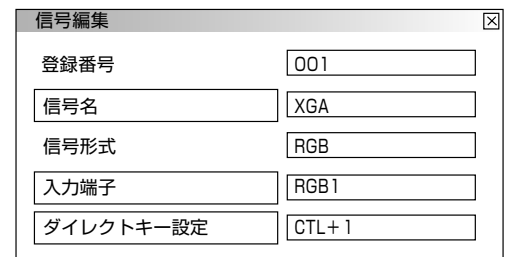
信号名を変更する

[信号名] を選択すると信号名の編集画面を表示します。

最大14の英数字の入力ができます。

- <SELECT ◀▶> ボタンで文字カーソルを移動し、<INPUT> ボタンで英数字を選択します。
文字入力のしかたおよび文字の変更／訂正／消去は次ページをご覧ください。

入力後は <ENTER> ボタンを押します。信号編集画面に戻ります。



文字カーソル

文字カーソルのある位置に入力されます。

入力端子を選択する

入力端子の変更を行います。RGB信号はRGB1／RGB2／RGB3／RGB（デジタル）、コンポーネント信号はRGB1／RGB2／コンポーネント／RGB（デジタル）、ビデオ信号およびS-ビデオ信号はビデオ1／ビデオ2／S-ビデオ1／S-ビデオ2／RGB（デジタル）端子の変更ができます。

- 1 [入力端子] を選択すると入力端子設定画面を表示します。
- 2 <SELECT ▶> ボタンを押すと、プルダウンリストが出ます。
目的の入力端子を選択し、<ENTER> ボタンを押します。
よければ [確定] を選択し、<ENTER> ボタンを押します。
信号編集画面に戻ります。

- 現在投写中の信号を編集する場合、信号名、ダイレクトキー設定は変更できますが、入力端子の変更はできません。（ボタン表示になりません。）

【RGB信号時の表示例】



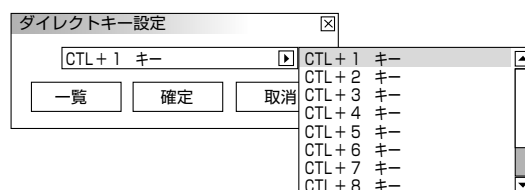
ダイレクトキーを設定する／一覧を見る

ダイレクトキー設定を行うと〈INPUT〉ボタンから直接登録No.の信号に切り換えることができます。

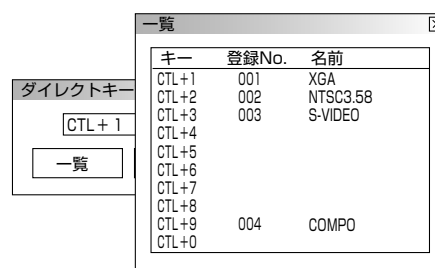
切り換えるには〈CTL〉ボタンを押しながら、目的の〈INPUT〉ボタンを押します。

1 [ダイレクトキー設定] を選択するとダイレクトキー設定画面を表示します。

2 〈SELECT ▶〉ボタンを押すと、プルダウンリストが出ます。
プルダウンリストから対応させる数字キーを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。よければ[確定]を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。信号編集画面に戻ります。



ダイレクトキー設定一覧を見るには、[一覧] を選択します。
閉じるには〈ENTER〉ボタンを押します。



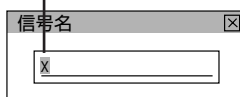
文字入力のしかた

文字入力のリモコンの〈INPUT〉ボタン（0～9）を使います。

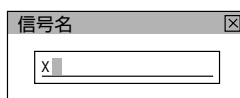
入力例 “XGA” を入力

1 対応表より“X”は〈8〉ボタンを使います。〈8〉ボタンを押して“X”を選択します。（押すごとにV→W→X→8 とくり返し変わります）

文字カーソル

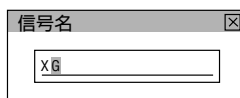


2 〈SELECT ▶〉ボタンを押して文字カーソルを次へ移動させます。

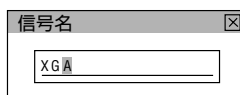


3 対応表より〈3〉ボタンを押して“G”を選択します。

以下同じ操作で入力します。



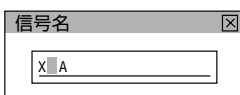
4 入力が終わりましたら〈ENTER〉ボタンを押します。
信号名表示が閉じます。



文字の変更／訂正／消去

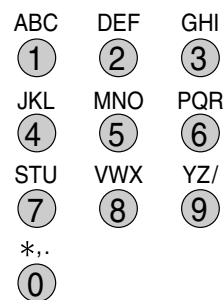
変更したい文字上に文字カーソルを合わせ、入力例**1**の要領で文字を選択します。

また、リモコンの〈CTL〉 + 〈SELECT ◀〉(BS) ボタンを押すと文字カーソルの文字が削除されます。



数字ボタンと英文字対応表

数字ボタン	直接押す	CTL併用時
1	A B C 1	a b c !
2	D E F 2	d e f "
3	G H I 3	g h i #
4	J K L 4	j k l \$
5	M N O 5	m n o %
6	P Q R 6	p q r &
7	S T U 7	s t u '
8	V W X 8	v w x (
9	Y Z / 9	y z ?)
0	*, . 0	; : + -



信号の調整

入力信号の映像・画像調整や色再現性の基本調整、レンズメモリの設定をします。

オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」(20ページ参照)をご覧ください。

映像調整

■映像の調整【明るさ コントラスト サチュレーション カラー 色相 シャープネス 垂直輪郭補正】

調整は目的の映像を映してから行ってください。

メニューの【信号調整】→【映像調整】から項目を選択して調整表示を出し〈SELECT ◀/▶〉ボタンで調整します。

●現在の入力選択で調整できない調整・設定項目は表示されません。

項 目	SELECT ◀(−) ボタン	SELECT ▶(+) ボタン
明るさ	暗くなります	明るくなります
コントラスト	画像が淡くなります	画像が濃くなります
サチュレーション	飽和度が下がります	飽和度が上がります
カラー	色が淡くなります	色が濃くなります
色 相	赤みがかります	緑がかります
シャープネス	やわらかい画像になります	くっきりした画像になります
垂直輪郭補正	輪郭強調が少なくなります	輪郭が強調されます

【調整表示例：明るさ】

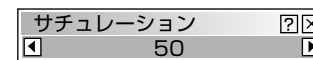


調整バーの長さが変わります。

標準調整がある項目の場合は、標準位置のときに緑色に変わります。

※サチュレーション

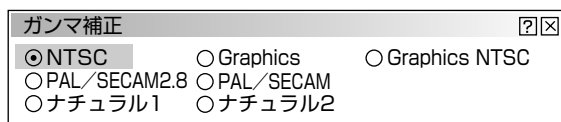
アナログ入力信号のホワイトピーク時の飽和度(サチュレーション)の調整ができます。



■ガンマ補正の選択【ガンマ補正】

映像の黒い部分の階調の選択です。これにより暗い部分も鮮明に表現します。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで目的のガンマ補正を選択します。



- NTSC……………NTSC信号用のガンマ調整値
- Graphics ……………グラフィック用のガンマ調整値
- Graphics NTSC……グラフィックとNTSC兼用のガンマ調整値(デフォルト値)
- PAL/SECAM2.8 ……ガンマ値2.8の調整値
- PAL/SECAM…………PALとSECAM信号のガンマ調整値
- ナチュラル1 ……………映画観賞用の調整値1
- ナチュラル2 ……………映画観賞用の調整値2(2.2のγ値)

ホワイトバランスの調整

■色温度の調整【色温度】

白さを基準にするか肌色を基準にするかの調整です。入力信号によって使いわけてください。

オートホワイト機能がオンのときは調整できません。(85ページ参照)

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで調整します。



色温度 高…白が鮮やかになります。(肌色は青っぽくなります。)

色温度 低…あたたかみのある肌色になります。(赤っぽい白色になります。)

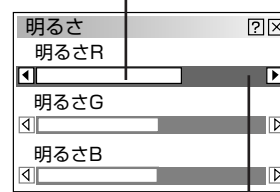
■黒レベルの調整【明るさ】

入力信号の黒レベル補正で、色の再現性を調整します。

〈SELECT ▲/▼〉ボタンで [明るさR], [明るさG], [明るさB] を選択します。(選択された調整バーは明るくなります。)

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで画像の黒色を調整します。

調整バーの長さが変わります。



標準調整位置は緑色に変わります。

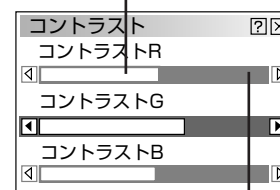
■白レベルの調整【コントラスト】

入力信号の白レベル補正で、色の再現性を調整します。

〈SELECT ▲/▼〉ボタンで [コントラストR], [コントラストG], [コントラストB] を選択します。(選択された調整バーは明るくなります。)

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで画像の白色を調整します。

調整バーの長さが変わります。



標準調整位置は緑色に変わります。

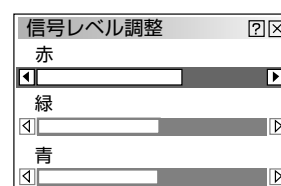
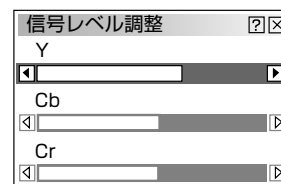
■信号レベルの調整【信号レベル調整】

入力する信号によっては、映像信号にばらつきがあります。入力信号のレベルを調整します。

コンポーネント信号入力時は [Y], [Cb], [Cr] が、RGB信号入力時は [赤], [緑], [青] の調整表示が出ます。

〈SELECT ▲/▼〉ボタンで選択します。(選択された調整バーは明るくなります。)

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで信号レベルを調整します。



信号の調整

画像の調整

■画素の調整【画素調整】

RGB信号の画素ずれを調整します。

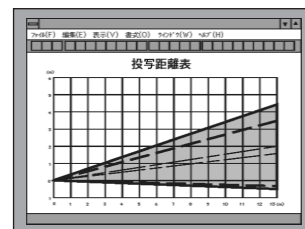
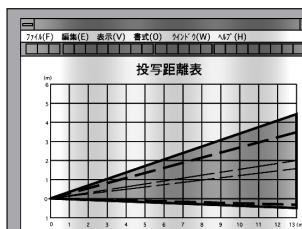
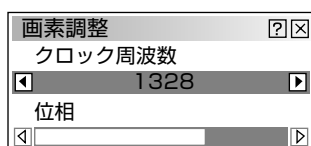
コンピュータの画素サイズとプロジェクタの画素サイズを合わせるのがクロック周波数の調整で、コンピュータの位相とプロジェクタの画素の位相を合わせるのが位相調整です。

RGB入力の場合、[自動調整（RGBのみ）] を設定していると白文字になり選択できません。手動に切り換えてください。（83ページ参照）

〈SELECT▲／▼〉ボタンで調整する項目を選択します。選択すると調整バーが明るくなります。
はじめにクロック周波数を調整し、つぎに位相を調整してください。

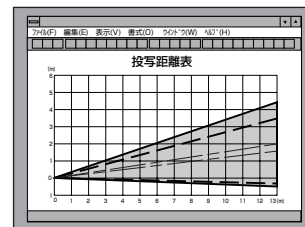
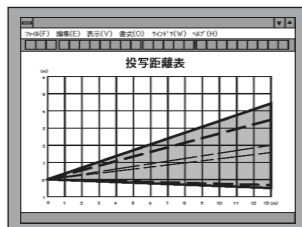
クロック周波数の調整

〈SELECT ◀／▶〉ボタンを押して画面の明るさが一定になる（明暗の縦帯が出なくなる）ところが最適な調整です。



位相の調整

〈SELECT ◀／▶〉ボタンを押して画面の色ずれ、ちらつきの最小になるところが最適な調整です。

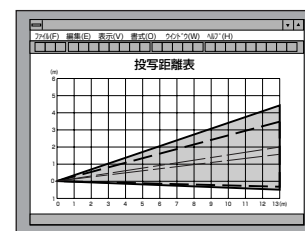
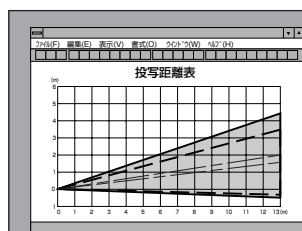
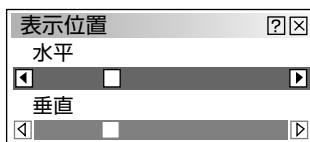


■画像の表示位置の調整【表示位置】

画面の表示位置を調整します。

RGB入力の場合、[自動調整（RGBのみ）] を設定していると白文字になり選択できません。手動に切り換えてください。（83ページ参照）

〈SELECT▲／▼〉ボタンで調整する項目を選択します。選択すると調整バーが明るくなります。
〈SELECT ◀／▶〉ボタンで調整します。



■表示モードの選択【アスペクト】

入力信号と表示領域それぞれ個別にサイズを指定します。信号に合わせて画面サイズを設定してください。

「解像度」をリアルに設定していると白文字になり選択できません。
(下記参照)

また、すでに調整・設定している内容も無効になります。

〈SELECT▲／▼〉ボタンで項目を選択し、〈SELECT◀／▶〉ボタンで目的の入力信号と表示領域を選択（●になります）します。

アスペクト	
入力信号	☒ 1.25:1 (5:4) ☐ 1.33:1 (4:3) ☐ 1.78:1 (16:9) ☐ 1.85:1 ☐ 2.35:1
表示領域	☒ 1.25:1 (5:4) ☐ 1.33:1 (4:3) ☐ 1.78:1 (16:9) ☐ 1.85:1 ☐ 2.35:1

■アドバンスド・アキュブレンドの選択【解像度】

アドバンスド・アキュブレンド機能の 入／切 の設定です。

本機の表示画素数は1280×1024ドットです。この表示画素数以外の表示解像度を表示する際、文字や野線の大きさが不均一になる場合があります。これをアドバンスド・アキュブレンド機能で補正します。

RGB入力の場合、[自動調整 (RGBのみ)] を設定していると白文字になり選択できません。手動に切り換えてください。(83ページ参照)

〈SELECT◀／▶〉ボタンで選択します。

- フル……………アドバンスド・アキュブレンド機能を入れます。
投写中の信号 (VGA, SVGA, XGA, SXGA, U-XGA) によらず、プロジェクトが自動的に拡大・縮小してフル画面で表示します。
- リアル……………アドバンスド・アキュブレンド機能を切ります。
投写中の信号解像度がプロジェクトの表示画素数より下の解像度 (VGA／SVGA／XGAなど) の場合、オリジナルサイズで縮小表示されます。

解像度	
☒ フル	☐ リアル



- 本機の表示画素数より上の解像度 (U-XGA) などの信号を表示した場合は、[リアル] を選択してもフル (表示画素数) で表示されます。
SXGAは解像度調整は無効です。U-XGAについては信号によってリアル時の方が拡大表示されます。
- 垂直オフセットが0度以外で投写しているときは、画像が正しい位置に表示されません。
- パネルの解像度より下の解像度の信号をリアルで投写すると、映像が小さくなります。このような信号の場合に、あらかじめレンズシフト・ズーム・フォーカス調整を [レンズメモリ] の [カスタム] で信号別に保存することで、映像を画面一杯に映すことができます。

信号の調整

■オーバースキャンの選択【オーバースキャン】

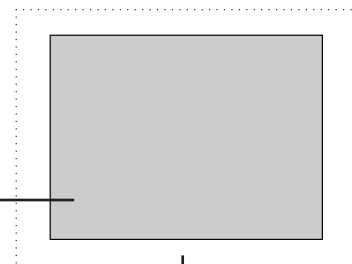
オーバースキャンの割合を設定します。

RGB入力とHD-SDI入力（別売のオプションボード装着時）に動作します。

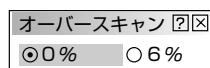
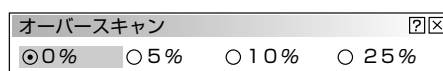
〔解像度〕をリアルに設定していると白文字になり選択できません。（65ページ参照）

また、すでに調整・設定している内容も無効になります。

投写される画像



25%オーバースキャンされた実際の画像例



〈SELECT ◀/▶〉ボタンで目的の割合を選択します。

選択するとラジオボタンが●になります。

別売のHD-SDIボードのSDI入力を映している場合は、〔0% 6%〕

の選択表示になります。

■映像フィルタの設定【ビデオ帯域フィルタ】

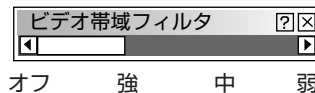
映像のざらつきやジッター（文字などの微妙な揺れ）を低減させます。

工場設定では、あらかじめ信号ごとに適した状態に設定されています。

信号によって、映像のざらつきやジッターがきになる場合に設定します。

RGB入力の場合、〔自動調整〕を設定していると白文字になり選択できません。

手動に切り換えてください。（83ページ参照）



〈SELECT ◀/▶〉ボタンで選択します。

調整バーが オフ/強/中/弱 と移動します。

■ブランキングを調整する【ブランキング】

映像信号の上端と下端の表示範囲（ブランキング）を調整します。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで 〔動作〕または〔非動作〕 を選択します。

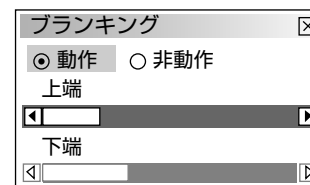
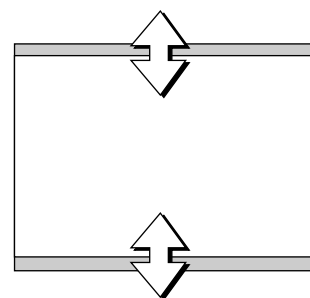
● 動作………ブランキング機能が有効になります。

● 非動作………ブランキング機能が無効になります。

ブランキングの調整

〔動作〕を選択すると調整可能となります。

〈SELECT ▲/▼〉ボタンで〔上端〕または〔下端〕を選択し、〈SELECT ◀/▶〉ボタンで調整します。



画質の調整

■ビデオ信号のノイズを低減する【ノイズリダクション】

映像のざらつきや色彩のにごりの原因となるノイズを低減させます。

輝度信号と色信号の選択でノイズの一番少ない映像にします。
 〈SELECT▲／▼〉ボタンで項目を選択し、〈SELECT◀／▶〉ボタンで強弱を選択します。

ノイズリダクション

輝度信号

○ オフ ○ 弱 ○ 中 ○ 強

色信号

○ オフ ○ 弱 ○ 中 ○ 強

- オフ ……………ノイズリダクションを切ります。
- 弱, ○ 中, ○ 強 ……輝度信号および色信号のノイズリダクションの強さを3段階から選択します。

■カラーマトリクスを選択【カラーマトリクス】

コンポーネント信号用の設定です。

〈SELECT▲／▼〉ボタンで「マトリクス選択」または「マトリクスタイプ」を選択し、〈SELECT◀／▶〉ボタンで選択します。

カラーマトリクス

マトリクス選択

○ HDTV ○ SDTV

マトリクスタイプ

○ B-Y/R-Y ○ U/V ○ Cb/Cr

○ Pb/Pr ○ IVX

マトリクス選択

ハイビジョン放送仕様かデジタル放送仕様のカラーマトリクスかの設定です。入力信号のカラーマトリクスタイプを選択します。

- HDTV…ハイビジョン放送仕様のカラーマトリクスです。
- SDTV ……デジタル放送仕様のカラーマトリクスです。

マトリクスタイプ

映像複合信号をRGB信号に分離する形式の選択です。入力信号のカラーマトリクスタイプに合わせます。

- B-Y/R-Y ……………B-Y/R-Y のマトリクスタイプ
- U/V ……………U/V のマトリクスタイプ
- Cb/Cr ……………Cb/Cr のマトリクスタイプ
- Pb/Pr ……………Pb/Pr のマトリクスタイプ
- IVX ……………IVXのマトリクスタイプ

■Y／Cディレイを調整する【Y／Cディレイ】

ビデオ入力時の輝度信号・色信号の位相調整を行います。映像の輪郭の色がおかしい場合に調整します。

〈SELECT◀／▶〉ボタンで最適な映像に調整します。

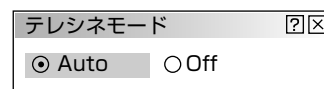
Y／Cディレイ

信号の調整

■ テレシネモードの設定【テレシネモード】

映画などを映す場合に、本機のI-P変換処理モードをテレシネ信号に最適なモードに自動切り換えするかOFFにするかの設定です。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで選択します。



● Auto ……映画以外の信号を映す場合に設定します。

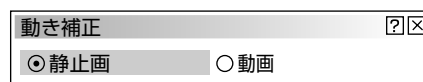
● Off ……映画などのテレシネ変換された信号を映すのに適した走査変換モードです。

■ 動き補正の選択と調整

動きの多い映像、静止画の多い映像の画像補間の方法を選択します。

動き補正の設定【動き補正】

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで選択します。



● 静止画 ……静止画に適した補間をします。

● 動画 ……動画に適した補間をします。

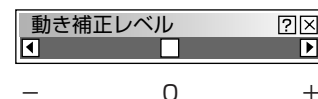
〔動き補正レベル〕で動きに合わせた調整ができます。

動き補正レベルの調整【動き補正レベル】

動き補正を〔動画〕に設定しているときの調整です。

〔静止画〕に設定していると白文字になり選択できません。〔動画〕に切り換えてください。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで選択します。



0 ……標準レベルです。

－ 方向（２段階） ……動きの遅い映像に適しています。

＋ 方向（２段階） ……動きの早い映像に適しています。

■ 輝度信号のトランジェント調整【YTR調整】

ビデオ入力時の輝度信号の立ち上がり／立ち下がりを補正します（トランジェント）。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで調整します。

7段階の調整となります。



標準調整位置の場合は緑色になります。

■ 色信号のトランジェント調整【CTR調整】

ビデオ入力時の色信号の立ち上がり／立ち下がりを補正します（トランジェント）。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで調整します。

7段階の調整となります。



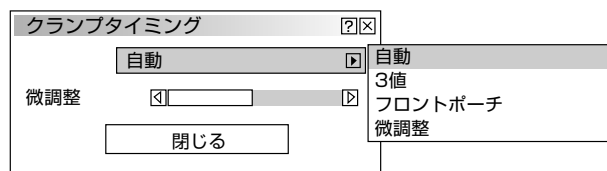
標準調整位置の場合は緑色になります。

オプション調整

■ クランプタイミングの設定【クランプタイミング】

アナログ入力信号の黒レベル再生の検出位置（クランプ位置）を信号に応じて設定します。

〈SELECT ▶〉ボタンでプルダウンリストを表示させ〈SELECT ▲／▼〉ボタンで選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
閉じるときは「閉じる」を選択して〈ENTER〉ボタンを押します。



自動 …………… 通常の設定です。

3値 …………… ハイビジョン映像を映すときに設定します。

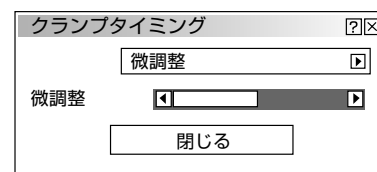
フロントポーチ …自動や3値に設定しても画質が改善されない場合に設定します。

微調整 …………… 信号ごとに映像クランプ位置の設定ができます。
通常は使用しません。（1080pは、工場出荷時に設定済みです。）

- 「微調整」は、1080p等の特殊なアナログ信号を受信したときにミスクランプが生じた場合に使用してください。
また、NTSCおよびPAL等のDoubler信号に対しては「微調整」は無効です。

微調整の方法

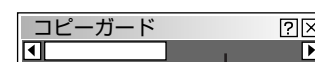
「微調整」を選択した後〈SELECT ▼〉ボタンで調整バーに移し、〈SELECT ◀／▶〉ボタンで調整します。



■ コピーガード再生時の画面調整【コピーガード】

コピーガード（コピー防止システム）対応のビデオテープ、DVDなどを再生すると、画面が曲って表示されることがあります。このような場合に調整します。

〈SELECT ◀／▶〉ボタンで最適な画面に調整します。

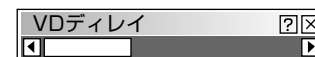


標準設定値時は緑色に変わります。

■ VDディレイの調整【VDディレイ】

特殊なインターレース信号などで、画面上で垂直微動がある場合に調整してください。

〈SELECT ◀／▶〉ボタンで最適な画面に設定します。



- スキャンコンバータを接続すると画面が乱れる場合は、画面が乱れないレベルに調整してください。

信号の調整

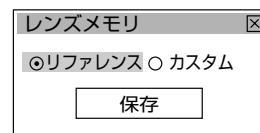
レンズメモリ

■ レンズ調整を保存する【レンズメモリ】

レンズ調整（レンズシフト・ズーム・フォーカス^{*}）を行った値を保存します。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで選択し、〈SELECT ▼〉ボタンで「保存」に合わせ〈ENTER〉ボタンを押します。

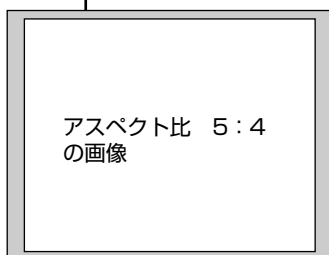
- ◎ リファレンス …カスタムに設定した場合以外の共通の調整値です。
 全ての入力信号に対して共通の調整値で、前の調整値に上書きされます。
 （無信号状態および新規入力信号等の初期設定は「リファレンス」に上書きされます。）
- ◎ カスタム ………各入力信号別に調整値が保存できます。



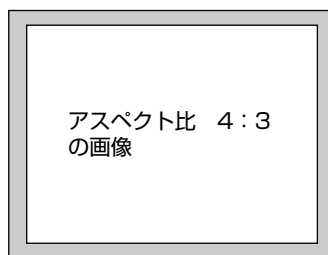
使用例と設定

アスペクト比4:3のスクリーンにSXGA等のアスペクト比5:4とNTSCなどのアスペクト比4:3の信号を表示させたいとき縦長のアスペクト比5:4信号の垂直画面サイズを基準にレンズシフト・ズーム・フォーカスの調整を行います【図1】。この状態で4:3の画像を投写すると画面サイズは小さくなります【図2】。これを解消するために、アスペクト比4:3の信号およびアスペクト比5:4の信号ごとに最適な状態に調整して、それぞれ保存させておけば、入力信号の切り換えで、最適な画面サイズで投写することができます【図3】。

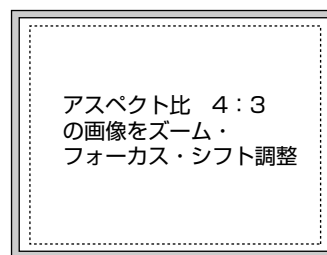
アスペクト比 4:3 のスクリーン



【図1】



【図2】



【図3】

1. メニューの「機器設定」→「セットアップ」→「ページ4」の「レンズメモリ」にチェックマークを入れます。（85ページ参照）
2. 無信号にするか、アスペクト比5:4の信号を投写してからレンズシフト・ズーム・フォーカスをそれぞれ調整します。
3. 「レンズメモリ」の「リファレンス」を選択し、「保存」します。
4. アスペクト比4:3の信号を投写してからレンズシフト・ズーム・フォーカスをそれぞれ調整します。（アスペクト比5:4でも個別に調整したい場合も同様です。）
5. 「レンズメモリ」の「カスタム」を選択し、「保存」します。
 これで、アスペクト比5:4の調整値を基準調整値（リファレンス）として、4:3の入力信号時には自動的に調整された画面サイズで投写されます。



★ フォーカス調整は98ページをご覧ください。

- レンズメモリ機能は、オプションレンズのTL-1Z, TL-1ZH, TL-1ZX, TL-1ZHX, TL-2ZおよびTL-2ZX装着時に有効です。
- レンズメモリ機能は、リンクモード時は無効です。
- 保存させるには、リモコンの〈CTL〉ボタンを押しながら〈INFO〉ボタンを押す方法もあります。ただし、リモコンを使って保存するときは、あらかじめ設定されている「リファレンス」または「カスタム」に保存されます。

信号形式

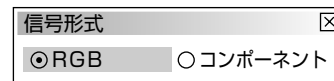
■信号形式の設定【信号形式】

RGB信号形式がコンポーネント信号形式かを設定します。

RGB1, RGB2, RGB（デジタル）で有効です。入力されている信号を強制的に切り換えることができます。（入力信号によっては、選択できない場合があります。）

〈SELECT ◀/▶〉 ボタンを押して選択します。

- ◉ RGB ……………RGB信号
- ◉ コンポーネント ……YCbCr／YPbPrなどのコンポーネント信号



ビデオユニットの調整

ビデオユニット（ISS-6020J）からの入力信号のゲインとビデオユニットのAUDIO OUTPUT への音量レベル制御の設定です。接続については43ページをご覧ください。

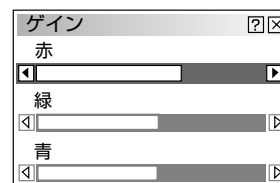
ビデオユニットを接続すると、本機からの操作でビデオユニットを制御することができます（最大100ユニットの制御可）。機器の画像調整を統合化して管理するためには、各々のスロットからの画像を調整することにより（調整値は信号リストに自動登録）、どの機器も同じ画像状態で再現することができます。

調整はビデオユニットに接続した外部機器の信号を入力した状態で行います。（無信号時でも調整は可）

■スイッチャRGBゲインの調整【ゲイン】

ビデオユニットからのRGB入力信号の各ゲインを調整します。

〈SELECT ▲/▼〉 ボタンで調整バーを選択し、〈SELECT ◀/▶〉 ボタンで調整します。



■スイッチャ音量の調整【音量】

ビデオユニットのAUDIO OUTPUT への音量レベル制御の設定です。スロットに対応させた音量レベルを設定します。

〈SELECT ◀/▶〉 ボタンで調整します。



機器の調整

オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」（20ページ参照）をご覧ください。

■上下方向台形歪みの調整【台形補正】

プロジェクタ設置時にプロジェクタとスクリーンが斜めに（上下方向）なっていると台形の歪みが生じます。この歪み調整に台形補正を使います。

〔解像度〕をリアルに設定していると白文字になり選択できません。（65ページ参照）

また、すでに調整・設定している内容も無効になります。

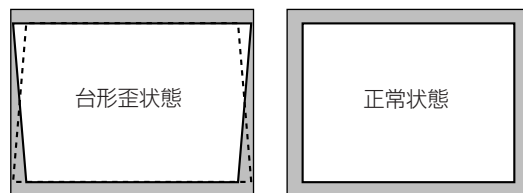
〈SELECT ◀/▶〉ボタンで左右が平行になるように調整します。

- 台形補正值を保存しておくことができます。（84ページ参照）
- レンズが0度の場合で、上下方向に最大約-7.5～+7.5度まで補正できます。
ただし、本機の表示画素数より上の解像度の信号を表示した場合、補正可能範囲が狭くなることがあります。



標準調整位置は緑色に変わります。

調整バーの長さが変わります。



■ランプ出力の設定と調整

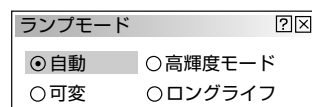
プロジェクタのスタック設置など複数台で使用する際のランプ出力調整に使います。

暗い方のプロジェクタを目安に調整してください。

（SX4000DJでは〔高輝度モード〕は表示されません。）

ランプモードの設定【ランプモード】

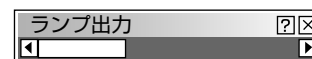
〈SELECT ◀/▶〉ボタンで選択します。



- 自動 ……輝度を一定にするため自動で出力を調整します。
- 高輝度モード（SX6000DJのみ）…ランプの輝度が上がります。（ランプ寿命は短くなります。）
- 可変 ……手でランプ出力を調整する場合の設定です。
- ロングライフ ……ランプ寿命を延ばしたいときの設定です（最長2000時間）。ランプ輝度は下がります。

ランプ出力の調整【ランプ出力】

〔ランプモード〕を可変に設定しているときに調整できます。



〈SELECT ◀/▶〉ボタンで調整します。

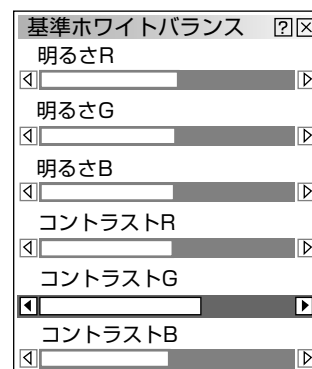
■基準ホワイトバランスの調整【基準ホワイトバランス】 （テストパターン画面のみ有効）

各信号形式共通のホワイトバランス調整です。

〈SELECT ▲/▼〉ボタンで調整バーを選択し 〈SELECT ◀/▶〉ボタンで調整します。
（選択された調整バーは明るくなります。）
テストパターンを表示させてから調整してください。

〔明るさR〕・〔明るさG〕・〔明るさB〕で画像の黒レベルを調整します。

〔コントラストR〕・〔コントラストG〕・〔コントラストB〕で画像の白レベルを調整します。



調整データのリセット

オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」（20ページ参照）をご覧ください。

■調整データのリセット【データリセット】

プロジェクトに記録された全調整・設定値または表示中の信号について調整した調整値を初期値に戻します。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで「全データ」または「表示中の信号」を選択します。

全データを選択したときは、信号リストも 含む／含まない の選択ができます。
 〈SELECT ▲/▼〉ボタンを押して「信号リストも含む」にカーソルを合わせ、
 〈ENTER〉ボタンを押して✓を入れます。再び押すとチェックが外れます。

リセットの動作中は「しばらくお待ちください」と表示します。

- 全データ …………… 設定値が工場設定値になります。

リセットされるデータ

[表示言語]・[プロジェクトID]・[ランプ使用時間]・[機器使用時間]・[通信速度]
 以外の全ての調整・設定値

信号リストも含む

- ☒ チェックを入れる …… 信号リスト内の登録信号を削除して工場出荷状態に戻します。

- ☐ チェックを入れない …… 信号リスト内の登録信号を残して工場出荷状態に戻します。

信号リスト内の登録信号の調整値は戻りません。

- 表示中の信号 …………… 表示中の信号について調整した調整値が工場設定値になります。

リセットされるデータ

メニュー項目の「信号調整」以下の項目

取り止めるときは、「取消」を選択してください。

〈CANCEL〉ボタンでも取り消すことができます。

機器設定

オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」（20ページ参照）をご覧ください。

タイマー

■オン・オフタイマーの設定と動作【オン/オフタイマー】

オン・オフタイマー設定をするとプロジェクトの電源ON/OFFを自動で行うことができます。8プログラムまで設定できます。

- お願い** タイマー機能を使う場合は、必ず現在時刻の設定を行ってください。
時刻設定はメニューの [メニュー設定] → [ページ2] にあります。（79ページ参照）

次の手順で設定してください。

項目の選択は〈SELECT▲/▼〉ボタン、ラジオボタンの選択は〈SELECT◀/▶〉ボタン、チェックボタンの選択は〈ENTER〉ボタンで行い、プルダウンリストは〈SELECT▶〉ボタンで表示します。

オン/オフタイマー

Prg.	週	曜日	オン	オフ
1	毎週	月	19:30	22:30
2				
3				
4				
5	今週	水	07:30	08:00
6				
7				
8				

動作切替

☒ 動作
 ☐ 非動作

編集

確定

取消

オン・オフタイマー設定のしかた

- 編集設定画面を開く
[編集] を選択します。
- プログラム番号を選択する
[プログラム] のプルダウンリスト（プログラム1～プログラム8）から選択します。
- 週を選択する
毎週くり返す場合は [毎週] にチェックを入れます。今週のみの場合は [毎週] のチェックは外してください。
- 曜日を選択する
[曜日] のプルダウンリスト（月、火、水、木、金、土、日、月一金、月一土、月一日）から選択します。
- 〈INPUT〉ボタンでオン時刻を入力します。時刻は24時間表記です。
例えば、午前6時のときは06時と入力してください。文字カーソルの場所に文字が入力されます。1文字入力すると文字カーソルが次に移ります。
- 〈INPUT〉ボタンでオフ時刻を入力します。
5と同じ要領で入力します。
※ オンタイマーのみ動作させる場合は、[オフ時刻] を空白に設定します。
オフタイマーのみ動作させる場合は、[オン時刻] を空白に設定します。
すでに時刻が入力されている場合は〈CTL〉+〈SELECT◀〉(BS) ボタンで削除します。（カーソルの数字が削除されます。）
- 登録します。
[登録] を選択します。他のプログラム番号に登録する場合は2の操作から行います。終了する場合は [閉じる] を選択してください。

編集

プログラム1

☒ 毎週

曜日

月

オン時刻

13:00

オフ時刻

15:10

登録

削除

閉じる

- お知らせ** オンタイマーのみプログラムで本機を起動し、その後4時間以上リモコンなどによる操作がなかった場合は、スタンバイ状態になります。

オン／オフタイマーを動作させる

- 1 オン／オフタイマー設定画面で〔動作切替〕の〔動作〕を選択します。
- 2 〔確定〕を選択し〈ENTER〉ボタンを押すとオン／オフタイマー設定画面を閉じてタイマー動作が始まります。

- 複数のプログラムを設定した場合は、すべてのプログラムが有効になります。
- オン／オフタイマーはプログラムの設定時間の若い順に動作し、オン／オフ動作が完了したプログラムは自動的に削除されます（〔今週〕の場合）。
- 電源コードを抜いた場合、〔今週〕のプログラムは、実行・未実行に関わらずクリアされます。〔毎週〕のプログラムは、電源コードを抜いても保持されます。

Prg.	週	曜日	オン	オフ
1	毎週	月	19:30	22:30
2				
3				
4				
5	今週	水	07:30	08:00
6				
7				
8				

動作切替
☒ 動作 ☐ 非動作

編集 確定 取消



- 冷却ファン回転中やエラー状態の場合、オンタイマーは動作しません。（本体後面にある主電源は切らないでください。）

オン／オフタイマーの動作を途中で止める

オン／オフタイマー設定画面で〔動作切替〕の〔非動作〕を選択します。（プログラムの設定内容は残ります。）

プログラム削除のしかた

〔オン／オフタイマー〕→〔編集〕設定画面で、〔プログラム〕のプルダウンリストから削除するプログラムを選択し、〔削除〕を選択して〈ENTER〉ボタンを押すと削除されます。（プログラム一覧表示から消えます。）

編集

プログラム1 ▾

☐ 毎週

曜日 月 ▾

オン時刻 00:00

オフ時刻 00:00

登録 削除 閉じる

■スリープタイマーの設定【スリープタイマー】

電源の消し忘れ防止にスリープタイマーを設定しておくことで省エネになります。設定時間後に電源が切れます。（スタンバイ状態になります。）

- 1 〔登録時間〕のプルダウンリスト（オフ、0：30、1：00、1：30、2：00）から電源切り時間を選択します。
- 2 〔登録〕を選択し〈ENTER〉ボタンを押すとタイマーが動作します。

〔残り時間〕はスリープタイマーの残り時間を表示します。

- オン／オフタイマーのオフ設定時刻より早くスリープタイマーの設定時間がきたときはスリープタイマーの時間が優先されます。

スリープタイマー

残り時間 オフ

登録時間 オフ ▾

登録

0:30
1:00
1:30
2:00

メニュー設定

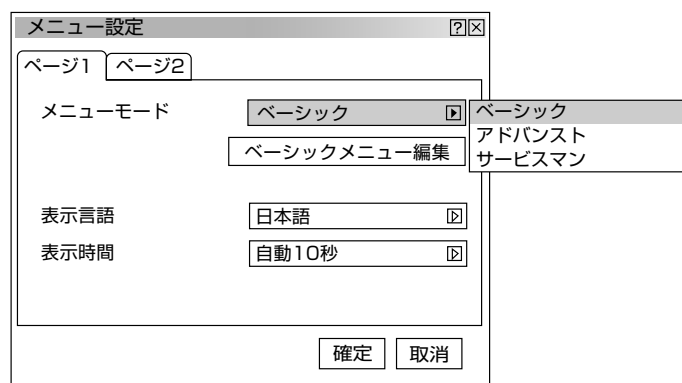
■表示させるメニューモードの選択【メニューモード】

メニュー表示は、すべてのメニュー項目を表示するアドバンスメニューとお客様独自に登録したメニュー項目のみを表示するベーシックメニューがあります。表示させたいメニューを選択します。

工場出荷時は基本的なメニュー項目に登録したベーシックメニューに設定しています。登録内容を変えるには「ベーシックメニュー編集」を行ってください。

【メニューモード】で〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。目的のモードを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。（「サービスマン」はサービスマン専用のモードです。）

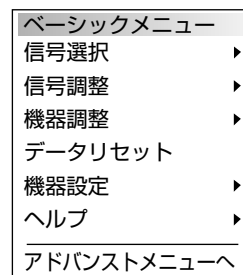
よければ「確定」を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。メニューに戻ります。



お知らせ

ベーシックメニュー表示のとき一時的にアドバンスメニューを表示させる場合

ベーシックメニューに登録していない項目の調整・設定を行う場合は、〈SELECT ▲/▼〉ボタンで「アドバンスメニューへ」を選択して〈ENTER〉ボタンを押します。一時的にアドバンスメニュー表示に変わります。再び〈MENU〉ボタンを押したときはベーシックメニュー表示に戻ります。



■ベーシックメニューを編集する【ベーシックメニュー編集】

ベーシックメニューに表示させるメニュー項目の登録／解除を行います。

1 「ベーシックメニュー編集」を選択し〈ENTER〉ボタンを押すと、ベーシックメニュー編集画面が開きます。

登録または解除するメニュー項目にカーソルを合わせ〈ENTER〉ボタンを押して、登録（チェックが入る）または、解除（チェックが消える）を選択します。

☒ チェックを入れる ……登録されます。

☐ チェックを入れない ……登録が解除されます。

- 同様に他のメニュー項目も選択します。
- カーソルを表示範囲の一番下へ移動させ、〈SELECT ▼〉ボタンを押すと1つずつスクロールし次のメニュー項目が出ます。



2 <SELECT ▶> ボタンで [確定] を選択し、<ENTER> ボタンを押します。メニュー設定画面に戻ります。

お知らせ 確定をするとメニュー設定での [取消] はできません。

取り消す場合

[取消] を選択し、<ENTER> ボタンを押します。編集前の状態に戻してメニュー設定画面に戻ります。

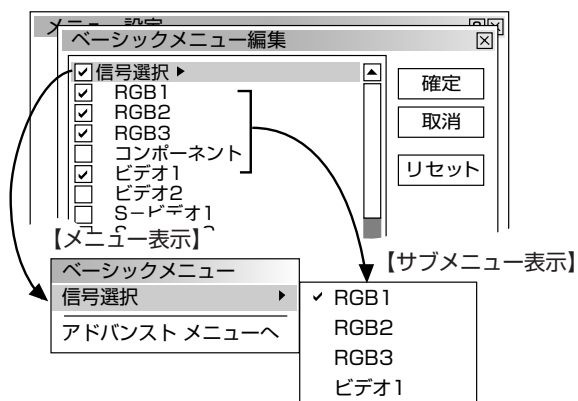
登録を工場設定に戻す場合

[リセット] を選択し、<ENTER> ボタンを押します。メニュー項目のチェックが工場設定に戻ります。

<SELECT ◀> ボタンを押して青色のカーソルを項目選択へ戻し、はじめから操作してください。

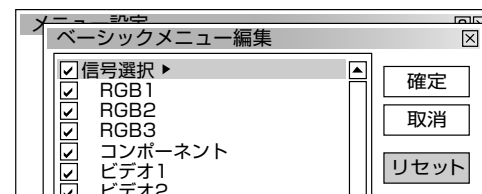
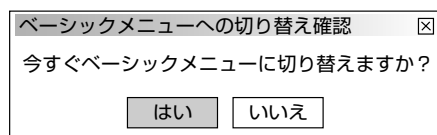
お知らせ

信号選択や画像設定など ▶ が付いている項目を登録するとメニュー表示時にサブメニューで表示します。またこの項目の選択だけでサブメニュー全部の登録ができます。サブメニューの項目中1つ以上を解除に設定すると ▶ が付いている項目名のチェックがグレーになります。



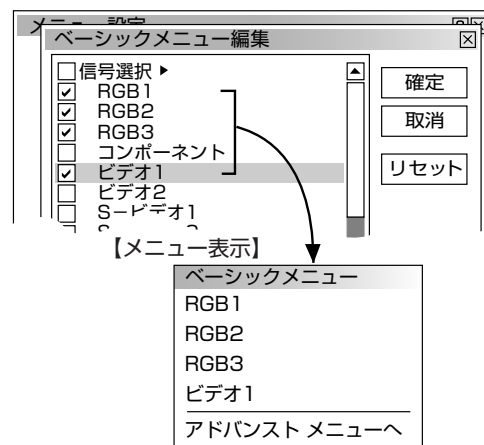
メニューモードが [アドバンスト] に設定された状態でベーシックメニュー編集を [確定] すると、ベーシックメニューへの切り替え確認表示が出ます。

[はい] を選択すると、開いている画面が全て閉じてベーシックメニューが表示されます。[いいえ] を選択すると、メニューはアドバンストメニューのままで、ベーシックメニュー編集の設定が保存されます。ベーシックメニューを表示するには、メニューモードで [ベーシック] を選択します。



メニュー表示のときサブメニューを表示しないようにするには ▶ が付いている項目名のチェックを外して、個々にチェックを入れてください。

サブメニューを表示しない方法では最大12項目が登録できます。(サブメニュー表示と非表示の組み合わせでも最大12項目となります。)



工場設定時のベーシックメニュー項目

以下の項目がチェックされています。

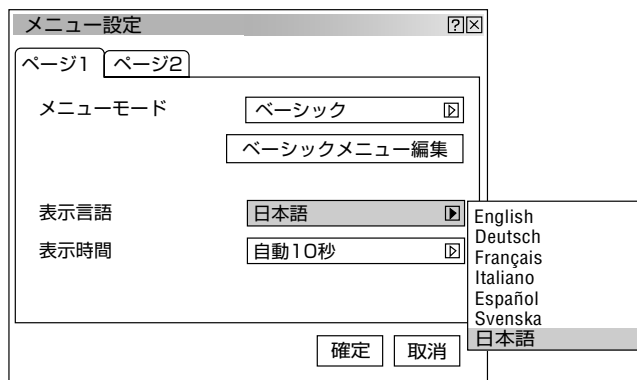
信号選択、明るさ、コントラスト、画素調整、表示位置

■メニューの表示言語を選択【表示言語】

メニューに表示される言語の設定です。

〔表示言語〕で〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の言語を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

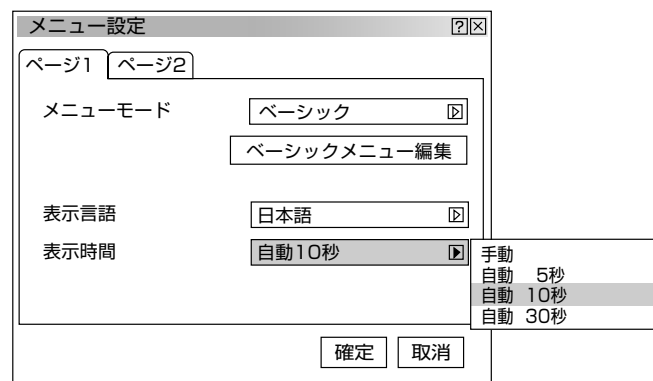


■オンスクリーンの表示時間の選択【表示時間】

オンスクリーンを表示しているとき、次のボタン操作がない場合に自動で画面から消去する時間の選択です。

〔表示時間〕で〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の時間を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。



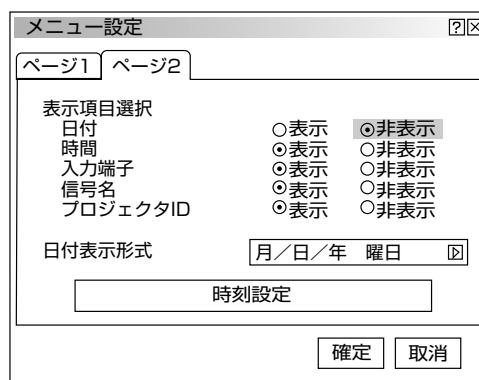
- 〔手動〕を選択した時にオンスクリーンを閉じるには〈MUTE OSD〉ボタンを押します。
- メニューが自動で閉じた後に〈MENU〉ボタン、〈ENTER〉ボタン、〈CANCEL〉ボタン、〈SELECT ◀/▶〉ボタンのいずれかを押すと、閉じる前に表示していた状態のメニューが表示されます。
ただし、メニューが閉じている間に入力信号を切り換えた場合は、閉じる前に表示していたメニューは表示されず、通常のメニュー操作と同様になります。

■画面に表示する内容の選択【表示項目選択】

画面上の年月日、時間、入力端子、信号名、プロジェクトIDの表示／非表示の選択です。

〔ページ2〕で目的の表示項目を選択し、〈SELECT ◀/▶〉ボタンで〔表示〕または〔非表示〕を選択します。選択するとラジオボタンが●に変わります。

よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。



■日付の表示形式を選択する【日付表示形式】

画面に表示する年月日の表示順序の設定です。

[2ページ] の【日付表示形式】で〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の日付順を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

■現在時刻を設定する【時刻設定】

現在時刻の設定です。オン/オフタイマーはこの時刻を参照しますので正しく設定してください。

[ページ2] で【時刻設定】を選択し〈ENTER〉ボタンを押します。

時刻設定画面が出ます。

1 日付を入力する

〈INPUT〉ボタンで月, 日, 年の順に入力します。

年は西暦で入力してください。曜日は自動で設定されます。

月, 日は2桁入力してください。例えば, 2月は02と入力してください。
文字カーソルの場所に数字が入力されます。1文字入力すると文字カーソルが次に移ります。

2 時刻を入力する

時刻は24時間表記です。例えば, 午後6時のときは18と入力してください。

2桁入力してください。午前2時は02と入力してください。

文字カーソルの場所に文字が入力されます。1文字入力すると文字カーソルが次に移ります。

3 決定する

時刻設定画面の【確定】を選択し〈ENTER〉ボタンを押してください。
時計が動作します。

4 【ページ2】の設定内容を決定する

【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

メニューに戻ります。



時計機能は主電源を切った後も約3日間動作します。主電源が切れた状態で約3日間を超えると時計機能はリセットされます。このときは、もう一度設定し直してください。なお、スタンバイ状態ではリセットされません。

セットアップ

■ プロジェクタの投写方法を選択【投写方法】

設置状況に合わせて選択してください。

【投写方法】で〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の投写方法を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

デスク／フロント ……テーブルに設置して前面から投写
天吊り／リア ……天井に設置して背面から投写
デスク／リア ……テーブルに設置して背面から投写
天吊り／フロント ……天井に設置して前面から投写

■ 無信号時の背景色を選択【バックグラウンド】

入力信号が無いときの背景色の設定です。

【バックグラウンド】で〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的のバックグラウンドを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

ブルーバック ……背景色が青色
ブラックバック ……背景色が黒
ロゴ ……背景にロゴを表示

■ S-ビデオモードの設定【S-ビデオモード】

S-ビデオ入力の信号判別処理の設定です。

この設定でS-ビデオ信号のアスペクト比（ズーム信号およびワイドズーム信号）の識別切り換えを可能にします。

アスペクト比 ズーム信号 16（横）：9（縦）
 ワイドズーム信号 4（横）：3（縦）

【S-ビデオモード】で〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

【Off】または【S2】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

Off ……信号を判別しません。
S2 ……ズーム信号かワイドズーム信号を判別します。

■本体操作ボタンをロックする【本体キーロック】

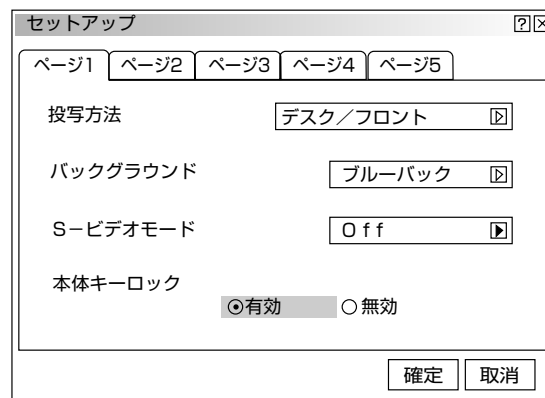
プロジェクト本体にある操作ボタンを動作しないようにします。

【本体キーロック】で〈SELECT ◀/▶〉ボタンを押して選択します。
よければ【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

- 有効 ……………本体操作部のボタンが利かなくなります。
- 無効 ……………本体操作ボタンがはたらきます。



- 本体キーがロックされていてもリモコンのボタンは動作します。
- 本体キーがロックされているときに、〈CANCEL〉ボタンを10秒間押すと、ロックが解除されます。



■RGB端子の信号モード選択【信号選択】

RGB1, RGB2の信号モードの設定です。

DVDプレーヤなどのコンポーネント出力を本機のRGB1 (INPUT1端子)、RGB2 (INPUT2端子) 端子と専用ケーブルで接続している場合などに設定します。

通常は【自動判別】を選択しておきます。

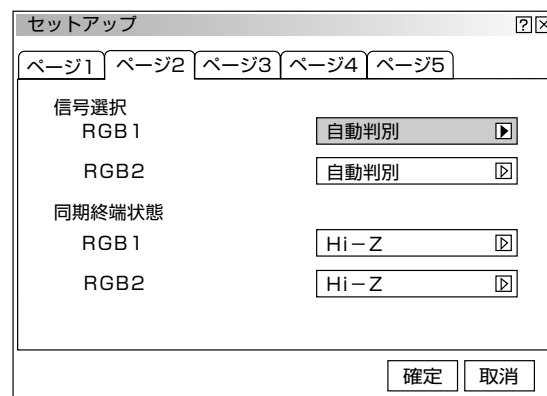
自動判別できない場合は出力機器の信号モードに合わせてください。

【ページ2】の信号選択で【RGB1】または【RGB2】を選択し、〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。
目的の信号モードを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

自動判別 ……………自動で信号を判断して切り換えます。

RGB ……………アナログRGB信号になります。

コンポーネント ……YCbCr/YPbPrなどのコンポーネント信号になります。



機器設定

■RGB端子の同期信号の終端状態設定【同期終端状態】

RGB1（INPUT1端子）、RGB2（INPUT2端子）入力のインピーダンス設定です。

パソコンなどの出力が75Ωに対応しているか、いないかの設定です。

〔ページ2〕の同期終端状態で〔RGB1〕または〔RGB2〕を選択し、〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の終端抵抗を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

メニューに戻ります。

75Ω ……接続機器の出力端子のインピーダンスが75Ωに対応しているとき

Hi-Z ……接続機器の出力端子のインピーダンスが75Ωに未対応のとき

セッティング				
ページ1	ページ2	ページ3	ページ4	ページ5
信号選択 RGB1 自動判別 RGB2 自動判別 同期終端状態 RGB1 Hi-Z RGB2 Hi-Z				
確定 取消				

■映像信号の選択

【ビデオ1／ビデオ2／S-ビデオ1／S-ビデオ2／スイッチャ】

国によってテレビジョンの映像信号方式が異なります。

ビデオ1（INPUT5端子）、ビデオ2（INPUT6端子）、S-ビデオ1（INPUT7端子）、S-ビデオ2（INPUT8端子）の信号モードの設定ができます。

〔スイッチャ〕は、スイッチャ連動モード時のビデオおよびS-ビデオ用の設定です。

〔ページ3〕の信号選択で目的の入力信号を選択し、〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の映像信号モードを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

メニューに戻ります。

自動判別 ……自動で入力信号を判断して切り換えます。

NTSC3.58 ……NTSC 3.58 モードになります。

NTSC4.43 ……NTSC 4.43 モードになります。

PAL ……PAL モードになります。

PAL60 ……PAL60 モードになります。

SECAM ……SECAM モードになります。

セッティング				
ページ1	ページ2	ページ3	ページ4	ページ5
信号選択 ビデオ1 自動判別 ビデオ2 自動判別 S-ビデオ1 自動判別 S-ビデオ2 自動判別 スwitchャ 自動判別				
確定 取消				

■画像の自動調整【自動調整（RGBのみ）】

RGB信号の表示位置とクロック周波数の調整を自動で行うか、手動で行うかの設定です。

[ページ4] で [自動調整（RGBのみ）] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ [確定] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

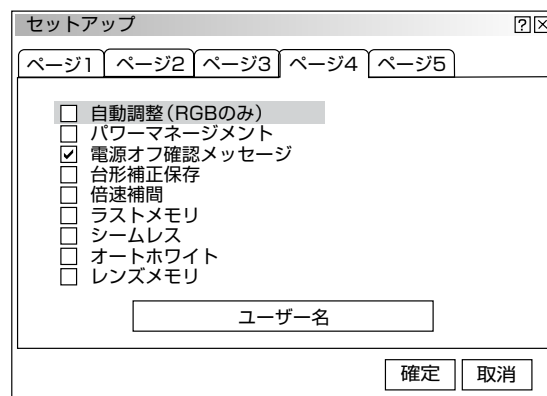
メニューに戻ります。

☒ **チェックを入れる** ……………表示位置とクロック周波数の調整を自動で行います。

☐ **チェックを入れない** ……………手動で調整できます。（64ページ参照）



- 画像によっては正しく調整できないときや信号を切り換えたとき、調整までに時間がかかる場合があります。このようなときは手動で行ってください。



■RGB入力端子無信号時に電源を切る

【パワーマネージメント】

5分以上信号入力がないと自動的に電源を切りスタンバイ状態にします。

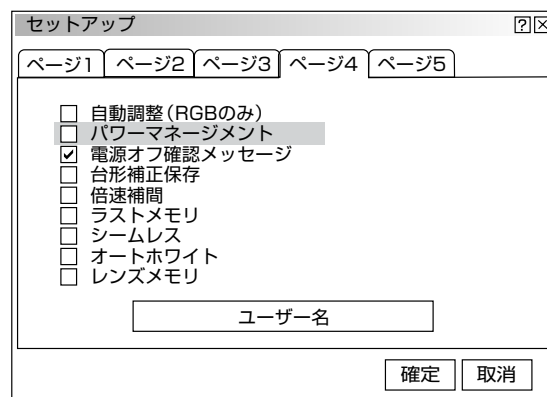
[ページ4] で [パワーマネージメント] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ [確定] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

メニューに戻ります。

☒ **チェックを入れる** ……………自動的にスタンバイ状態になります。

☐ **チェックを入れない** ……………パワーマネージメント機能は動きません。



■電源を切るとき確認表示を出す【電源オフ確認メッセージ】

電源をOFFにするとき確認表示を出します。

[ページ4] で [電源オフ確認メッセージ] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ [確定] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

メニューに戻ります。

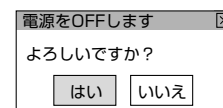
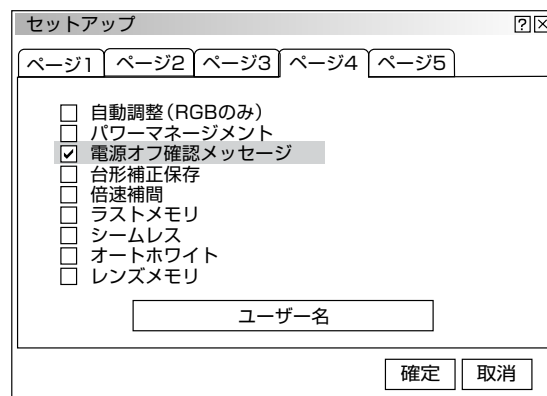
☒ **チェックを入れる** ……………確認メッセージを表示します。

☐ **チェックを入れない** ……………確認メッセージができません。

設定を有効にしたとき（チェックを入れたとき）

プロジェクトの電源を切るときに確認表示が出ます。

よければ 〈ENTER〉ボタンを押してください。確認表示が閉じてスタンバイ状態になります。



■台形補正データを保存する【台形補正保存】

【台形補正】で調整した調整値を保存します。電源を切ってもデータは失われません。

【ページ4】で【台形補正保存】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☒ **チェックを入れる** ……………調整値を上書き保存します。

☐ **チェックを入れない** ……………調整値を保存しません。

■ビデオ信号の倍速補間【倍速補間】

ビデオ入力信号の解像度をラインダブル順次走査方式で補間して、疑似的に解像度を上げます。

【ページ4】で【倍速補間】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☒ **チェックを入れる** ……………倍速補間機能を入れます。
(ノンインターレース表示)

●設定が有効になるのは、次回ビデオ信号表示からです。

☐ **チェックを入れない** ……………倍速補間機能を切ります。
(インターレース表示)

■入力信号を記憶する【ラストメモリ】

最後に入力された信号を入力端子（RGB1、RGB2、RGB3、コンポーネント（YCbCr）、ビデオ1、ビデオ2、S-ビデオ1、S-ビデオ2、RGB（デジタル）、SDI）ごとに記憶することにより、信号切り換え時間を短くします。

【ページ4】で【ラストメモリ】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ【確定】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☒ **チェックを入れる** ……………入力信号を記憶します。

☐ **チェックを入れない** ……………入力信号を記憶しません。



他社のスイッチャを接続している場合、ラストメモリがオンになっていると切り換え時に画面が乱れることがあります。そのときはオフに設定してください。

通常、プロジェクトを単体で使う（スイッチャを接続していない状態）のときは、オンにした方が切り換え時間は短くなります。

■入力切り換え時間に画像を静止する【シームレス】

入力端子の切り換え時の信号検出中に画像を静止状態にするか、消すかの選択です。

〔ページ4〕で〔シームレス〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

メニューに戻ります。

☒ **チェックを入れる** ……………画像をフリーズ状態で切り換えます。

☐ **チェックを入れない** ……………画像を消した状態で切り換えます。

■オートホワイト機能のOn／Off【オートホワイト】

パソコンの自動白調整ソフトで調整した場合に選択します。

通常はOff（チェックを入れない）にしておきます。

〔ページ4〕で〔オートホワイト〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

メニューに戻ります。

☒ **チェックを入れる** ……………オートホワイト機能が有効になります。
信号ごとの色温度調整ができなくなります。

☐ **チェックを入れない** ……………オートホワイト機能が無効になります。

■レンズメモリ機能のOn／Off【レンズメモリ】

保存されているレンズシフト・フォーカス・ズームの調整値を選択した信号に適應します。

〔ページ4〕で〔レンズメモリ〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

メニューに戻ります。

☒ **チェックを入れる** ……………レンズメモリ機能が有効になります。

☐ **チェックを入れない** ……………レンズメモリ機能が無効になります。



- レンズシフト・フォーカス・ズームの調整値は、レンズメモリ機能の有効／無効に関係なく保存できます。（70ページ参照）
- リンクモード時は、レンズメモリ機能は動作しません。

機器設定

■ユーザー名を登録する【ユーザー名】

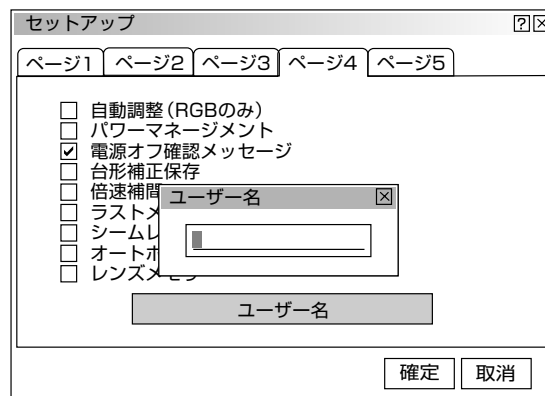
ユーザー名の登録ができます。英数字18文字まで入力できます。

[ページ4] で [ユーザー名] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押すとユーザー名入力画面が出ます。

文字入力はリモコンの〈INPUT〉ボタン (0~9) を使います。

文字入力のしかた、文字の変更／訂正／消去のしかたは61ページの「文字入力のしかた」をご覧ください。

登録が終わりましたら [確定] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。メニューに戻ります。



■通信速度の設定【通信速度】

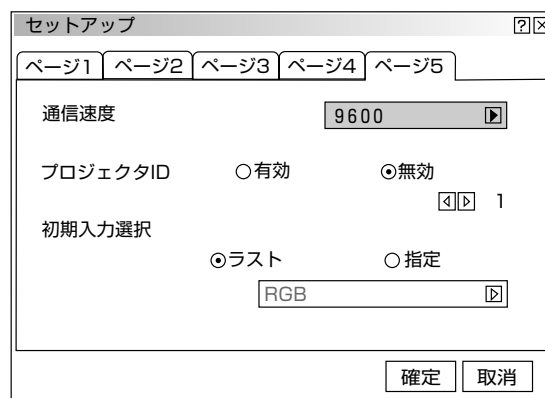
PC CONTROL端子のデータ転送速度の設定です。接続する機器と転送速度を合わせてください。

[ページ5] の [通信速度] で 〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

4800, 9600, 19200, 38400 (bps) から通信速度を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

よければ [確定] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。

メニューに戻ります。



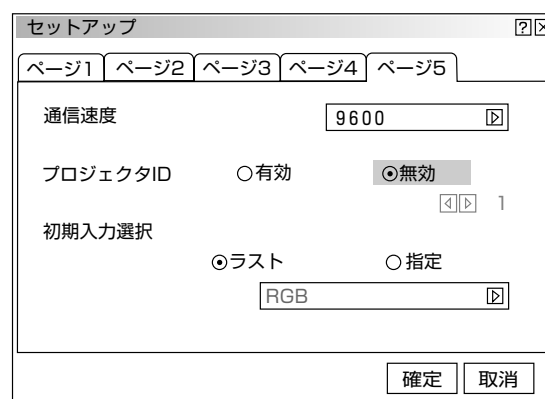
■プロジェクトのIDを設定する【プロジェクトID】

複数のプロジェクトを個別にリモコンで操作するときやリンク接続でプロジェクトを同時に制御するときなどは、プロジェクトに識別番号を設定します。1~64までIDが設定できます。

1台のみ使用の場合は無効に設定してください。

[ページ5] の [プロジェクトID] で 〈SELECT ◀/▶〉ボタンを押して選択します。

- 無効 プロジェクトを1台で使用するとき
- 有効 IDの設定をするとリモコンIDと同じIDのプロジェクトが動作します。



次ページに続く

プロジェクトIDを設定するとき

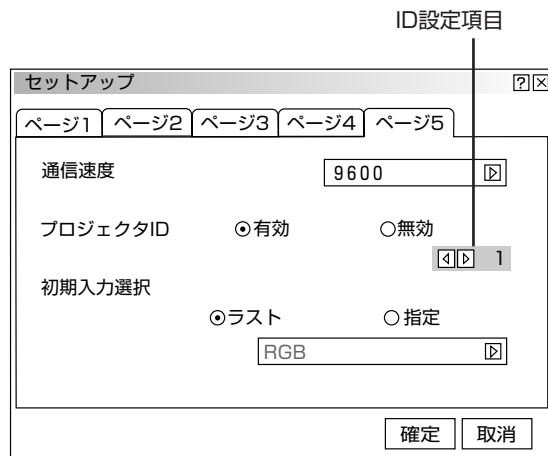
プロジェクトIDの設定は「有効」を選択し、さらに「SELECT ▼」ボタンを押してカーソルをID設定項目に移動して、「SELECT ◀/▶」ボタンで番号を選択します。

「無効」を選択したときはグレー表示になりID番号の選択できません。

よければ「確定」を選択し、「ENTER」ボタンを押します。
メニューに戻ります。



- プロジェクタを複数台使用して全てのプロジェクトのIDを「無効」に設定するとリモコンのIDに関係なく1つのリモコンで全てのプロジェクトが同時に操作できます。
- リモコンのID設定は57ページをご覧ください。



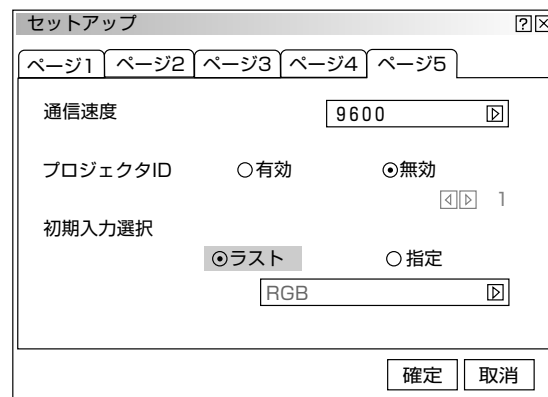
■初期入力選択の設定【初期入力選択】

プロジェクタを立ち上げたとき、どの入力信号（入力端子）にするかの設定です。

「ページ5」の「初期入力選択」で「SELECT ◀/▶」ボタンを押して選択します。

よければ「確定」を選択し、「ENTER」ボタンを押します。
メニューに戻ります。

- ラスト ……最後に映した入力信号を映します。
- 指定 ……設定した入力信号を映します。



指定を選択した場合

「SELECT ▼」ボタンで指定項目にカーソルを移動し、「SELECT ▶」ボタンでプルダウンリストが出ます。

目的の入力信号を選択して「ENTER」ボタンを押します。

「ラスト」に設定したときは指定項目がグレー表示になり選択できません。

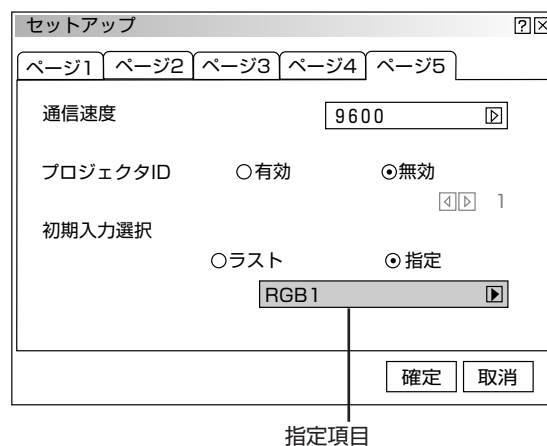
プルダウンリスト一覧

RGB1, RGB2, RGB3, コンポーネント, ビデオ1, ビデオ2, S-ビデオ1, S-ビデオ2, RGB (デジタル), SDI

「スイッチャ連動モード」を1レベルまたは2レベルに設定しているときのプルダウンリストは下記の表示になります。

スイッチャ [1レベル] 設定時 ……スロット1～10

スイッチャ [2レベル] 設定時 ……M-01 S-01 ～ M-10 S-10



リンクモード

■ リンクモードを設定する【リンクモード】

スタック設置など本機を複数台接続してマスタプロジェクト（親機）の操作のみで全てのスレーブプロジェクト（子機）を制御するときの設定です。（36ページ参照）
 この機能を使用するにはプロジェクトのRGB DIGITAL端子・OPTION端子 の接続が必要です。（47ページ参照）

<SELECT ◀/▶> ボタンで選択します。

- 非連動 ……………リンクモードを使用しない場合
- マスタ ……………マスタプロジェクトの場合
- スレーブ ……………スレーブプロジェクトの場合

リンクモード

?

×

○ 非連動

○ マスタ

○ スレーブ

リンクモードの動作状態は [ヘルプ] → [機器情報] で確認できます。（91ページ参照）

お願い

- リンク機能を動作させるには各プロジェクトの [プロジェクトID] が重複しないように設定してください。（86ページ参照）
- すべてのプロジェクトの調整状態や通信速度が一致していないと動作しません。一致させるには38ページの7・8をご覧ください。
- マスタプロジェクトを設定するとスレーブプロジェクトは操作できなくなりますのではじめにスレーブプロジェクトのリンクモード設定をし、最後にマスタプロジェクトのリンクモード設定をしてください。

リンクモード設定後の電源立ち上げについて

- リンク接続されているプロジェクトの電源をONする際は、必ずマスタ側で操作を行ってください。
 自動的にスレーブの電源が立ち上がります。
- スレーブを立ち上げてから、マスタを立ち上げると、スレーブが誤動作することがあります。

お知らせ

- リンクモード時は、レンズメモリ機能は動作しません。

スイッチャ連動モード

■ スイッチャ連動モードの設定 【スイッチャ連動モード】

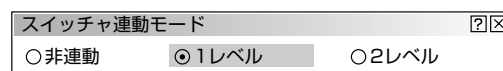
本機にビデオユニットを複数台接続した場合の設定です。この設定を行うと本機からビデオユニットの入力選択や画像調整、音量調整ができます。

本機にビデオユニット（ISS-6020J）を接続すると、多数の外部機器を接続することができます。（本機での制御は最大100チャンネル）

スイッチャ連動モードを使うには、本機とビデオユニットを接続し更にコントロールケーブルをお互いのREMOTE 1端子に接続してください。（43ページ参照）

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで選択します。

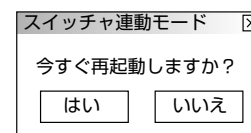
- ◎ 非連動 ……………ビデオユニットを使用しない場合
- ◎ 1レベル ……………ビデオユニットを1台使用する場合
- ◎ 2レベル ……………ビデオユニットを2台以上使用する場合



スイッチャ連動モードの変更をした場合は、再起動表示が出ます。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンで選択します。

- 【はい】 ……………本機を再起動します。
- 【いいえ】 ……………本機を再起動しません。



- スイッチャ連動モードを変更したときは必ず本機の再起動が必要です。
 【いいえ】を選択した場合は一度電源を切り（スタンバイ状態）、もう一度起動し直してください。

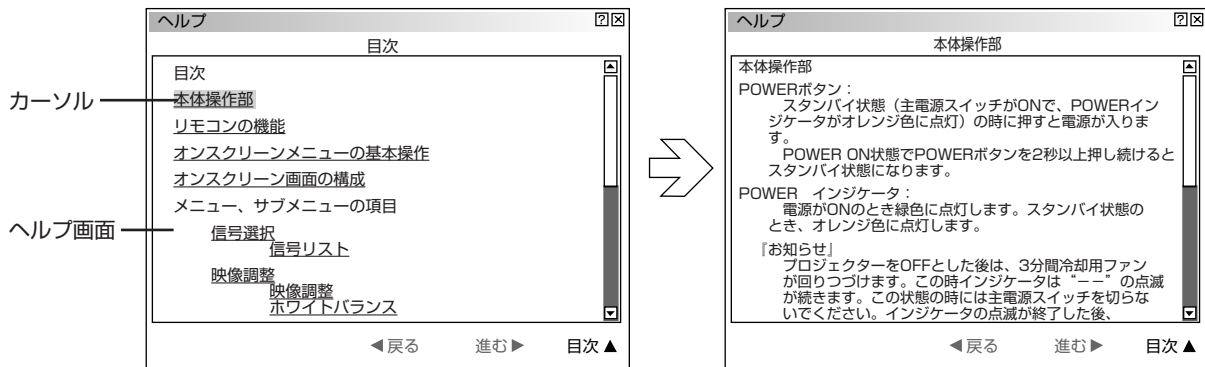
ヘルプと情報を見る

オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」(20ページ参照)をご覧ください。

■ヘルプを見る【目次】

本機の操作説明などが書かれています。

「ヘルプ」の「目次」を選択します。リモコンの〈HELP〉ボタンを押して直接ヘルプを開くことができます。



ヘルプ画面

目次や操作説明が表示されます。

〈SELECT ▲/▼〉ボタンを押すとカーソルが関連ある項目へ移動します。

下線のある単語や文にカーソルを合わせ〈ENTER〉ボタンを押すと青色の文字は関連ある項目のページに、緑色の文字は調整表示に変わります。

スクロールするとき

画面内に関連ある項目が無い場合は〈SELECT ▲/▼〉ボタンを押すと次の関連ある項目まで画面がスクロールします。

戻るとき／進めるとき

戻る／進むは、たどってきたページを戻したり、進めたりする機能です。(1ページずつ進めたり、戻したりするものではありません。)

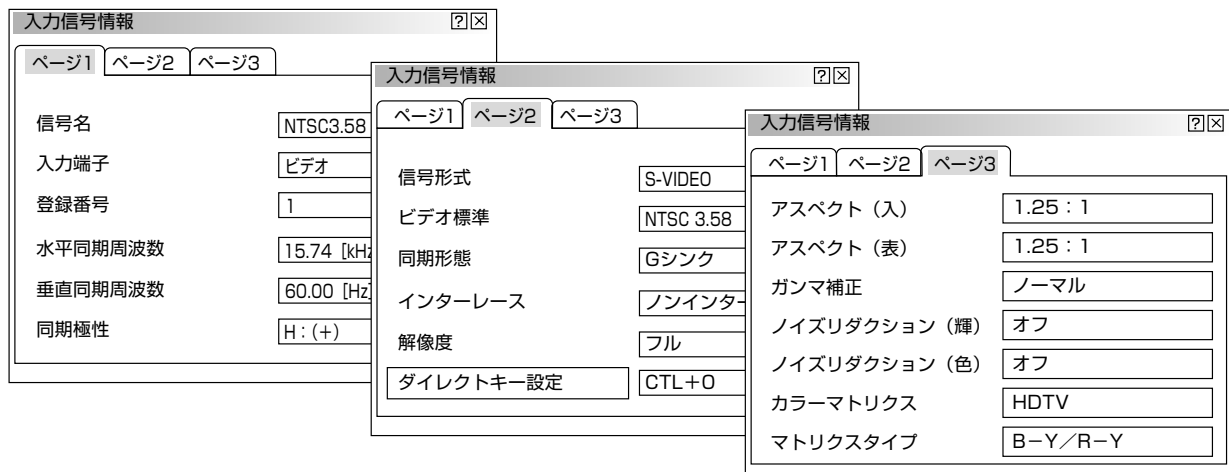
たどってきた前のページに戻るときは〈SELECT ◀〉ボタンを押します。戻る前に表示していたページを再び表示するときには〈SELECT ▶〉ボタンを押します。

■入力信号情報を見る【入力信号情報】

入力信号の詳細を表示します。

「ヘルプ」の「入力信号情報」を選択すると表示します。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンでページを選びます。

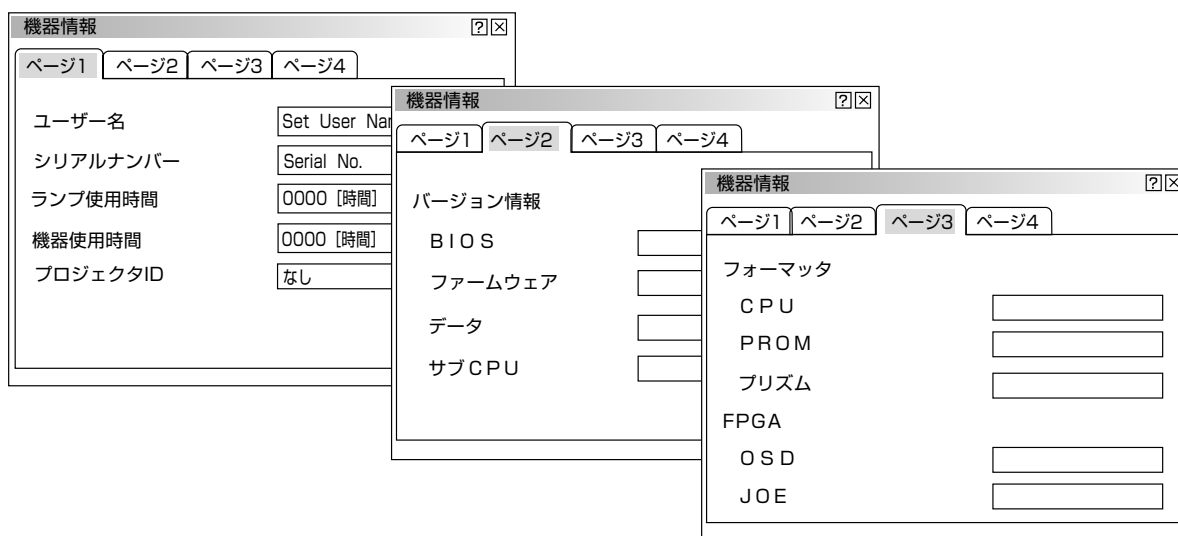


■ 機器情報を見る【機器情報】

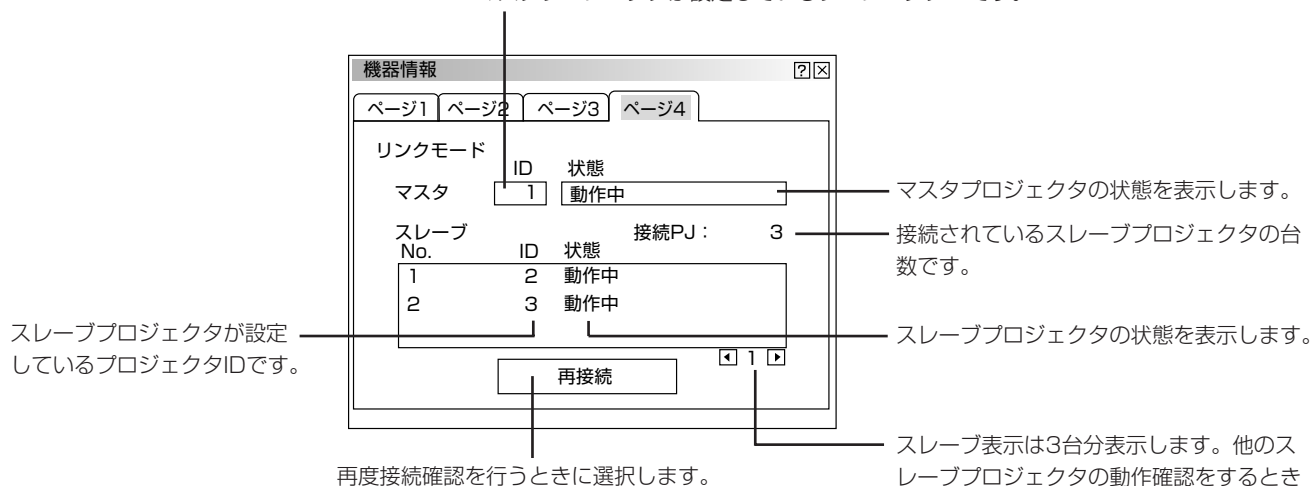
プロジェクトに関する情報を表示します。

「ヘルプ」の「機器情報」を選択すると表示します。

〈SELECT ◀/▶〉ボタンでページを選びます。



マスタプロジェクトが設定しているプロジェクトIDです。



状態表示の内容

動作中……………正常動作中です。
 ランプ冷却中……………冷却ファンが回転中です。
 エラースタンバイ……………エラーが原因でスタンバイ中です。
 スタンバイ……………スタンバイ状態です。
 接続エラー……………通信エラーなどによるエラー状態です。
 接続中……………接続確認中です。

テストパターン

オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」（20ページ参照）をご覧ください。

■テストパターンを映す【テストパターン】

フォーカス調整や映像調整などにテストパターンを使います。

5種類のテストパターンが選択できます。赤, 緑, 青のON/OFFが設定できます。

テストパターンの選択

〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的のテストパターンを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。テストパターン画面が閉じます。

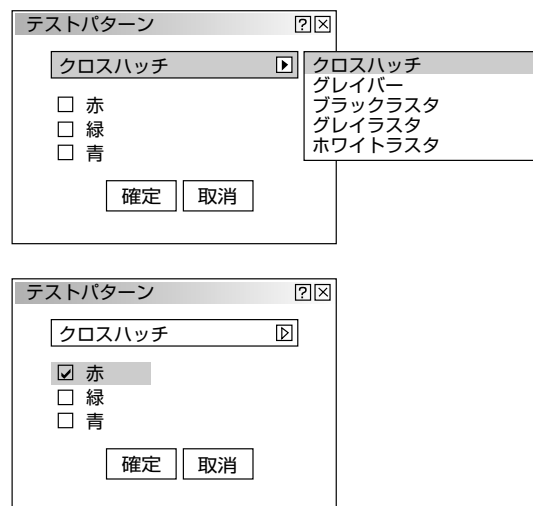
赤, 緑, 青 信号のON/OFF

目的の信号を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。

よければ〔確定〕を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。テストパターン画面が閉じます。

☒ チェックを入れる ……………ON

☐ チェックを入れない ……………OFF



故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度接続や設定および操作に間違いがないかご確認ください。

このようなとき	確認してください	参照ページ
電源が入らない	● プロジェクタはACコンセントに接続されていますか。 ● プロジェクタのPOWERインジケータは点灯していますか。 ● STATUSインジケータは点灯していますか。(スイッチャ連動モード時)。 ● ビデオユニットのスタンバイ・インジケータは点灯していますか(スイッチャ連動モード時)。 ● ビデオユニットはACコンセントに接続され、電源スイッチがON になっていますか(スイッチャ連動モード時)。 ● ケーブルがビデオユニットとプロジェクタの間で接続され、確実に固定されていますか(スイッチャ連動モード時)。 ● リモコンをワイヤードで使用する時、リモコンケーブルは接続され、プロジェクタの電源がON になっていますか。 ● リモコンをワイヤレスとして使用する時、動作有効範囲内(7m)にありプロジェクタの電源がON になっていますか。 ● 外部コントロールにて制御中ではありませんか。	31 32 — — — 43 19, 46 18 —
映像が出ない	● R、G、B、H、V のケーブルはビデオユニット出力端子とプロジェクタ入力端子との間で正しく接続されていますか。 ● 外部機器は正しく接続されていますか。 ● 外部機器はACコンセントに接続され、電源スイッチがONになっていますか。 ● リモコンの〈MUTE PICTURE〉ボタンを押していませんか。 ● 接続されている入力を選んでいませんか。 ● 画像調整の明るさ、コントラストが最小になっていませんか。 ● レンズキャップをつけたままではありませんか。 ● RGB入力の場合、画面調整を正しく行っていますか。 ● テストパターンのブラックラスタ表示中ではありませんか。または「赤、緑、青」チェックボックスが全てOFFになっていませんか。	43 40~47 — 51 48, 58 55, 62 — 51, 64 92
映像が歪む	● 正しく設置されていますか。 台形状に歪む→台形補正を行ってください。	54, 72
映像がぼやける	● レンズのフォーカスは合っていますか。 ● 投写画面とプロジェクタが正しい角度で設置されていますか。 ● 投写距離がフォーカスの範囲を超えていませんか。 ● レンズなどが結露していませんか。 気温が低い所に保管しておいて暖かい所で電源を入れるとレンズや内部の光学部が結露することがあります。このような場合は結露がなくなるまで数分お待ちください。	53 34, 35 29 —
水平または垂直方向に映像がずれて正常に表示されない	● 画面の水平位置、垂直位置を正しく調整しましたか。	64
RGB 入力で文字がチラついたり色がずれている場合	● クロック周波数と位相を調整してください。	64

故障かな？と思ったら

このようなとき	確認してください	参照ページ
リモコンで操作できない	● 電池が消耗していませんか。新しい乾電池を2 個とも取り替えてください。 ● ワイヤレスとして使用しているときはリモコンとプロジェクタ本体のリモコン受光部の間に障害物はありませんか。 ● ワイヤレスとして使用しているとき、有効範囲（7m）を超えていませんか。 ● プロジェクタのID とリモコンのID を同じ番号に設定していますか。または、リモコンID を「なし」に設定していますか ● ワイヤードとして使用しているとき、リモコンケーブルは接続されていますか。	18 — 18 57, 86 19, 46
オンスクリーンメニューが表示されない	● 〈CTL〉 + 〈MUTE OSD〉 ボタンによる強制ミュート中ではありませんか。	51
電源がかってにオン／オフしてしまう	● タイマーを設定していませんか。	74, 75

■登録されている信号と、水平・垂直同期周波数が近似した他の信号を入力した場合

すでに登録されている信号と認識されるため、正しく表示されない場合があります。（その時、自動調整を実行しても正しく表示されない場合があります。）

両方の信号を使用するときは、入力端子を別々（RGB1/RGB2/RGB3）にするか、信号ごとにダイレクトキーを設定して切り換えるようにしてください。

●信号別にダイレクトキーを設定するには以下の手順で行います。

1 信号リスト上で、すでに登録している信号を削除する

- 1) 投写中の信号は削除できないためすでに登録している信号以外の信号に切り換えます。
- 2) リモコンの〈ENTRY LIST〉ボタンを押します。
- 3) すでに登録している信号を選択後に、リモコンの〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押します。信号編集コマンド画面が表示されますので、[カット] ボタンを選択して〈ENTER〉ボタンを押します。信号が削除されます。（信号データがクリップボードに保存されます）

2 追加する信号を入力し、登録する

〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTRYLIST〉ボタンを押して登録します。

3 1項で削除した信号を貼り付ける

- 1) 信号リスト上の空欄行を選択します。
- 2) 〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押して、信号編集コマンド画面を表示させます。
- 3) [貼付け] ボタンを選択して〈ENTER〉ボタンを押すと、クリップボードの信号が信号リストに追加されます。

4 信号リストに登録された信号にそれぞれダイレクトキーを割り当てる

- 1) 信号リスト上で信号を選択し、〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押して信号編集コマンド画面を表示させます。
- 2) [編集] ボタンを選択してENTERボタンを押して、信号編集画面を表示させます。
- 3) [ダイレクトキー設定] ボタンを押して、ダイレクトキー設定画面を表示させます。
- 4) ダイレクトキーを割り当てます。



上記1から3の操作中は、電源を切らないでください。途中で電源を切ると、クリップボードに保存されたデータ内容が消去されます。詳しい信号リストの編集方法については、59ページをご覧ください。

お手入れについて

お手入れの前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■キャビネットのよごれは……

- 毛羽立ちのすくない柔らかい乾いた布でふいてください。
汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
化学ぞうきんを使用する場合は、その注意書にしたがってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤でふかないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。
- 通風孔のほこりを取り除く場合は、掃除機のブラシ付きのアダプタを使用して吸い取ってください。なお、アダプタを付けずに直接当てたり、ノズルアダプタを使用することはさけてください。
- 通風孔にほこりがたまると、空気の通りが悪くなり内部の温度が上昇し故障の原因となりますので、こまめに掃除をしてください。設置場所にもよりますが100時間を目安に掃除をしてください。
- キャビネットを爪や硬いもので強くひっかいたり、当てたりしないでください。傷の原因となります。

本体内部の掃除については、お買いあげの販売店またはNECフィールディングの支店・営業所にお問い合わせください。

■レンズのよごれは……

- カメラのレンズと同じ方法で（市販のカメラ用ブローワーやメガネ用クリーニングペーパーを使って）クリーニングしてください。その際、レンズを傷つけないようご注意ください。

キャビネットやレンズおよびスクリーンに殺虫剤など揮発性のものをかけたりしないでください。
また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

仕 様

投写方式		3チップDMD™ 反射方式（DLP™ 方式）*1
パネル解像度		1280×1024（アスペクト比 5：4）
光出力（AC 200～240V 電源の場合）		SX6000DJ：5000ANSI ルーメン（高輝度モード） SX4000DJ：3500ANSIルーメン（最大）
ランプ		1.0kW キセノンランプ（最大 1.25 kw）
コントラスト比		800：1（Full ON/OFF）
水平走査周波数		15～107kHz
垂直走査周波数		24～105Hz（水平方向 83.5kHz 以下の場合）
ピクセルクロック		最大200MHz
最大表示解像度		1600×1200（アドバンスドアキュブレンド使用時）
入力信号	RGBHV	RGB：75Ω 0.7Vp-p 正極性
		Y：75Ω 1.0Vp-p 正極性（With Sync）
		Cr/Pb, Cb/Pr：75Ω ±0.35Vp-p
		H/V Sync：1kΩ/75Ω（選択）
		Sync on G：75Ω 0.3Vp-p 負極性
	コンボジットビデオ	75Ω 1.0Vp-p
	Sビデオ	Y：75Ω 1.0Vp-p 負極性（With Sync） C：75Ω 0.283Vp-p
	HDTV信号	1080i/720p/480p（アスペクト比 16：9）入力可能（代表例）
デジタルインターフェース	RGBデジタル	TMDS準拠
	オプション SMPTE259M SDIフォーマット（D1）	[XT SDI BOARD] LevelC 4:2:2 525 / 625component
	オプション SMPTE292M SDIフォーマット（D5）	[SX HDSOI]
オンスクリーン		ブルダウンメニュー方式
スクリーンサイズ		80～500型
電動レンズ調整機能		レンズシフト（縦／横）、ズーム*2、フォーカス（個別メモリ可能）
上下方向台形歪み補正機能		±7.5度
設定メモリ		100種類記憶可能
入力端子	RGB／Y, Cb/Pb, Cr/Pr	2（BNC）
	RGB, H(HV), V	1（D-Sub mini 15pin）
	Y Pb Pr／Y Cb Cr	1（RCA）
	ビデオ	（RCA）×1,（BNC）×1：NTSC／PAL／SECAM
	Sビデオ	1（S-Video Terminal）：NTSC／PAL／SECAM 1（2BNC Terminal for Y, C）：NTSC／PAL／SECAM
デジタル インターフェース端子	RGBデジタルインターフェース	入力1 DVI-Dコネクタ（24pin type） 出力1 DVI-Dコネクタ（24pin type）（出力はTMDS 非完全互換）
	オプション SMPTE259M SDIフォーマット（D1）	[XT SDI BOARD] 入力1（BNC）、モニタアウト1（BNC）
	オプション SMPTE259M SDIフォーマット（D5）	[SX HDSOI] 入力1（BNC）
制御信号入出力	外部制御/ISS-6020Jインターフェース	D-Sub 15pin：／最大100入力可能（ISS-6020J11台使用時）
	パソコン制御	D-Sub 9pin：IN/OUT 各1
	リモコン	ミニジャック：IN/OUT 各1
電源電圧・消費電力		AC200～240V 単相：1.7kw/AC100～120V*3 単相最大12A（自動制限）
外形寸法		576（幅）×682（奥行）×300（高）mm （ハンドル・フット受け・突起部を含まず。レンズフード・アジャスタを含む。）
質量		約43kg（レンズ除く）
使用環境	温度	5～35℃
	湿度	20～80%（結露なきこと）
	保存温度	－10～50℃
添付品		取扱説明書、ワイヤレス/ワイヤードリモコン、リモコンケーブル、リモコン用電池、DVI-Dケーブル（2m：SX6000DJのみ）、電源コード3m、PCカードアダプタ、コンパクトフラッシュカード（8M）

*1 打ち上げ角度が0度の場合のRGBのコンバーゼンス（画素ずれ）

SX6000DJ…センター：3/4画素以下、周辺：1画素以下

SX4000DJ…センター：1画素以下、周辺：各々2色間の画素の間にすきまがないこと

*2 ズーム付レンズは水平±15° で使用することをお薦めします。

*3 AC100～120Vの場合は、光出力は上記スペック値以下となります。

● この仕様・意匠はお断りなく変更することがあります。

付 録

対応信号一覧

信 号	解像度 (横×縦)	走査周波数	
		水平 (kHz)	垂直 (Hz)
ビデオ (NTSC)	640 × 480	15.734	60.0
ビデオ (PAL/SECAM)	768 × 576	15.625	50.0
ビデオ (HDTV)	640 × 480p	31.5	60.0
	1280 × 720p	45.0	60.0
	1920 × 1035i	33.75	60.0
	1920 × 1080p	28.13	25.0
	1920 × 1080p	33.72	30.0
	1920 × 1080i	28.13	50.0
	1920 × 1080i	33.75	60.0
	1920 × 1080i	26.97	47.95
	1920 × 1080p	26.97	23.98
PC-98NXシリーズ IBM PC/AT対応機 DOS/V対応機	640 × 350	31.5	70.0
	640 × 400	37.9	85.0
	720 × 400	37.0	85.0
	640 × 480	31.5	60.0
	640 × 480	37.9	72.8
	640 × 480	37.5	75.0
	640 × 480	43.3	85.0
	800 × 600	35.2	56.3
	800 × 600	37.9	60.3
	800 × 600	48.1	72.0
	800 × 600	46.9	75.0
	800 × 600	53.7	85.0
	1024 × 768	48.4	60.0
	1024 × 768	56.5	70.1
	1024 × 768	60.0	75.0
	1024 × 768	68.7	85.0
	1152 × 864	67.5	75.0
	1280 × 960	60.0	60.0
	1280 × 1024	64.3	60.0
	1280 × 1024	80.0	75.0
	1280 × 1024	91.1	85.0
	1600 × 1200	75.0	60.0
	1600 × 1200	81.3	65.0
	1600 × 1200	87.5	70.0
	1600 × 1200	93.8	75.0
	1600 × 1200	106.3	85.0
Apple Macintosh®	640 × 480	34.9	66.6
	832 × 624	49.7	74.6
	1024 × 768	60.2	74.9
	1152 × 870	68.7	75.6
	1280 × 1024	64.3	60.4
	1280 × 1024	74.9	69.9
EWS-4800シリーズ	1280 × 1024	64.6	59.9
	1280 × 1024	75.1	71.2
HP	1280 × 1024	78.1	72.0
SUN	1152 × 900	61.8	66.0
	1280 × 1024	81.1	76.0
SGI	1024 × 768	49.7	60.4
	1152 × 900	71.7	76.1
	1280 × 1024	63.9	60.0

※
※
※
※
※

S-XGA信号以外はアドバンスド・アキュブレンドでの表示となります。
 網かけ部分の信号はRGBデジタル入力可能な信号です。SX4000DJは対応していません。
 ※印の信号は、アドバンスド・アキュブレンドに加え、アナログ間引きで表示されるため
 簡易表示となります。

リンクモードでの調整可能機能一覧

リンクモードで調整可能な機能は、下記の表を参照ください。

- デジタル入力でリンク可能な信号は、VGA 60Hz ~ SXGA 75Hz のインターレースを除く VESA フォーマットです。
- マスタにアナログ入力を接続し、スレーブにデジタル出力が可能な信号は SVGA 85Hz, XGA (60Hz, 70Hz, 75Hz, 85Hz), SXGA (60Hz, 75Hz) のインターレースを除く VESA フォーマットです。
- ビデオ (NTSC, PAL, SECAM)、YCbCr (50/60Hz)、480p、720p、SDI (525/625) の信号も可能です。それ以外の信号は、市販の分配器を使用して各プロジェクタの端子に接続してください。

お知らせ： SX4000DJ はアナログリンクのみ対応しています。

機 能				リンクモード	備考
メニュー	信号選択			L	位相調整のみ
	信号調整	映像調整		L	
		ホワイトバランス		L	
		画像	画素調整	L	
			表示位置	N	
			アスペクト	L	
			解像度	L	
			オーバースキャン	L	
			ビデオ帯域フィルタ	L	
			ブラッキング	N	
			画質調整		
		オプション調整		N	
		レンズメモリ		N	
		信号形式		N	
		スイッチャ		N	
	機器調整	台形補正		N	
		ランプ		N	
		基準ホワイトバランス		N	
	データリセット			N	
	機器設定	タイマー		L	
メニュー 設定		M			
セットアップ		N			
リンクモード		M			
スイッチャ連動モード		N			
ヘルプ			M		
テストパターン			N		
ダイレクトキー	LENS SHIFT	[本体キー]	I		
		[リモコン]	N		
	FOCUS	[本体キー]	I		
		[リモコン]	I		
	ZOOM	[本体キー]	I		
		[リモコン]	I		
	MENU	[本体キー]	L (*1)		
		[リモコン]	L (*1)		
	POWER	[本体キー]	L (*2)		
		[リモコン]	L (*2)		
	POWER ON	[リモコン]	L (*2)		
	POWER OFF	[リモコン]	L (*2)		
	INPUT	[リモコン]	L (*1)		
	MUTE(PICTURE)	[リモコン]	L (*1)		
	MUTE(SOUND)	[リモコン]	L (*1)		
MUTE(OSD)	[リモコン]	L (*1)			
AUTO	[リモコン]	N (*3)			
TEST	[リモコン]	N			
PCコントロール	全般		特に制限なし。基本的に上記仕様に従います。		

上記表中の文字の意味は下記のとおりです。

	マスタ	スレーブ
L	有効	リンク
N	無効	無効
M	有効	無効
I	個々に調整可能	個々に調整可能

*1 リンク中のスレーブ機においては個々での調整不可

*2 リンク中のスレーブ機においても個々での調整可

*3 [セットアップ] → [自動調整] 機能も無効

レンズメモリ機能のフォーカス調整について

本機のレンズメモリ機能を最大限に発揮させるため、フォーカス調整に関して留意すべき事項を説明します。

フォーカス調整方法により、レンズメモリ機能のフォーカス精度が変わります。
最適なフォーカス精度を得るために以下の手順に従ってください。なお、ズームおよびレンズシフト調整は通常の手順とおりです。
調整値を保存する方法は70ページ「レンズメモリ」の項をご覧ください。

準備 (推奨): プロジェクタを約1時間ヒートランさせ、十分にプロジェクタをウォームアップします。

フォーカスの調整手順

1 フォーカス状態 (実力) を確認する

本体またはリモコンの〈FOCUS〉ボタンにて+ (プラス) 方向と- (マイナス) 方向に動かし、フォーカスの状態 (実力) を確認します。

2 フォーカスをずらす (調整の準備)

ピクセルの格子が確認できないくらいにフォーカス調整を- (マイナス) 方向に動かします。

3 フォーカスを最適にする

+ (プラス) 方向のみで調整を終えるようにし、調整値を保存します。+ (プラス) 方向でフォーカス最良点を超えた場合は、手順の**2**に戻り、再度調整を行ってください。



レンズメモリ機能は、オプションレンズのTL-1Z, TL-1ZH, TL-1ZX, TL-1ZHX, TL-2ZおよびTL-2ZX装着時に有効です。
レンズメモリ機能は、リンクモード時は無効です。



XT SDI BOARD (SDIインターフェースボード)
SX HDSDI (HDSDI インタフェースボード)
XT CMKIT (天井用取付けユニット)
オプションレンズ TL-08SF (Short Focal Lens 0.84) TL-1Z/1ZH/1ZX/1ZHX (Zoom Lens 1.5~2.5) TL-2Z/2ZX (Zoom Lens 2.5~4.0) TL-4Z (Zoom Lens 4.0~7.0)
ISS-6020J (ビデオユニット)

レンズ仕様

型名	倍率	寸法 (mm)	質量(kg)
TL-08SF	0.84	φ215×402.4	約10.0
TL-1Z/1ZH/ 1ZX/1ZHX	1.5~2.5 : 1	φ149×298	約5.6
TL-2Z/2ZX	2.5~4.0 : 1	φ120×335	約4.5
TL-4Z	4.0~7.0 : 1	φ120×335	約5.5

■SDIインターフェースボードのご紹介

本プロジェクトにはSDI (Serial Digital Interface) 信号を入力するためのオプションボード (別売) を用意しています。これらオプション品のお求めなどに関するお問い合わせは、プロジェクトを購入した販売店にご相談ください。

1 SDTV用シリアルデジタルインターフェースボード

製品名 : XT SDI BOARD

製品コード : 01165001

このボードはSMPTE 259M レベルC 規格準拠のSDTVデジタルシリアルコンポーネント信号 (270Mbit/s、525/625コンポーネントSDI信号) を受信するためのインターフェースボードです。

SDI入力端子に使用するBNC ケーブルは、Belden 8281ケーブル、または3C-2Vケーブル同等品以上をご使用いただくことを推奨します。

このオプションボードのパッケージには以下のものが含まれます。

SDI ボード本体 (1 個)、シールドケース (1 個)、コネクタケーブル (1 本)、取付説明書 (1 枚)

2 HDTV用シリアルデジタルインターフェースボード

製品名 : SX HDSDI

製品コード : 01165010

このボードはSMPTE 292M 規格準拠のHDTVデジタルシリアルコンポーネント信号 (1.485Gbit/s SDI信号) を受信するためのインターフェースボードです。

本インターフェースボードは次の映像フォーマットに対応しています。

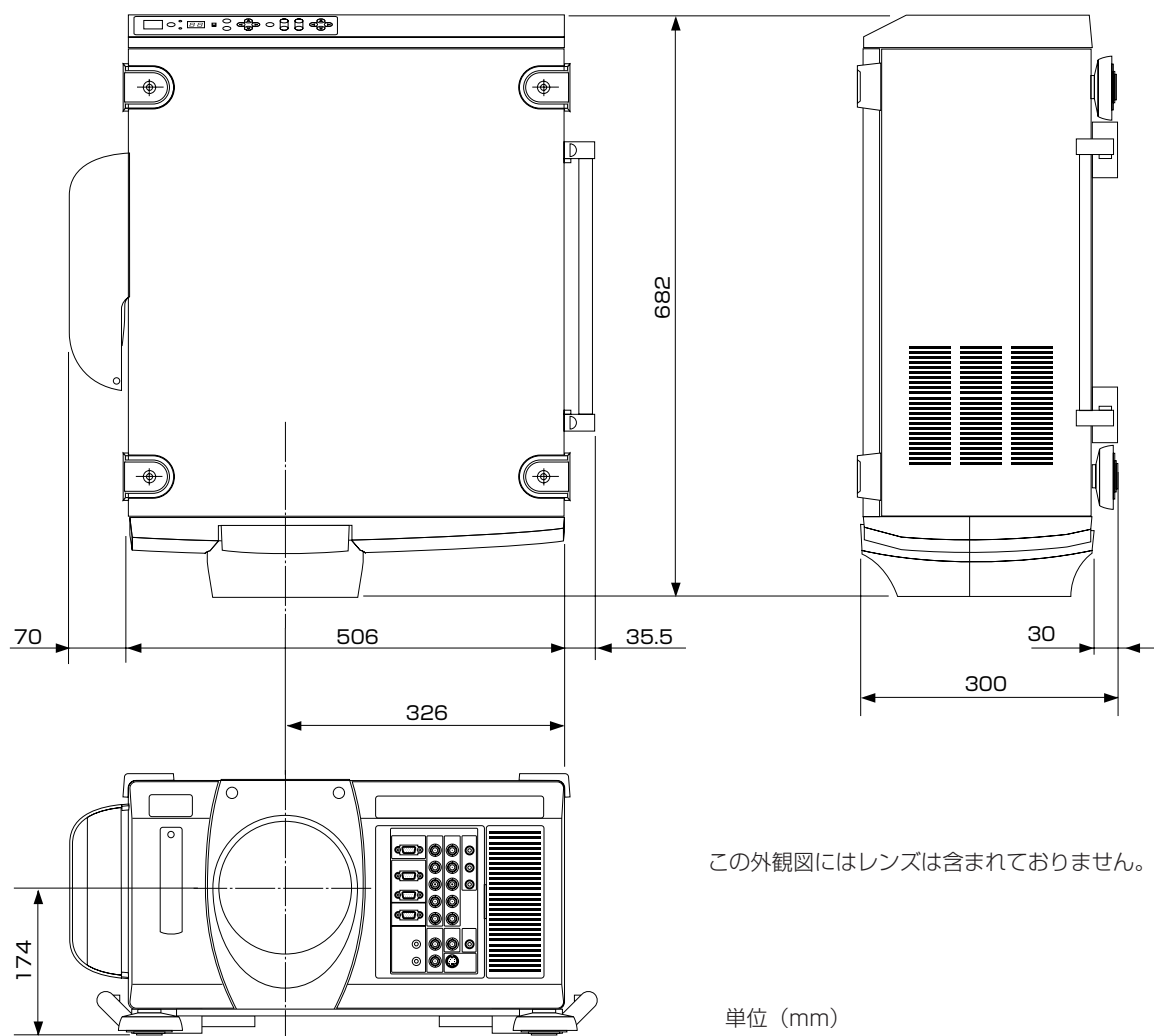
システム名称	アクティブ1ラインのサンプル数	1フレームのアクティブライン数 (本)	フレームレート (Hz)	スキャニングフォーマット	サンプリング周波数 (MHz)	1ラインの全サンプル数 (ドット)	1フレームの全ライン数 (本)
1920×1035/60/2 : 1	1920	1035	30	2 : 1インターレース	74.25	2200	1125
1920×1080/60/2 : 1	1920	1080	30	2 : 1インターレース	74.25	2200	1125
1280×720/60/1 : 1	1280	720	60	プログレッシブ	74.25	1650	750
1920×1080/24 (sF)	1920	1080	24	プログレッシブ	74.25	2750	1125

SDI 入力端子に使用するBNC ケーブルは、5C-FB ケーブル同等品以上をご使用いただくことを推奨します。

このオプションボードのパッケージには以下のものが含まれます。

HDSDI ボード本体 (1 個)、シールドケース (1 個)、コネクタケーブル (2 本)、フラットケーブル (1 本)、取付説明書 (1 枚)、シールドケース固定用ネジ (2 個)

外 観 図



保証と修理サービス (必ずお読みください)

保証書	補修用性能部品の最低保有期間	ご不明な点や修理に関するご質問は
この商品には、保証書を別途添付しております。 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと大切に保存してください。	当社は、このプロジェクトの補修用性能部品を製造打切後、最低8年保有しています。 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。	製品の故障、修理に関するご質問はお買い上げの販売店またはNECフィールドディング株式会社の支店・営業所をお願いいたします。 各地の支店・営業所については、別紙一覧表をご覧ください。
——保証期間—— お買い上げ日から1年間です。 ただし、ランプは1000時間または90日以内でいずれか早く達した方の点灯しない場合のみ対象		

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」(93ページ)に従って調べていただき、なお異常があるときは、電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間がすぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品 名	高輝度DLP™ プロジェクタ
形 名	SX6000DJ / SX4000DJ
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども合わせてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

べんりメモ	お買い上げ店名	☎ () -
-------	---------	---------

修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
+	
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
+	
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。 別途、駐車料金をいただく場合があります。

愛情点検

長年ご使用のプロジェクトの点検をぜひ!

熱・湿気・ホコリなどの影響や、使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。



このような
症状は
ありませんか

- 電源スイッチを入れても映像が出ない。
- 上下、または左右の映像がかけて映る。
- 映像が時々、消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源スイッチを切っても、映像が消えない。
- 内部に水や異物が入った。



ご使用
中止

故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店にご相談ください。

NECビューテクノロジー株式会社

〒108-0014 東京都港区芝五丁目37番8号 住友三田ビル

営業本部 国内営業部

☎(03) 5232-6148 (ダイヤルイン)

7N8P1671